2025年12月1日発行
（毎月1回1日発行）（80巻12号）
ISSN 0035-7774

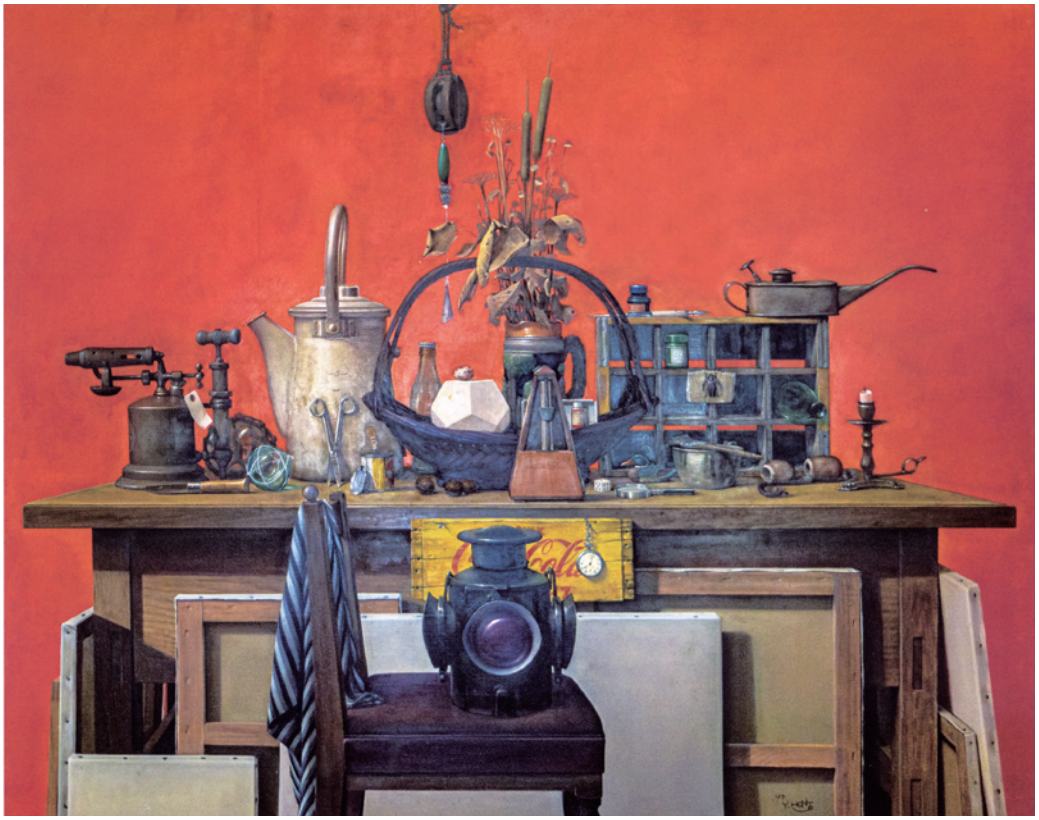
Digest of Science of Labour

労働の科学

December 12

2025

Vol.80, No.12



古物集合体「五角十二面体」／本城義雄

特集

企業の明日に会いに行く(3)

ライフステージが変わっても働き続けられる職場を実現／
エヌエス・テック株式会社

巻頭言

後継者不足による農家の消滅と飢餓の処方箋
宇土 博

連載

労研アーカイブを読む⑱
椎名和仁

凡夫の安全衛生論議⑲
福成雄三

芸能従事者の今㉗
森崎めぐみ

株式と労働③
坂本恒夫

タイプライターの歴史とタイピスト㉒
三宅章介

大原記念労働科学研究所

因果推論と構造推定で環境政策に確かなエビデンスを!



新しい環境経済学

小西祥文[著]

●3,630円

実証ミクロアプローチ

環境政策の効果を測り、望ましい制度を設計するための実証経済学を体系的に解説。豊富な演習とウェブ付録で、実践的にサポート!

「回復」という毒

風間 暁[著]

支援に埋め込まれた構造的暴力

大人に抵抗し、薬や自傷に頼り、それでも私は「回復」していた——。サバイバーが鋭く突きつける、「支援とは何か」という問いの刃。 ●2,420円



推薦! 信田さよ子氏(原宿カウンセリングセンター顧問)
形式と欺瞞に満ちた専門家をばっさりと切る!
当事者が捨て身で投下した爆弾のような一冊をあなたは読めるか?

ビジネス・エコノミクス

石川竜一郎[著]

●2,750円



デジタル化・AI化・プラットフォーム化が進む現代のビジネスをミクロ経済学の視点で読み解く。トヨタやユニクロ、GAFAMのリアルなケースで学ぶ使える経済学。

対話を治療にする シンプル精神療法

宋 大光[著]

治療の目標は、症状の消失や問題の解決よりも、目の前にいる人が楽になること。どんな相談者にも短時間でも役立つシンプルな技法! ●2,750円



三菱マテリアル 中国人強制連行・強制労働 訴訟と和解、追悼の記録

●3,300円

中国人強制連行・強制労働事件全国弁護団[編]

中国人強制連行・強制労働を巡る三菱マテリアルの責任と補償を求める訴訟、それを認めさせた和解、その後の慰霊事業をまとめた記録集。

こころの科学 HUMAN MIND 249号

2026.9 Sep

●1,496円



特別企画 外見へのこだわり

SNS時代の不安と向き合う 永田利彦[編]

醜形恐怖の裾野が広がる一方、外見美への関心が高まり続ける現代社会。SNSを通じて強まる生きづらさの理解と援助を考える。■外見美の社会学・心理学 ほか

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 TEL:03-3987-8621 https://www.nippyo.co.jp/

※表示価格は税込価格です。

大原社会問題研究所雑誌

810号 2026年4月号 定価1,100円(本体1,000円+税10%) 年間購読13,200円(税込)

【特集】第38回国際労働問題シンポジウム
プラットフォーム・エコノミー ——新しい経済と私たちの働き方

特集にあたって 藤原千沙
2025年第113回ILO総会より「Realizing decent work in the platform economy」について
政府の立場から 加藤正嗣
労働者の立場から 斉藤俊和
使用者の立場から 坂下多身
プラットフォーム経済においてディーセント・ワークを実現するために,何ができるか
プラットフォーム労働とワークルールの課題 沼田雅之
スキマバイトの光と影——自由と引き換えの不安定を体験して 黒川伊織
ディスカッション

■書評と紹介
小野坂元著『ILOの対中関与と上海YWCA——労働と平和の国際機構間関係史1919–1946』 帯谷俊輔
高畑幸著『在日フィリピン人社会——1980～2020年代の結婚移民と日系人』 竹ノ下弘久
掛貝祐太著『財政民主主義の地平——スイスの自治・多様性・直接民主主義』 諸富 徹
吉田航著『新卒採用と不平等の社会学——組織の計量分析が映すそのメカニズム』 神林 龍

社会・労働関係文献月録/『大原社会問題研究所雑誌』2025年度総目次/月例研究会 浜 恵介/所報 2025年12月

発 行/法政大学大原社会問題研究所
〒194-0298 東京都町田市相原町4342 Tel 042-783-2305 https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/

後継者不足による農家の消滅と飢餓の処方箋

――人間工学の軽労働化で全員参加型の農業再生を――

宇土 博



うど ひろし
ウド・エルゴ研究所長
友和クリニック院長

本誌に２０２３年から「軽労働化で農業再生」を執筆しました。２００４年にネギ栽培の人間工学対策を契機に、広島県農技センターの今井次長に出会い、人間工学の農業軽労働化に携わりました。当時から後継者不足で農家消滅が指摘され、軽労働化による離農予防は農業指導の方針でした。この間、軽労働化が進むも、農家消滅が速く危機は深刻化しています。今井氏は、「農業は国の宝であり、ないがしろにすると国が亡びる」と話されました。店に食品が溢れていますが、農家が消滅すれば棚から食料が消えます。

今回の執筆の契機は、２０２３年９月の日経新聞、〈１億人の未来図……農家の８割が減る「主食イモ」覚悟ある？〉です。２０２０年の農家戸数１０７万戸が２０５０年に17万戸に激減し、米や野菜の作り手が消滅する衝撃的な内容です。さらに、東京大学の農業経済学の鈴木氏の農家消滅に対する処方箋「『半農』増やし、みんなで農業」が掲載されたことです。半農は、国民全体が生業と合わせ半分農業に従事し農家消滅を乗り越える提案です。

農家の消滅

現在の農家の平均年齢は約70歳で、25年後には、確実に約95歳になり農家は消滅します。これに対して①大規模農業化と機械化、ＤＸ化、②企業参入の方針があります。鈴木氏は、この施策は一部地域では可能だが、我国に多い中山間地・小規模農地の特性に合致しないと指摘します。

食糧輸入に頼れない

我が国は、高度経済成長期を境に、明治からの工業立国政策（殖産興業）を一挙に進め農業国から工業国に舵を切り、農業放棄の政策を進めました。工業で収入を得て、食料輸入する戦略です。そのツケが、主要先進国では韓国と並び低い食料自給率38％に現れています。同じ島国の英国の自給率は70％です。英国は、第一次、第二次大戦の食糧危機を教訓に、戦後は国策として国内農業を保護・育成する方針を固め堅持しました。また、英国では、平地農地面積が約１０００万ｈで、我が国の２５０万ｈに比して４倍広く、大規模農業化、機械化が普及し、高い自給率を保障しています。我が国と欧米の自然条件の違いを無視した大規模農業化は限界があります（鈴木）。

また、我国は、欧米に比し農業保護が乏しいとされます（鈴木氏２０２６／３／２農業新聞）。

欧米では、農家の生産コストと市場価格の差額を農家に直接補助して農家の生計を維持し、後継者に繋げています。我が国農業は過保護というのは誤りです。農家の消滅で食料自給率は２０５０年には20％以下、最悪10％を切ると指摘されます（鈴木氏）。

輸入食糧への依存は、戦争や干ばつでの輸入の途絶で飢餓のリスクがあります。自給率20％ではこれを乗り越えることはできません。打開するためには、食料自給率を70％程度まであげることが必要です。

半農半工の実現性

人間工学の原理は、人の特性に環境を合わせることです。これを敷衍すると、我が国の農地の特性に合わせた農業が最も生産性が高くなり、これを無視した全面的な大規模農業化は無理があります。鈴木氏は、大規模農業に対して、我が国に適した国民全員が家族食料を自給する小規模農業を提案します。これは、戦後の食糧難で経験済みのものです。私たち団塊の世代は、幼少期にこれを経験し、ノウハウも持っています。団塊の世代は、現在約600万人弱であり、77歳から79歳の彼らが先頭に立てば、半農は実現可能で、孫子に引き継げば新規参入も可能です。週3日～5日、工業で働いて、残りの2日を自給の農業にあてることは心や体の健康を促します。多くの団塊の世代は、実際に半農を行っています。

人間工学で農業の軽労働化

農業の隘路は、古代より筋骨格系への負担です。腱鞘炎や腰痛は農業の継続を阻害し、新規参入を妨げます。今井氏が切望した人間工学の農業軽労働化により、負担無く農業を楽しむ作業環境の整備が不可欠です。軽労働化は、全員参加型の半農と結びつくことで現在の危機をしのげる可能性があります。人間工学は、半農に寄与できると考え、農業への体系的な人間工学の応用をお話ししました。

農業は野菜を育てる喜びと同時に、風雨、日照、炎天、干ばつ、害虫との戦い、連作の害、低い地面を相手の手ごわい労働でもあります。これに週2日、40―50年間、健康に農業を行うための人間工学の実現可能な提案をしました。

専業農家を取り巻く半農の厚い層が農家のノウハウを得て半農から専業農家へ参入する循環型の工業農業立国を目指すべきです。その環境整備に政府の支援も不可欠と思われます。今年6月22日の日経新聞の欧米で盛んな「都市農園、コミュニティ菜園」の機運は、食料安全保障とも関連し、半農と共鳴する流れと考えます。最後に、今年の春から我家の庭でも、サツマイモ、ジャガイモ、キュウリ、茄、ミニトマト、レタスの半農を開始し、立派なキュウリが我家の食卓を飾っていることを報告し、筆をおきます。



▲故今井氏の要望で人間工学を応用して開発した手指負担を1/4に軽減する園芸用鋏―Dr. Cut。日本だけでなく、アジアや英国でも園芸やガーデニングに使用されています。



図125a 若年労働者に対して、彼らの背景経験、知識、スキル、体力を考慮しながら、作業中にリスクに対処する方法を訓練します。

図125b 若年労働者が作業場の問題を話し合い、自分たちのニーズを反映した実際的な改善策を提案する機会を提供します。

人間工学チェックポイント

国際労働事務局（ILO）編集
国際人間工学会（IEA）協力
小木和孝 訳

第２版【カラー版】

安全、健康、作業条件改善のための実際的で実施しやすい対策



広範囲の現場状況について応用できる実際的で低コストの人間工学改善策を以下の９つの領域に分けて、１３２のチェックポイントで解説。

・資材保管と取り扱い
・手もち工具
・機械の安全
・ワークステーションの設計
・照　明
・構内整備
・有害物質・有害要因対策
・福利厚生施設
・作業組織

各チェックポイントは、挿し絵付きで、「なぜ」「リスク／症状」「どのように」「追加のヒント」「記憶ポイント」で構成。「このマニュアル利用のための提案」の節を設けて使い方をわかりやすく説明し、巻末に「現地に合ったトレーニング教材の具体例」を豊富に掲載。

図書コード ISBN 978-4-89760-328-5 C 3047
体裁　A4 判 並製
総頁　338 頁
定価　本体 2,500 円＋税

〒 151-0051
渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12
桜美林大学内 3F
公益財団法人
大原記念労働科学研究所
TEL：03-6447-1435（事業部）
FAX：03-6447-1436
検定担当：sc@isl.or.jp

Digest of Science of Labour

労働の科学

December 12
2025
Vol.80, No.12

巻頭言　俯瞰（ふかん）

後継者不足による農家の消滅と飢餓の処方箋
──人間工学の軽労働化で全員参加型の農業再生を── *1*
宇土 博［ウド・エルゴ研究所長］



表紙作品：古物集合体「五角十二面体」／本城義雄
制作年：2018年
サイズ：1620×1300mm
材質：油彩・キャンバス
出品：第92回国展
表紙デザイン：大西文子

特集　企業の明日に会いに行く(3)

ライフステージが変わっても働き続けられる職場を実現
..... エヌエス・テック株式会社 *6*

Series

芸能従事者の今 (27)
健康診断受診の障壁を超えて
― 個人事業者の受診率を高めた団体の取組み ―..... 森崎 めぐみ *11*

タイプライターの歴史とタイピスト (22)
―文芸作品に見るタイプライターとタイピスト (1) ―..... 三宅 章介 *16*

Column

株式と労働 (3)
派遣社員の登場 ..... 坂本 恒夫 *34*

Column

凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］(19)
マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で④～ ..... 福成 雄三 *36*

つれづれなるままに
塗り潰された「モネの池」
東京・井の頭公園 アオコ大量発生 悪臭の懸念も ..... 千葉 百子 *39*

労研アーカイブを読む (118)
労働科学研究所と国立公衆衛生院 (3)
大原孫三郎と暉峻義等 ..... 椎名 和仁 *43*

勞働科學のページ *52*

BOOKS
『治療と仕事の両立支援』
支援に関わるすべての人へ贈る渾身のメッセージ ..... 伊東 明雅 *55*

『水俣病』
水俣病の教訓を伝える ..... 椎名 和仁 *56*

ろうけん川柳 *57*

次号予定・編集雑記 *58*

労働の科学：第80巻 総目次 *59*

エヌエス・テック株式会社

ライフステージが変わっても働き続けられる職場を実現

はじめに

エヌエス・テック株式会社（本社：横浜市，清水浩二社長）は，1973年に製造現場の請負事業からスタートしました。創業から半世紀，時代と共に変容を遂げ，製造業に特化した人材派遣事業を展開しています。

製造業を取り巻く環境が大きく変化し，若い世代の製造業離れが進む中，現場を支える人材の確保は業界の喫緊の課題となっています。同社は慢性的な人手不足に悩む製造現場に寄り添い続け，企業と人をつなぐために，労働力の提供はもとより，人材の育成や雇用の安定に注力してきました。

製造業の派遣就業では，有期雇用・短期契約を中心とした働き方が多く，妊娠や出産，育児など個人のライフイベントが就業継続を困難にしている側面があることから，同社では全社員を対象に育休・産休制度の利用促進と復職支援体制の強化に取り組んできました。実際，2025年度中に育児休業を取得した10名の雇用継続率は80％を超え，同社が目指す「新しいキャリアの形」に熱い視線が集まっています。

同社の次世代につなげる働き方の具体的な取り組みを高橋広也取締役（写真１）に伺いました。インタビューにはヒューマンリソース部採用企画課人材開発係の鈴木麻倫係長と同課の採用企画係企画チームの荒井穂波さんが同席，また，宇都宮事業所の阿部佳奈さんがオンラインで参加してご自身の育休・産休取得について語ってくれました。



写真１　高橋広也取締役

半世紀の歩みを振り返る

当社は人材派遣事業を生業とし，社是に「信頼と創造力，真実を求め社会に貢献」を掲げています。社会やお客様，もちろん社員からの信頼を第一に考え，創造力をもって革新を

続けながら，最終的には社会に貢献することを目指してきました。さらに，今年からは「人と社会と歩み続ける」ことをスローガンとして内外に示しました。

創業した頃は「人材派遣」という言葉自体が市民権を得ていなくて，製造業の請負事業として出発しました。新日本総業株式会社を前身として，1989年に現在の社名に変更されました。私は入社して27年目を迎え，会社の歴史の半分は体感していますが，草創期については先輩から語り継がれてきた話をお伝えすることになります。

会社が所在する横浜市鶴見一帯は京浜工業地帯の中核として栄えてきました。創業した頃は造船業が盛んで，その発展に伴って溶接工が不足するという現状に，当社は溶接工の確保と育成を目指して，請負という業容を拡大していきました。一方，当時，同業他社が相次いで設立されると，複数の事業者が協力しあって「モノづくり」の現場で働く人を支えていこうと「日本生産技能労務協会」が誕生します。協会はその後名称を何度か変えつつ，現在は（一社）日本BPO協会の名で，製造分野を軸にアウトソーシング全般を活動領域として人材サービスを展開しています。当社も協会の会員に名を連ねています。

当社は管理部門と採用部門，全国24ヵ所の営業所を運営する営業部門の３部門に分かれています。今日は採用部門で活躍する若いスタッフが同席しており，当社の歩みを振り返りながら，究極的に私たちが目指す世界を一緒に考えていく好機を頂き，わくわくしています。

製造現場に寄り添いながら人材サービスを推進

当社の主力事業は派遣事業であり，主に製造メーカーがお客様です。創業時の1970年代は，労働力の人口は増えていましたが，製造の部門では繁忙期と閑散期というものがあり，人材の確保に苦心しました。1970年代は２度のオイルショックに見舞われ，激動の時代でした。当社は全国に営業所を展開し，営業所近隣の車や半導体の工場などに人材を送り込みました。その後半導体の不況など時代の波を受けて製造業にとっては受難の時代が続きます。製造業を主なお客様とする当社も氷河期が到来しました。とどめは2008年のリーマンショックですが，「ものづくり」に貢献するというビジョンを胸に半世紀歩み続け，今に至っています。当社の強みは全国に拠点を持ち，必要な場所に必要な労働力を提供できる点だと思います。

また，派遣業は「繁忙期だけ雇用し，閑散期には契約を終了する」というイメージが強いかと思いますが，当社では雇用の維持を重視しています。取引が終了しても雇用を継続し，次の配属先へとつなぐことで，働く人の安心を確保しています。地方の製造拠点に人材を送り込む際には，住居も会社側で用意し，安心して働ける環境を整備しています。こうした取り組みのもと，派遣社員の定着率も向上しており，現在では無期雇用の割合が約７割にまで増加しています。私たちは「人を育てること」も重要な役割と考えています。そのために研修やスキル習得を推奨し，当社に関わる一人ひとりが個々の価値を高めることを目指しています。時代がどれだけ激動しても「ものづくり」の価値は変わらないことを確信して，その中で人材育成を通じて産業を支える存在であり続けることを目指しています。

さてここからは，当社の就業支援について具体的にお話していきますが，まずは育休取得後，職場復帰して活躍している宇都宮事業所の阿部がオンラインで出席していますので口火を切ってもらいます。

ライフステージに対応した就業支援の実現

宇都宮事業所の阿部と申します（写真２）。私は2019年に中途入社し，当初は製造業者の派遣従業員のみなさんの転職をサポートする部署に配属されました。２年後の2021年９月から１年間育休と産休を取得，その後同じ部署に復帰が叶いました。子どもも５歳になり，子育てに追われながら，現在は新規事業の部門を任せてもらっています。会社の手厚い福利厚生制度に支えられながら充実した日々を送ることができ，同じ職場仲間のみなさんにも感謝の気持ちでいっぱいです。

実は，私の最終面接者は，先ほどから熱く語られている高橋取締役です。仕事を探していた時期は結婚して間もない頃でしたから，面接の場では出産に関連して質問されることを予測して，私は自分から「将来的には出産や育児も視野に入れていますが，まず１年は仕事に専念します」と切り出すのが常でした。時代の流れもあってか，どの企業も一応好意的に受け止めてくれました。高橋取締役に対しても同じことを言うと，「そんなの気にしなくていいです。阿部さんの人生なのだから」と即答されました。「阿部さんの人生」と言う言葉が新鮮で，ここで働かせてもらいたいと強く思ったことを今でも忘れられません。入社のときに背中を押してもらったことや，働く中で手厚い福利厚生を実感していたので，１年間のブランクを経ても職場復帰が叶うだろうという安心感はありました。宇都宮事業所では事務職の女性が私と同じ年に出産，現在も時短で働いています。私は復帰するとすぐフルタイム勤務となりました。人生には何が起きるかわかりませんが，大切なのは自分の仕事に真摯に向き合う姿勢だと私は思います。日々丁寧に仕事に精進し，お互いにコミュニケーションを取り合っていれば，職場の仲間たちも祝福して送り出してくれるのではないでしょうか。育休が終わっても子育て中は欠勤や遅刻などのリスクがある私のような社員に，復帰後まもなく新しい事業の主任に抜擢してくれました。モチベーションは上がる一方です。仕事をしながら子ども産み，育てたいという願う女性は多いと思います。私が背中を押してもらったように，今度は私が後輩たちの背中をそっと押してあげたいと思います。



写真２　宇都宮営業所の阿部佳奈さん

未経験者を育てるトレーニングセンターを開設

「ものづくり」の世界は時代と共に進化しています。かつて私たち派遣業者は例えば車を製造する会社から人材を送り込んでほしいと言われたら，車を製造したことがある経験者を集めればよかったのです。しかし，それでは深刻な人手不足の根本的な解決にはなりません。リーマンショックから立ち上がろうとしたとき，当然工場は生産を増大していきましたが，圧倒的に設備をメンテナンスする人が足りません。お客さまからは設備保全の経験者を求められますが，多くの人たちはリーマンショック以後転職していきました。そこで，当社は５年ほど前に新たな取り組みと

して，設備保全分野への派遣も開始しました。経験者を外部から採用するのではなく，自社の派遣社員の中から希望者を募り，研修によって育成する取り組みです。構想はずいぶん前からありましたが，コロナ禍の影響もあり，２年前にようやく名古屋市に「東海トレーニングセンター」を開設しました（写真３）。ここでは，約２ヵ月間の研修を通じて設備保全の国家資格取得レベルのスキルを身につけることができ，実際４名の国家資格取得者が誕生，お客様の保全部門で活躍しています。同センターは2026年３月，愛知県から社内の職業訓練校の認定を頂きました。さらに東北の仙台にも新たなトレーニングセンターを開設，育成体制の拡充を進めています。設備保全の研修については，愛知県から職業訓練校としての認定を取得しました。

経験がなくても製造業で活躍できるよう基礎から学べる研修体制を整備することで３Kと言われる製造業のイメージを払拭し，安心して働ける環境であることを発信し続けていきます。

自分らしく働き続けよう

私は役目上，入社の最終面接を担当することが多く，阿部の面接ももちろん覚えていますが，面接の最後には必ずこう伝えます。「会社の制度を上手に活用して長く働いてください」と。これはすべての働く人に言いたい言葉です。いま，阿部がとても良い話をしてくれました。制度の活用は大切であるけれど，ライフイベントを迎えた時に祝福してもらえるように日ごろの働く姿勢がとても重要だと。制度の充実は大切ですが，制度に命を吹き込むのはやはり働く人自身なのだと私は思います。私は男性なので，本当に理解しているかどうか心もとないですが，ライフイベントはなかなか言い出しにくいだろうと思います。しかし，日頃からチームがお互いの生き方を認め合っていれば自然に受け止められるのではないでしょうか。

単に労働力だけのことで言うと，有休は現場の段取りが取りやすいですが，育休・産休は期間が長いため，不在の期間，チームのメンバーをフォローしなければなりません。言い換えれば準備期間があるので早期の調整が可能だといえます。当社では妊娠・出産などのライフイベントが判明した段階から，本人，取引企業，当社の担当者の三社が連携し，業務引き継ぎを調整しています。また，育休・産休取得者が出た場合，取引企業の生産計画に応じて代替人材の配置を急ぎます。自社で運営する求人サービス「MONOキャリ」のネットワークを活用し，休業中も現場の稼働が維持できる体制を作り上げてきました。



写真３　2024年３月に開設した東海トレーニングセンター。自動車工場で働くための実技を学べる



エヌエス・テック株式会社

「MONOキャリ」は製造業分野で培ってきた採用ノウハウをもとに，求職者と企業双方に適したマッチングを実施しています。

さらに，当社では「チームで支える」を合言葉に，誰かが休業に入っても，周囲が保管できる環境を取引企業の協力を得ながら構築しています。業務の引き継ぎやシフト調整が進むことで，男性社員も育休を取りやすい風土が生まれています。

従来製造業の派遣就業においては，妊娠・出産・育児といったライフイベントを機に就業継続が難しくなるケースもみられました。こうした背景を受け，当社は取引企業と連携しながら，無期雇用派遣社員が安心して働き続けられる就業環境の整備を推進してきました。

今後もエヌエス・テック株式会社は，社会や働き方の変化に敏感に対応しながら，一人ひとりのライフステージや価値観に寄り添った就業環境づくりを通じて，誰もが安心して働き続けられる製造現場の実現にチャレンジしていきます。

おわりに

高橋取締役のインタビューに同席頂いた鈴木係長は間もなく入社10年を迎えます。阿部さんの上司に当たり，終始笑顔で語る阿部さんを見つめる目は温かく，「チームで支える」風土が垣間見えました。現在，治療の通院で時間休など制度を活用しながら仕事とライフイベントの両立を目指しています。鈴木係長によれば。かつて時間休制度実現のために奔走した高橋取締役はまさに「会社の革命家です」とのこと。革命家と言われて高橋取締役は嬉しそうに笑いました。荒井さんは入社して1年余にもかかわらず多岐にわたる業務に挑戦させてもらえているそうです。直属の上司が産休に入り，荒井さん御業務が増える中で，チームのメンバーのフォローに助けられていることに感謝の言葉を添えました。

創業から長年にわたり製造現場を支えてきたエヌエス・テック株式会社は，今後の存続と成長のためには新たな領域への挑戦が不可欠と考え，設備保全分野への展開に加え，ITエンジニアの育成プログラムも開始，人材サービスの枠を広げています。

まさに，企業の明日に会いに行ってきました。同社がこれから目にするだろう新しい風景を一緒に見たくなりました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■エヌエス・テック株式会社

事業内容：人材派遣業（製造業・ITエンジニア）・エージェント事業
本　　社：横浜市鶴見区
代 表 者：代表取締役社長　清水浩二

芸能従事者の今 27

健康診断受診の障壁を超えて

― 個人事業者の受診率を高めた団体の取組み ―

森崎 めぐみ

はじめに

2022年，日本芸能従事者協会は厚生労働省から要請を受けて，「個人事業者等に対する安全衛生対策のあり方に関する検討会」に出席した。その際，芸能従事者の実態を報告してほしいと言われたので，当協会では会員を対象にアンケートを実施した。その結果，健康診断の受診率が著しく低いことが明らかとなり，大きな衝撃を受けた。

この問題は，偶然，会員から指摘されたことをきっかけに意識するようになったものである。芸能従事者の突然死や，過重労働の背後に隠れてきた健康管理の空白は，個人事業者の安全衛生を考えるうえで重大な課題の一つであった。

それから４年が経ち，今年の調査では，毎年健康診断を受けていると回答した人の割合が12.5ポイント上昇した。当協会は，会員の実情に即して受診につながる工夫を重ねてきた。こうした取組みが受診率の向上を後押ししたと考えている。

本稿では，その経緯と取組みを記す。



もりさき めぐみ
俳優
一般社団法人日本芸能従事者協会 代表理事／東京労働局承認：全国芸能従事者労災保険センター・アニメ安心ネット労災保険・フリーランス安心ネット労災保険 理事長／文化庁「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議」委員／厚生労働省「個人事業者等安全衛生推進協議会」委員
主な出演作品：
・映画『CHARONカロン』主演
主な著作：
・『芸能界を変える』岩波新書，2024年.

健康診断を受診できない理由

健康診断は，雇用労働者であれば，職場の制度の中で年に１回受けるものとして習慣化されている場合が多い。しかし，個人事業者は，有給休暇を取得して受診できるわけでもなく，仕事の合間に職場から受診を指示されるわけでもない。自ら仕事のスケジュールを空け，地方自治体等が実施する健康診断を受けるか，あるいは自費で人間ドック等を受診しなければならない。

この事情は，当事者でなければ見えにくい。健康診断を受けていないのは単なる意識の低さではなく，受診の機会，時間，費用，情報へのアクセスが制度的に保障されていないことの表れでもある（図１）。

舞台芸術の現場の声

この問題に最初に向き合うことになったのは，長年舞台芸術の現場で働いてきたある舞台監督から，労災保険の必要性について相談を受け，意見交換を重ねたことがきっかけであった。その後，その舞台監督は当協会に入会し，安全衛生委員として議論に加わった。舞台芸術の現場では，長時間拘束や不規則な就業の中で，けがや病気のリスクがありながら，補償や健康管理の仕組みが十分ではないことが課題となっていた。

こうした議論を背景に，当協会が衆議院議員会館で開催した「芸能従事者の保護整備」に関

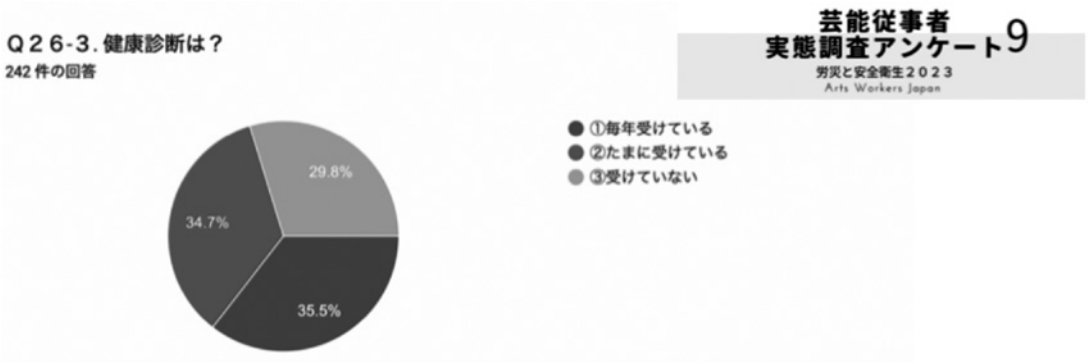


図1　2023年調査における健康診断受診状況（n=242）

する勉強会において，本人が登壇し，フリーランスを中心とする演劇現場の過重労働と健康問題について報告した。以下は，その際に資料として示した文章である。

「フリーランスを中心とする演劇の現場で働く人々の過重労働と健康問題について」

（舞台で働く人たちの環境をもっと良くするためのキャンペーン推進委員長）

欧米のように劇場文化が十分に発達しておらず，システムに則って演劇作りをすることの少ない日本の演劇界においては，さまざまな懸案が解決されないまま置き去りにされています。ハラスメントや契約などに関する問題，現場での過重労働，低賃金，そして安全，健康の問題などです。

ここでは，おもに演劇の現場で起きている過重労働と健康の問題について報告したいと思います。多くの演劇に従事するスタッフは，自らの健康に関して知識も関心も薄いのが現実です。それには理由があります。会社などでは健康診断が定期的に行われます。それは会社員にとっては業務の一部であり，無料，もしくは安価で受けることが容易に可能です。

また，会社によっては健康相談の窓口やより精密な人間ドックの受診も可能であり，社員食堂ほか福利厚生施設が充実していることもあるでしょう。

フリーランスである我々は国民健康保険の枠組みの中で，自治体の主催する健康診断を受けることが大事ですが，指定された期間や時間帯に自分の住む地域の病院で限定的な診断を受けることが，なかなかできないのが現状です。

稽古や本番の日程によって，スタッフは公演に向けて膨大な拘束時間によって縛られてしまいます。稽古場付きの舞台スタッフは，リハーサルへの立ち合いはもちろん，稽古場の掃除から始まって，稽古の準備，小道具の買い物・製作作業のほか，打ち合わせ，関係書類の作成などなどで，12時間以上の拘束を受ける日々が続くことも珍しくありません。台本が遅れたり，主役が別な仕事で参加が遅れたり，創作現場ゆえのイレギュラーな要素が多分にある業務なので，稽古が休みの日も出勤して作業することが当然のように常態化しています。しかし，初日に向けて，より質の良い作品を作ろうとすることは，演劇のスタッフにとっては当然なことなので，時間や手間を惜しまずに過重な労働に身をやつすことになります。

こうした余裕のない不規則な生活が続く中，成人病に罹患して現場で倒れたり，急死してしまう30代，40代のスタッフもいます。有能でよく働くスタッフほど仕事が集中するため，健康へのリスクは大きくなります。

彼ら，あるいは彼女らに共通しているのは，健康診断を受けていなかったということです。もし定期的な健康診断を受ける機会があ

ったなら，いくつかの簡単な検査の結果で，病気にかかるリスクを自覚できた可能性は高いと思っています。誰かが倒れたという話を聞くたびに，どうして健康診断を受けろといわなかったのかと後悔もしましたが，そもそも健康に関する情報を受け取る機会もなく，不安に思っても健康診断を受ける時間すら危ういう環境にあって，健康を維持することはむずかしいといわざるを得ません。

最近の顕著な傾向として，ブラック極まりない現場を嫌って去っていく若手スタッフが増えており，ますます人材は枯渇する一方です。

この国のエンターテイメント文化を下支えする演劇の現場で，未整備な労働環境はいちばんの弊害であるといえるでしょう。

引用：森崎（2024）『芸能界を変える ── たった一人から始まった働き方改革』岩波書店

その後，舞台スタッフの方々とともに，下北沢の劇場で労災保険に関する勉強会を開催した。これを機に多くの舞台スタッフが加入し，現場の実情を共有しながら，安全衛生活動を続けてきた（写真１）。

国会での議論

2023年，芸能従事者に労災保険の特別加入が適用されてから２年が経ち，フリーランス保護をめぐる議論はさらに高まりを見せていた。



写真１　労災保険に関する勉強会

フリーランス・事業者間取引適正化法の立法に向けた第211回国会では，参議院本会議において，芸能従事者の健康診断未受診と過重労働の問題が取り上げられた。

2023年４月21日の参議院本会議における質疑では，この舞台監督の指摘として，芸能・メディアの現場で倒れ急死する30代，40代のスタッフに健康診断を受けていなかった人が少なくないこと，仕事に追われ，指定された期間や時間帯に地域の健康診断を受けることが困難であることが紹介された。

これに対し政府は，フリーランスについても働き過ぎを防ぎ，定期的に健康診断を受けて健康を確保することは重要であると答弁した。そのうえで，厚生労働省の「個人事業者等に対する安全衛生対策のあり方に関する検討会」において，長時間作業による健康障害の防止や，健康診断受診について発注者等に配慮を求めることが議論されていると述べた。

この質疑は，芸能従事者の健康診断未受診が，個人の自己責任にとどまらず，フリーランスの過重労働と安全衛生の制度的課題として，国会で明確に位置づけられた点が重要と考えられる。

健康管理のガイドライン

こうした国会での質疑を経て，2024年５月には，厚生労働省から「個人事業者等の健康管理に関するガイドライン」が発出された。同ガイドラインでは，個人事業者等についても，労働者と同じ安全衛生水準を享受すべきであるとの基本的な考え方が示されている。

健康診断については，個人事業者等は年に１回健康診断を受診することが望ましいとされ，注文者等に対しても，健康診断に関する情報提供，受診機会の提供，受診時間への配慮などを行うことが求められている。

一方で，健康診断結果を踏まえた健康管理は個人事業者等本人が行うものであり，注文者等が健康診断結果を取得・管理することは求められていない。

また，同ガイドラインでは，各業種・職種の団体が，それぞれの実情に応じた業種別・職種別ガイドラインを必要に応じて策定することも

推奨されている。当協会では，ガイドラインの公表以前から健康診断受診率向上に取り組んできたが，この考え方を踏まえ，その取組を制度として整理して発展させた。

これを受けて，日本芸能従事者協会では「芸能従事者の健康管理ガイドライン」を策定し，周知を開始した。健康診断についても，個人事業者である芸能従事者の実情に即した仕組みを設計することとした。

個人事業者に即した健康診断の制度設計

日本芸能従事者協会には，芸能分野の十数団体が団体会員として加入しており，２つの特別加入団体を合わせると，５万２千名以上の個人事業者が集まっている。当協会では，会員向けの健康管理支援の一環として，個人事業者である芸能従事者が受診しやすい健康診断の仕組みを検討し，実情に即した制度設計を行った。

第一に，時間と場所を本人が選べる仕組みとした。全国規模で利用できる複数のクリニックと提携し，会員が最寄りの医療機関を自ら予約して受診できるようにした。個人事業者は就業時間や就業場所が一定ではないため，指定された日時・場所に一斉に集まる方式ではなく，本人の仕事の状況に応じて受診できることを重視した。

第二に，団体での受診にも対応できるよう，出張健康診断を利用できる仕組みを整えた。これは，映画の撮影前や稽古前など，キャストとスタッフが一堂に会するタイミングで受診できるようにするものである。映画制作チームや舞台芸術の公演単位など，現場ごとの利用も想定している。

第三に，健康診断結果は本人に直接返される仕組みとした。雇用労働者の場合には，事業者が健康診断結果を把握することがあるが，今回の支援は，個人事業者である芸能従事者を対象としているため，団体が結果を取得・管理するのではなく，受診者本人に後日直接送付される方式を採用した。これは，個人事業者本人の主体性を尊重するとともに，個人情報保護の観点からも重要である。

第四に，受診費用は本人負担とした。健康診断は，働く人が定期的に健康状態を確認するための基礎的な健康管理である。当協会では，会費水準や団体運営の継続性も踏まえ，団体が費用を負担するのではなく，本人が必要に応じて受診費用を負担する形とした。その一方で，基本的な受診価格をできる限り抑え，ストレスチェック，子宮頸がん検診，乳房超音波検査，マンモグラフィ検査等は希望者向けのオプションとして設定した。

このように，当協会は健康診断そのものを団体が一括して実施・管理するのではなく，受診機会の確保と周知に徹する形を採用した。周知にあたっては，グループLINE，ニュースレター，勉強会等を活用し，必要に応じて産業医，心理士，安全衛生委員会，個別相談とも連携しながら受診を促している。これは，個人事業者の主体性，個人情報保護，受診しやすさ，団体運営の継続可能性を両立させるための制度設計である。

この取組みは，2025年４月に共同通信社から配信され，東京新聞をはじめ全国紙・地方紙等で紹介された。記事では，「芸能従事者の健康診断促進　受診低迷，協会が支援策」として，当協会が複数の医療機関と提携し，芸能従事者が健康診断を受けやすくする仕組みを整えたことが報じられた。あわせて，労働基準法が適用されないフリーランスには健康診断の義務がなく，撮影や公演による長期拘束，予定の見通しにくさ，自力で医療機関を探さなければならないことなどが，受診低迷の背景として紹介された。

この報道により，芸能従事者の健康診断未受診の問題と，団体による受診支援の取組が，広く社会に共有される機会となった。

成果と今後の課題

このような取組の結果，毎年健康診断を受けていると回答した人の割合は，2023年調査の35.5％から，2026年調査では48％へと上昇した（図２）。

この変化は，前述した周知，医療機関との提携，相談体制との連携など，地道な取組を重ねてきた結果とも考えられる。

現時点では，民間医療機関との連携により健

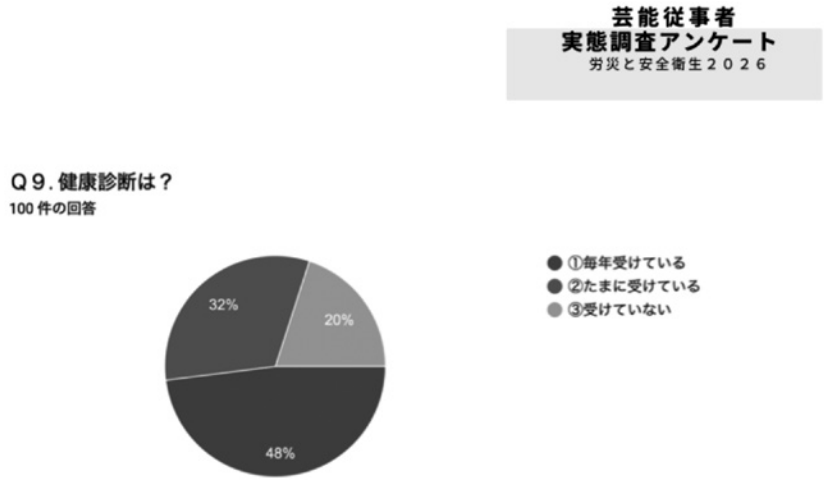
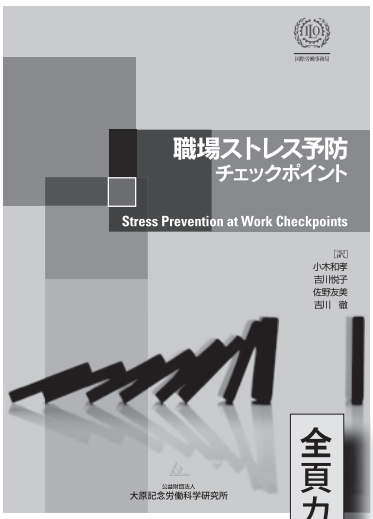


図２　2026年調査における健康診断受診状況（n=100）

康診断の受診体制を構築しているが，将来的には，個人事業者が労災病院等の公的な医療ネットワークも活用し，自費を前提としても受診できる環境が整備されることが望まれる。

個人事業者の健康確保を推進する上では，受診機会へのアクセスを確保することが，今後の重要な課題である。

職場ストレス予防・ディーセントワークのための実際的な改善策



職場ストレス予防
チェックポイント

話題の最新刊

50のチェックポイントにまとめて取り上げ、なぜ必要か、どのように実施するかを示し、追加のヒントと覚えておくポイントを挙げ、カラーで図解。

[刊] ILO
[訳] 小木和孝・吉川悦子・佐野友美・吉川徹

第1章 リーダーシップと公正さ
第2章 仕事の要求
第3章 職務の裁量度
第4章 社会的支援
第5章 作業場環境
第6章 ワークライフバランスと労働時間
第7章 職場における貢献の認識
第8章 攻撃的行為からの保護
第9章 雇用の保障
第10章 情報とコミュニケーション
参考資料 メンタルヘルスアクションチェックリスト

体裁　A４判並製 144頁
定価　1,320円(税込み)
図書コード ISBN 978-4-89760-333-9 C 3047

〒151-0051
渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12
桜美林大学内 3F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/

公益財団法人
大原記念労働科学研究所

タイプライターの歴史とタイピスト 22

―文芸作品に見るタイプライターとタイピスト(1)―

三宅 章介

はじめに―今回の目的

この連載は，タイプライターの発展史を述べることも目的の１つであるが，それ以上に，タイプライターとタイピストとのインターフェイス（ユーザーインターフェイス）の歴史を述べることを目的としたのである。

今回と次回は，文芸作品によって，このインターフェイスがどのように描かれているのか，それを要約するという方法で取り上げることにする。

文芸作品が生まれる背景

1　欧文（英文）タイプライターの場合

欧文タイプライターの歴史を見てきたように，人と機械の関係において，タイプライターの発明が，視覚・聴覚障害者が健常者と同様に他者とコミュニケーションができるようにしたこと（このことが開発の動機であった），手書きの文章を誰にでも分かりやすい文章にしてコミュニケーションを取りやすくしたこと，手書きよりも早く文書作成ができるようにしたこと等を目的としたものであった。

このような開発目的を持つタイプライターであるが，その使い手であるタイピストとの関係性（先のインターフェイスであるが）を見ると，既に論じてきたように，それは一言で言うならば，タイプライターという機械そのものが極めて欧文・邦文を含めて「人間的である」「アナログ的である」（巣宇燕氏）ということである。それは単にタイピストが機械操作をするというのではなく，人と機械が一体となり，その過程を通じてコミュニケーションを行う，という人間関係形成に関係する機械であったということである。

ところが，そのインターフェイスは，簡単なものではない。というのは，欧文の場合，発明当初から電動化されるまでは，タイピストがキーボードのキーを打つことによって印字するのであるが，それが速ければその長いタイプバーが絡んでしまうという問題があった。このことを「ジャミング」と言うが，それが起きると修理しなければならない。さらに，誤字を打ち込むと，それを消しゴムなどで修正しなければならない。それらの問題が起きる度に，タイピストは，タイピングを一時中断することを余儀なくされる。

それを要領よく処理し，依頼者の文書を予定どおりに仕上げることが「優れたタイピスト」になることに繋がる。そこに，タイプライターとタイピストのインターフェイスが生まれる。

また，発明当時は，手書きが普通であったことも由来している[1)]。手書きは，思うままに書き，しかもその人の個性を出すことができるが速く書くことはできない。タイプライターは，文字が確定しており自由に書けないが，慣れれば手書きより相当早く，誰にでも分かる文字で相手に意思を伝えることができる。



みやけ あきゆき
名古屋産業大学 特任教授
主な著作・論文：
・『経営専門職入門』（共著）日本科学技術連盟，2021年.
・「ものづくり現場の技能伝承と人材育成」『企業と人材』1105号，産業労働調査所，2021年.
・「戦後我が国におけるタイプライターの歴史とタイピスト養成」（共著）『産業遺産学会誌』，160号，産業遺産学会，2023年.

このような相反的な性質を持つが，使わなくてはならないので，もどかしさを感じても，打ち方などそれを使いやすいように工夫するのである。欧文ではタイプライターのパチパチというリズミカルな音がし，プラテンが移動するときには「チーン」という音がする。この機能が逆に「もどかしさ」を解消し，音楽にとりこまれる。

アメリカの小説家であり芸術家でもあるマーク・トウェイン（1835-1910）は，まだ出始めのタイプライターではあったが，その感想を「新しいもつれた機械（a new-fangled writing machine）」という言葉を使って表現している。

英文タイプライターとタイピストとのインターフェイスによる作品は，「新しいもつれた機械」という極めて人間くさい性質を持ち，同時にリズミカルな音を発するタイプライターであるからこそ生まれたものと考えてよい。因みに，ノイズレス・タイプライターも生まれたが，それは普及しなかったこともその一因であろう。

2　邦文（和文）タイプライターの場合

一方，邦文タイプライターであるが，欧文，つまりアルファベット・タイプライターとは事情が大きく異なる。

それは欧文が26文字の表音文字からキーが成り立っているのに対し，邦文の場合は2,200以上の活字のある活字盤を持ち，そこから必要な活字（この場合は表意文字と表音文字の２つであるが）を選んで印字する。中国語タイプライターは，表意文字だけであり，邦文タイプライターと比べて，機能的には同じであるが，漢字（活字）数が倍以上もある。そこで，前回では巣宇燕教授は，「基本構造は似ているが，漢字数の多さが中国タイプライターを別次元の難しさにしている。」と述べていたのである。

その操作法は，活字盤から必要な活字を選んで紙に打ち付けるのであるが，多数の中から必要な活字を選ぶという困難さがあり，その印字音は結構やかましい。邦文では，「ガチャガチャ」「ガチャーン」というので，欧文のように音楽にはならない。そういう扱いにくさから，邦文タイプライターを使うタイピストは専門家と呼ばれたのである。アルファベットではそういうことはなかった。端的に言えば，印字が速ければよかった。

こういうことから巣宇燕教授が言うように，漢字を扱うタイプライターは活字がなければ，偏と旁を分けて文字を作るとか，別の漢字に言い換えるとか，活字盤の漢字配列をタイピストの活字使用の頻度に応じた配列にする，つまり「個人用」にするとかであり，それは標準化を止めることになる。したがって，個人向けに変更が可能であり，機械と人間の関係は「アナログ」的であるといってもよい。そこに操作上，人間の判断力が入る余地が極めて大きいと言える。アルファベットは26のキーで打つだけであるので，漢字と比べると「デジタル的」だと言えよう。

この特徴がタイプライターとタイピストにかかわるインターフェイスの記述，すなわち小説，自叙伝などが生まれる背景になるのである。タイピストは専門職であり，賃金が高かったことも，女学校卒業者の憧れの職業になったこともその一因であろう。

3　取り上げる作品

手元には，小説は邦文３点，欧文が２点ある。この外，フランス映画，日本ではテレビ番組のドラマ等がある。ただし，欧文の小説は，以下の理由によって１点のみとする。題名と要旨は次のとおりである。

⑴邦文（和文）タイプライターに関する作品

① 櫻田常久著『従軍タイピスト』赤門書房，昭和16年４月20日，初版発行（２刷は同年同月），233ページ

〔要旨〕主人公尾澤多摩子は，17歳のとき，兵団が新設されるに伴って軍要員に応募し，女性１人（タイピスト）だけ採用される。男性は72人であった。中国張家口で勤務に当たるが，激務と腸チフスのため19歳で戦病死する。本書はその生涯を描いた小説である。この書物は，著者櫻田常久が，主人公の母校城右高等女学校校長から，故尾澤■（ママ）（たま）子の生涯を聞き，それが執筆の動機になっている。

② 澤田愛子『〔語りつぐ昭和新書〕軍装のタイピスト－あの時代を駈けぬけた17歳の記録－』鶴書院，1993年10月１日第１刷発行，

186ページ
〔要旨〕主人公の加藤愛子は16歳で陸軍軍属にタイピストとして志願し，昭南島（シンガポール）やマニラに出征する。しかし，タイピストとしての仕事はあまりなく，事務や傷病兵の看護の手助けなどして，そこで見た戦争の悲惨さを取り上げている。19歳で内地帰還を命じられ，無事帰国する。実名は，執筆者の澤田愛子である。

③　伊東舞子著『タイピストが消えた日』文芸社，2016年11月15日，初版第１刷発行
〔要旨〕この書物は，執筆者の自叙伝である。主人公の伊東舞子は戦後会社勤めのタイピストになるが，その後，高等学校教諭となり，タイプライターの指導をする。しかし，タイプライターの需要が減少する中，51歳の時，タイプライターの授業がなくなり，自らもタイプライターから離れ，「日本からタイピストが消えた」と実感する。併せて，女性も使い捨て，教育も産業教育に成り下がったと感じる。

⑵欧文（英文）タイプライターに関する作品

①　Erle Stanley Gardner, The Cace of the Terrified Typist, HYAKAWA PUBLISHING, INC., 1956.（宇野利泰訳『怯えるタイピスト』早川書房，昭和54年10月31日発行
〔要旨〕メイスン弁護士事務所は，タイピスト派出会を通して臨時の女性タイピストを採用するが，いつのまにか不明になる。これは宝石店に忍び込もうとして発見され，メイスン事務所に逃げ込んできたものらしかった。この宝石商もまた事件を残す。ここから物語は始まる。ただ，この小説は，タイピストが題名になっているが，弁護士の活動が中心であるので取り上げないことにする。

②　Paul Auster, Sam Messer（Works of Art), The Story of My Typewriter, Paul Auster c／o Carol Mann Literary Agency, 2002.（塩田元幸訳『わがタイプライターの物語』新潮社，2006年１月30日発行
〔要旨〕パソコンが普及する中で，著者のオースターは「1974年のその日以来，私が書いた言葉は一言残らずこの機械によって清書された。」というように，著者とオリンピア・タイプライターの「むつまじい関係」を述べた随筆である。このことに，サム・メッサーのカラー挿画とスケッチ，39点を添えている。

⑶映画やテレビで放映された作品

①　『タイピスト！』
2012年のフランス映画である。題名はタイプライター名の「ポピュレール」である。田舎育ちのローズ・パンフィルは，都会に出てルイ・エシャールの経営する保険会社代理店で事務員として働くが不器用のため首になりそうになる。しかし，タイプの早打ちの能力があり，それを見込んだルイは猛特訓し，世界一になる。

②　『とと姉ちゃん』
2016年４月４日から10月１日まで放映されたNHKの朝の15分ドラマである。1920年，静岡県遠州で生まれ育った小橋常子が主人公である。父親が亡くなり，家族のために高等女学校卒偉業後，邦文タイピストとして家計を支える。「とと姉ちゃん」の「とと」は「父親」であり，題名のこの意味は「父親代わりに働くお姉ちゃん」である。戦後，女性のための雑誌『あなたの暮らし』を創刊する。これが『暮らしの手帳』になる。小橋常子は創業者の大橋鎮子である。戦前と戦後を駆け抜けた女性の物語である。

邦文タイプライターとタイピストの作品

歴史的文面と考えられる箇所には，括弧書きして，必要に応じて引用ページを記しておいた。既に入手困難な書物でもあるので，やや詳しくまとめておくことにした。

⑴櫻田常久著『従軍タイピスト』赤門書房，昭和16年４月20日（写真１）

本書は，「序曲－北京」「１　挙母町」「２　奉天」「３　張家口（一）」「４　張家口（二）」「終曲　北京」の６章から成る。文中における上記の目次の「２　奉天」は，「２　奉天（17歳）」「４　張家口（二）」は「４　張家口（19歳）」というように年齢が書かれてある。

序曲－北京

張家工に兵団が新設されて，その軍要員として男性72人が採用されるが，女性は１人だけであった。それが主人公の尾澤多摩子である。「あたしタイピストとして蒙古へ行くの。もう



写真１　櫻田常久著『従軍タイピスト』（赤門書房，昭和16年４月20日発行）表紙

二度と帰らないつもり」と多摩子は親友の飯野千代子に告げて奉天を立ち，北京に到着する。

女子は１人だけであったので，父親のいる北京郊外の廃寺である通恵寺に宿泊する。父親は，「憐れなる蒙古人のための方面委員」（少佐）であった。翌日，別れと門出の簡単な朝食をとり，北京行きのバスに乗る。行き先は，父親から紹介された閣下のいる張家口であった。

１　挙母町

陸軍大尉である父親は，６人の子供たちと共に弘前から大阪に転勤する。多摩子が３歳のときであった。

大正12年，浜口内閣が軍縮を強行した際，父親である尾澤大尉は現役を退き，家族とともに生まれ故郷の三河の挙母町に帰るのである。大阪の狭い家とは異なり，子供たちはいきいきとしてくる。多摩子は男勝りで度々近所の子供たちを泣かしては，母親は，その子供たちにお菓子を与えていたのであった。

しかし，まだ若い父親は，多くの子供を抱えて何もしないことは親戚の手前，心苦しいことであった。そのため，多摩子が６歳の時，家族全員で上京し，護国寺の近い所に借家住まいをすることになる。ところがこの地域も多摩子は巡査に連れられて自宅に帰るなど，この地域は子育てには必ずしも適したところでなかった。そこで蒲田の方の借家を探すのであるが，小さい子供が多くいるため断られるのである。反面，子供がいなければ大邸宅に住み，女中をたくさん雇う夫婦も居り贅沢な生活をするのである。

父親は，「こんな状態だから社会主義者がはびこるのだと憤慨もしていた。しかし，よく調べてみると，大ていの社会主義者には子供がなかった。たとえあったとしても，みな申し合はせたように，１人か２人の子供しか生み得ない弱者だったのである。」[2]

先輩少佐の世話により参謀本部嘱託になることから，退職金と故郷の親戚から融通を得て鷺の宮に家を立てることにした。そのような折，父親は，昭和７年，多摩子が小学校５年生の時であったが，軍の特務機関の補助員として単身満州に渡ることになる。また母も，多摩子が女学校２年生のとき，次女芳子の結婚式の終了後，父の任地の奉天に行くことになる。鷺の宮の自宅では，残された洋子，多摩子，照子の３人の子供たちの自炊生活が始まる。多摩子は，その時，14歳であった。

そして女学校に入学するが，その終わりに近い４年生の３学期になると，急に両親のいる奉天に行きたくなる気持ちに駆られ，女学校卒業と同時に奉天に行くことを決心する。その途中，子供時代に過ごした挙母町に立ち寄る。しかし，そこで祖父は息子が満州三界での苦労するのはよいが，母が気の毒だと同情するのである。

この話しを聞いて多摩子の心の中は，「日本の将来，東亜の動き，世界の動向に対して全く盲目な人々と，東亜諸民族の将来のために身命を賭して，黙々として『満蒙人のための方面委員』に甘んじてゐる父との間には，どうしても埋めきれない大きな溝が口を開けてゐたのである。」[3]

あさ緑の追憶の冷たい風が吹き込んできたことに気付き，寂しい思いを持ちながら，祖父の自宅に別れを告げて，一路，奉天に向かうのである。

２　奉天（17歳）

多摩子は大阪駅で直ぐ上の姉の洋子に会い，船で満州に渡り，奉天南三径路の両親の家に無事到着する。家族は，両親，砲兵中尉の兄の正，姉の洋子，妹の照子，生まれたばかりの弟の康の６人暮らしで，２階には外蒙の蒙古人亡命者３人が同居していた。

多摩子は，姉の洋子に「女ってつまらないのね」と言いつつ母の家事の手伝いをしながら過ごすが，その１か月後，女学校同級生の飯野千代子が，奉天の附属地のM鉱業に就職してきたので，会いに行くことにした。自宅を離れて久々の自由になった気がしたが，それは，学校を出て家庭に入ると，唄を自由に歌うこともままならず，世間は嫁入り前の娘に対して「淑やかに，さらに淑やかに」を強要することを実感する機会にもなった。

千代子も寄宿舎に閉じ込められ，一月一回の映画も，第３日曜日のピクニックも団体でなければ出られなかった。一方において，人で不足の折柄，転々としてその度ごとに給料を上げさせ，月収270円まで得ることになった事務員がいたが，採用してみると何もできなかった，とう話もあった。こういうことも，事務員の自由を拘束した理由となっていた。

何か力を付けるため，多摩子は父に，英語とかタイプライターを学びたとい相談する。父から，「英語はつまらん，やるならばタイプライターをやれ」と言われ，小林又七商店附属タイピスト養成所邦文科夜間部に通学することになる。この養成所は３か月半で卒業することができたが，学科と技術が上達すれば適宜卒業できる便宜があった。

１か月も経たない内に，先生と早打ち競争ができるようになり，たまたま学校に古びた１台のタイプライターがあったのでそれを借りて，分解し組み立てるなどして，印字スピードも上達し構造にも知悉するようになった。しかし，妹が入院し，母親は健康に衰えを感じていたのでタイプを休もうと思うが，母からとがめられ，タイプライターの練習は欠かさず，10分間に420字という記録を作ることができた（注：この420字は120字の間違いではないか。103ページでは，以下に示すように多摩子は10分間に120字のレコードを持つ，とある。この段階では，多摩子はまだ欧文を習っていない）。タイプを習い始めて２か月目には試験を受け，学科・技術の２つとも優秀な成績で養成所を卒業することができた。

このときは母が入院し，家計は苦しく兄の俸給も全額家計に入れていたのであった。父の仕事は定職ではなく，むしろ一番の家計の消費者であった。このような差し迫った家計のやり繰りのため，多摩子は働かなければならないと決心するのである。そこでも再び，奉天タイピスト学院の欧文科に通うことにした。

ちょうど，そのころ張家口に兵団が設立され，軍の要員募集が満州各地であった。そこでは，タイピストの募集をしていることを養成所から知らされ，難しい採用テストを受け合格したのである。当時の内蒙では共産第八路軍や傳作儀軍などが集結していたので母は心配したが，多摩子は「男だってなかなか兵隊にはなれないんでしょ。女で従軍できるなんて，こんな名誉はないじゃありませんか。」と自負していたのである。そして母を説き伏せた。

採用通知を受け取り，多摩子は，親友の千代子に会い，「あたしタイピストとして蒙古へ行くの。もう二度と帰らないつもり」と伝えるのである。

いよいよ出発の日が来た。その前日，午後３時に奉天駅前に集合することになった。多摩子は，姉や友達に「タイピストとして第一線にいくことになりました。上海か北支か不明です。では元気で行ってまいります。」という手紙を出したのである。一行は男子72名，女子１名であった。そして，彼らは張家口，大同，綏遠，包頭に赴任することを初めて知らされるのである。一行は，北京に一泊するのであるが，多摩子だけが女子であるので，特別に父親の所に宿泊することを許可された。

３　張家口（1）

多摩子等を乗せた京包線の列車は，北京を出発し任地に赴こうとしている。列車の中では女性は唯一，多摩子だけであったので，他の人との会話を慎んでいたが，お互いに困難な任務に就く思いでいっぱいのようであったので，気持ちは通じ合えた。

張家口は，兵団が新設されたとはいえ，敗残兵が仕掛けた爆弾がいつ爆発するかもしれない危険性はあった。沿線警備兵の「○○駅まで異常なし」という報告がない限り出発はできなかった。そのことは，多摩子たちの命は，その駅までしか安全ではないということを意味していた。

そのような緊張感を持ちながら，列車が張家口駅に着いたのは昭和13年１月18日の夜であった。駅で整列して点呼を終えると，その将校より，「この町は刻々空襲の危険にさらされている。生命は保証できない。日本人として行動することを希望する。」と告げられた。多摩子は営内の女子宿舎に入った。女子宿舎は20室ばかりの一棟であり，軍医部付看護婦４名，舎監の夫妻，ボーイ１名，厨夫１名であった。タイピストのために割り当てられた部屋が多摩子の生活の場となった。

舎監によって看護婦等に紹介され，その後，兵団参謀部に出仕し，着任の申告が終了すると同時にタイプを打つことになった。10坪ばかりのタイプ室には，欧文タイプライター２台，邦文タイプライター５台あり，着任の次の日から，机には原稿が山ほどに積まれた。10分間に120字という記録を持つ多摩子にしても到底処理できない量であった。

朝９時に出勤して18時まで，昼食後１時間の休憩時間があるものの，それ以外はタイプを打ち続けることになった。勤務時間は18時までとはいえ，前線のためそれは関係なかった。20時までも仕事はあり，また伝令に呼び出されて瓦斯燈の下でタイプを打つこともあった。さらに夜中の23時，24時にでも起こされるようなこともあった。自由な時間のあるものをうらやましく思うこともあったのである。

目と手と頭とをタイプ１台に縛られてしまうということが，こんなに苦しいこととは思いもよらなかった。そのような時，少しでも打ち方がよくなければ「『打ち直し！』を命ぜられ，殊に司令部の○○大尉の草書の読みづらい原稿には，彼女はしばしば泣かされた。あまりにも達筆にくずした草書を何と読みべきかたずねる人さえいない。」[4]。多摩子は「泣くものか！」と歯を食いしばった。涙が落ちた。

一日に13時間もぶっ通しでタイプライターのキーを叩くということは18歳の肉体の限界を超えていたものであった。そのような時，多摩子は女学校時代の校長が言った言葉を思い出し，自らにムチを打ったのである。それは，「足がすり切れたら趺坐で歩きなさい，膝がすり切れたなら腿で歩きなさい，腿が使えなくなれば腰で歩くのですぞ。」自らが決めたことは，このような言葉によっていた。

タイプの仕事は一層忙しくなってきた。日曜日もない。読みづらい原稿を読みタイプするが，そのような時，タイプレバーが動かなかったりする。昼食に行くため立ち上がろうとすると，首筋，腕，肩，腰が痛み，箸を取る指さえ動かなくなった。蒙古の戦況が一層仕事を増やすことになった。極寒の２月，その対応のため，タイピストを４人採用したのであるが，そのうちの１人は直ぐに解雇された。能率的ではないという能率主義の立場からである。国家の至上命令は，仕事と個人の感傷は明確に区別しなくてはならなかった理由による。

３月の猛烈な黄砂の中で，空襲もあり部隊の来往はますます激しくなり，それに合わせてタイピストの仕事もますます多忙となった。多摩子は，このような中で女学校時代の水兵服を着たままで，上部からの「正午まで50枚，謄写」と張り紙を付けられた原稿を渡されたのは，既に11時を過ぎていたが，その仕事中でも銃砲の「ぴゅうん」「ぴゅうん」という音が聞こえてくるのであった。日曜も祭日もなく，１日平均13時間の激務であった。（写真２は名称がないため仮に「タイプしている多摩子」とした）。

過酷な仕事の中で多摩子は，頭痛と腰部の嫌悪感に襲われるようになる。タイピストは１名欠員のままであった。１人が休めば仕事はストップしてしまう。戦場の兵士が，飢餓と寒気と睡魔の中で戦友を支えながら戦っているのと同



写真２　タイプしている多摩子
出典：櫻田常彦著『従群タイピスト』102ページ

様であった。１人が倒れると，残りの者も倒れる。

多摩子は，上司の一瀬大尉に会って現状を訴え増員をお願いしたが，タイピストの応募がないことは２つの理由があった。軍の傭員の日給が１円15銭があまりにも安すぎるということ，もう１つは，満州育ちの娘を募集しようとしたこと，その理由は蒙古人，漢人，白系ロシア人がいるので，そのような異民族との接触ができるという条件であった。

そのとき，ある少佐の娘が応募してきたが，それも状況からそのままになり多摩子は室に帰り同僚の佐藤，山下に報告をした後，「倒れるまでやりましょう」と手を握り合うのである。しかし，多摩子の容態は悪くなる一方で，特に肩の凝りはひどくなるばかりであった。

季節も７月になると気温は120度（°F）にもなり，その暑さのために活字が膨張するためなのか，レバーによっては上がらないこともあり，タイプ自体も熱気で触ることができないほどになった。それでも仕事は増える一方だった。そのような折，多摩子の出身校の城右高等女学校より慰問品が届き，佐藤と山下と相談し，４分の３を前線の兵士に送り，残りを宿舎の仲間とひとときの饗宴に用いた。

季節は８月の半ばを過ぎる節になった。戦いは厳しく，京包線の一部が共産軍によって破損された。それに伴って多摩子への郵便物も途絶えてしまうが，多摩子の女学校時代の親友である飯野千代子の最後の手紙では，「奉天にいるが，一度，内地に帰り，もう一度タイプを習い，出直してきたい」ということであった。それは，算盤も簿記もタイプもできないような女事務員は，ただの給仕にしか過ぎない，という自己反省であった。

やがて，戦火は収まり再び多摩子の元には手紙がたくさん着くようになる。そのような中，タイピスト室では咳き込んでいる山下が倒れ内地に移送される。彼女の病気は，タイピストに伴うT.B[5]であった。それは終日，胸を厭しているタイピストの免れることのできない職業病であった。多摩子自身もますます痩せていくようになる。このような時，「母」という言葉は禁句であった。

12月の初め，突然北京から母が訪ねてきた。共に無事を確認し泣き崩れるのであるが，多摩子の体を案じた母は「どこか悪くはないの」と多摩子に聞くのである。多摩子は，張家口は水が悪いから誰でも痩せると話をそらせるのである。母の訪問は，多摩子の健康問題ばかりではなく，結婚話であった。既に６人程の話が持ち上がっていたからである。その話を聞いて，多摩子は，寂しさを感じながら，私は22歳までどこにも行かない，自分は「お母さん，私は家のために働いているのじゃなくて，お父さんと同じ目的，蒙古の国を生み出すための煉瓦の１つを運んでいるのですよ。」[6]と答えたのであった。

その夜，母と娘は映画を見に行き，ひとときを過したのであった。多摩子の結婚話は，内地の少壮官吏や内地へ帰還した青年将校でもあり，もちろん多摩子は彼らを知らないが，申し込んできた者は張家口における多摩子の仕事ぶりを伝え聞いて，彼女こそ，自らの妻であると信じていたのであった。

4　張家口（2）

翌年（昭和14年），タイピストの補充員５名が到着すると同時に，佐藤とし子は結婚のため内地に帰ることになった。この５名のタイピストは，いずれも菅沼タイプ，東洋タイプで学んで来たものばかりであったので，日本タイプの使用は始めてであり，ミスがあると「打ち直し」を命じられた。その場合の書類は焼棄箱に捨てられた。文書の解釈において，本部とタイピストの解釈が異なる場合はミスがよく出るので，これは多摩子の指導によってミスを少なくしていくのであった。

仕事は忙しく，しかし日給は１円15銭であり，また一生タイピストであってもここでは雇員にも慣れなかった。進出してきた商社では多摩子等の４分の１程度の仕事量でも倍額に近い俸給であった。ただ，戦地勤務であり，日曜日もないので，その手当などを合計すると，平均月収は82，３円になり，多摩子は10円ないし20円を貯金し，50円ないし60円を母に仕送りしていたのである。

この年の蒙古は，天候不順で空は黄砂に覆わ

れ，日中でも蝋燭をともさなければタイプは打てないほど暗かった。二重窓でも砂が入り，喉を痛め頭まで砂埃を浴びた。砂塵は，活字の間に入りインキパットを直ぐに乾燥させ，機械の動きを困難なものにした。このようなとき，活字箱を落とすなら，活字盤の組み立てだけでも多大な時間を要することになる。そうすると机の上は，直ぐに書類の山となる。

蒙古風がようやく収まりかけたころ，多摩子は親知らずが生えかけた時，腸チフスの予防注射を受けたため，その晩から熱が出て朝は起きることができなく，止む無く欠勤届を出して二日間静養することにした。しかし病気のためとはいえ，任務を怠っているという気持ちが彼女を攻め立てたのである。また，４か月前に別れた母のことを思い出し，さらに，父や姉，妹の幻想が彼女を眠らせなかった。仕事と家族のことを思い，多摩子は父に手紙を書き，最後に「多摩子はようやく日本の女になれた気がします。」[7]と結んだ。

しばらくして，本部では昨年同様，タイピストたちの慰労のトラックドライブが催された。行き先は，稜線上であり，北は大平原が天まで続き，南は一面の粟畠の余りにもわびしい所であった。

帰着後，多摩子は無理がたたり，体調不良と倦怠感に襲われ，横たわると，父母や兄弟のこと，友人のこと，それまで暮らしてきた故郷のことなど追憶するのであった。そのとき，女学校時代の親友の飯野千代子が，日本タイプライター学校を卒業して，この地の張家口に来るという知らせが入ってきたのである。

しかし，体調は思わしくなく，多摩子はついに欠勤届を提出し，そのまま倒れてしまった。多摩子は信頼が置かれていたので，秘密文書のタイプなどを担当していたため兵団も多摩子の看護に力を入れてくれたのであるが，多摩子の病名はなかなか分からなく，２週間以上経ってやっと入院することになった。しかし，検査結果を見ても病名は判明せず，主任のO大尉は，仮に急性胃炎にしておきましょう，と苦笑したのである。兵団の大尉は，兵団創設後，１年間は皆，皆睡眠不足だった，戦地は戦闘がなければ眠れるので，皆第一戦に行きたがっている，というほどであったので，「婦人には戦地は無理がある」ということが念頭にある病名判断だったと考えられる。

さて，多摩子が入院した日に親友の飯野千代子が到着する。千代子は，仕事が終わると毎日，見舞いに訪れ思い出を語り合うのであるが，その多摩子も３週間ほどで退院することになり，多摩子と千代子は同室で生活することになる。

あと２か月で20になる。それは娘と人妻の中間的存在であり，「20歳を越した娘は，もう娘ではなく，嫁入りという『首を切られる危険の一番少ない就職口』を探す，ある卑しい目的を抱くもののように思われるのであった。」[8]

千代子のおかげで仕事も一緒にできるようになったが，19歳の多摩子には，タイピスト部の主任，女子宿舎における第１助役，張家口国防婦人部幹事という役割ができ，休む暇もなかったが，それでも日曜日は半日休業になった。

しかし，順調に快復していたようであった多摩子は，退院後60日経た朝，出勤し遙拝式に出た後，タイプを打ち，自室のドアを開けると同時にひどい目眩がして倒れてしまった。翌日は，苦しさを隠して出勤する。同室の千代子にも，苦しさを打ち明けようとせず，千代子も気が付かなかったほどであった。苦しみを他者に訴えたり，同情を買ったりすることは，多摩子の最も嫌悪することであった。それは父親の死ぬときは「笑って死ぬんだぞ！」という教育方針の根底に横たわる教えであったのである。それが，日本娘の修養の終極目的のように思われていた。

６日目には40度の熱が出た。千代子に付き添われて入院するが，細菌検査の結果はチフスと診断され，脳症も併発し，薄暗い隔離病棟に移されることになった。多摩子の容態を心配して，宿舎の同僚が集まり輸血を試みることになったが，その努力は全く功を奏さなかった。

11月16日，多摩子は４時に危篤になり，６時に息を引き取る。享年19歳であった。17日，14時に火葬される。その時，東京の姉に頼んでおいた和服が届く。また，両親も臨終に間に合うことはかなわなかった。多摩子の戦時室内勤務は22か月の死力奮闘の連続であった。

＊　＊　＊　＊　＊

本書の最終章は，「終章　北京」である（内容は割愛）。多摩子の父親である尾崎予備少佐と母の住む北京に多摩子の遺品も届き，その荷物を整理しながら涙し，五女多摩子を偲ぶ内容となっている。

「二十二ヵ月のあいだ，自分の欲望を極度に節して，父母，姉妹，朋友，社会に篤くつくしてきたことは我が子ながら頭のさがる思いがするのであった。自分の盛んなりし頃，一夜の酒宴に費やしただけの金で，彼女は二カ月餘の生計をたて，しかも残りの全部を自分の一家の生計費に送金してくれたのである。北京への便のあるごとに，父への日本酒のほかに，母，照子，康へも，それぞれ適当な，心からの贈りものを忘れなかった。あの子は孝経の『身を謹み用を節し，もつて父母を養ふ』という言葉の実践者ではないか。」[9]

⑵澤田愛子『〔語りつぐ昭和新書〕軍装のタイピストーあの時代を駈けぬけた17歳の記録』鶴書院（写真３）

本書は「第１章　軍属志願」「第２章　家族の肖像」「第３章　昭南島（シンガポール）」「第４章　マニラ」「第５章　内地帰還」「第６章　軍属解任」の全６章からなる。前述の『従軍タイピストは昭和16（1941）年の戦時中の作品であるのに対して，『軍装のタイピスト』は1993（平成５）年，戦後48年目の作品である。主人公の「加藤愛子」は，筆者である澤田愛子の登場人物名である。



写真３　澤田愛子著『軍装のタイピストーあの時代を駈けぬけた17歳の記録ー』（鶴書院，1993年10月１日発行）表紙

以下は，その内容をまとめたものである。「第２章　家族の肖像」は，両親や兄弟たちの家族像ないし人間像を述べているが，これらの内容は本文中においても見られるので割愛している。したがって，章の数は少なくなり順序は繰り上がっている。また各章には，項目が付いているが，文面によってはまとめたり，割愛したりしている。

第１章　軍属志願

〔昭和18年秋〕16歳になった，昭和18年の秋のことである。お堀端の帝国劇場での出征兵士を送る会があり，私（加藤愛子，昭和２年生まれ）は，そこに向かっていた。演し物は伊藤久男の歌謡ショウであった。途中，大日本婦人会（昭和17年２月発足）の女性や出征兵士の家族がモンペ姿でタスキを掛けて，日比谷通りなどで，千人針をお願いします，と大きな声で叫んでいた。「千人針」とは，弾丸が当たっても千人の力で守られ武運長久を願うため，女性たちが一針ずつ結び目を作ったお守りである。

召集令状は突然届くのであるが，この千人針が出征に間に合わない時が多くあり，また，戦死した後に，その兵士よりお礼が届くようなこともあった。私は，長さ１メートル，幅15センチほどの晒木綿に赤鉛筆で印の付いている箇所に木綿糸で大きな球を作った。なかには，５銭玉を縫い付けている人もいた。５銭玉の理由は「死線（４銭）を越えて」という意味があるからである。私は帝劇に着くまでに，次から次へと千人針の協力をしたのである。

この年の５月にはアッツ島での激戦で日本軍は玉砕し，９月には14歳から25歳までの未婚女性は「勤労挺身隊」として動員されるようになり，時代は暗黒の中を突き進んでいくのであった。

〔警戒情報〕伊藤久男の歌謡ショウが始まるやいなや，サイレンの「ウーン」というけたたましい金属音がした。米軍機の空襲である。私は知人のNさんと共に急いで近くの日比谷公園に避難したのであるが，そこにはコスモスの花が夥しく咲いていた。このとき，「不意に私は，わけもなくごく自然に，軍属に志願することを

思い立った。特別な理由はなかった。」[10]

〔行列〕歌謡ショウが終了し，日比谷通りを歩いていたとき，友達のSさんがしきりに手を振って私を呼んでいるのが目についた。私は，彼女に「ここで何をしているの」と聞くと，彼女は陸軍航空本部がタイピストを募集しているというのであった。そして私にも応募するように勧めたのである。私は海軍に志願するならよいけれど，陸軍は気持ちが進まなかったが，お国のために尽くすのだからどちらでもよいだろう，と思い直して応募することにした。８名の募集で2,000人もの女性が応募したという。

〔面接〕面接試験は，陸軍航空本部２階の面接室であった。面接官から「父上は海軍主計官だそうだね」と問われ，なぜ陸軍を選んだのかを聞かれたので，「お国のために尽くすのは陸軍航空隊がよい」と答えると，「外地でもよいか」と問われた。私は，即座に「ハイ」と応えたのであった。簡単な口頭試験もあり，両親のことなど聞かれたが，タイプの実地試験は５分程度であった。

〔合格〕１週間後に「加藤愛子ヲ陸軍航空本部ノ軍属ニ任命ス」という葉書が届いた。私は率直に嬉しかったが，母はその時，青ざめた顔つきであり，それを見て私は割り切れない気持ちがこみ上げてきた。弟たちは「南洋まで何しに行くのだ」と怪訝そうに私を見つめていた。

さて，私はこれまで，タイピストになりたいと思っていたので，日本タイピスト学院に入った。それは春日町（今の東京都文京区役所辺り）にあったが，時節柄，昼間はガラガラであり，十畳ほどの部屋には，夕方４時半以降になると，もう５，６人程度しかいなかった。先生は，１分間に80字打てれば一流のタイピストだと言われ，一生懸命練習した。「君は眼が素晴らしくよいね」とも言われたが，それは本当のことであった。私はめきめき上達した。大正４年に和製タイプが開発されて以来[11]，女性の希望する職業は，タイピストは，音楽家，保母に次いで３番目であった。

タイピストになれるのであったら，海軍でも陸軍でも何でもよかったのかもしれないが，それだけではなく，私は幼い頃，女の子と遊ばず男の子を子分にするなど男勝りであった[12]。おそらく，「お国のために」という気持ちは，その頃から芽生え始めていたのかもしれない。合格通知を受け取り，２日目に海軍経理学校に行き，陸軍航空本部に提出する父の「海軍在官証明書をもらうことになった。「陸軍のタイピストとして正式に採用されたとき，私は16歳と６か月。まだおさげ髪の少女であった。」[13]

〔別れ〕出発の日，東京駅は至る所にベニヤ板が張りめぐらされて，ホームは暗く夜のようであった。見送りの母も弟も黙っていたままであり，そのまま改札口で別れを告げた。ホームは兵士や軍属でごったがえしていた。軍用列車の窓は全てベニヤ板が張られており，外は見えなかった。ベニヤ板の隙間から外を見ると，母の手を振っている姿が見えた。お互いに見えないが，私も「行ってきます」と大きな声で叫んだ。列車の行き先は分からなかった。その後，兄も海軍飛行予科練習生に志願した。

〔宇品港〕東京駅を午後２時に出発し，既に翌日の午前４時25分であるが，その時，周りの声から「ここは広島」だということが分かった。列車を降り，駅裏で整列し名前を呼ばれ，各班に分かれてバスに分乗した。着いた場所は小さな宇品という漁港であった。担当の尉官が「君が海軍主計官の娘か」と言った。そこから７人の軍属と共に小舟に乗り，箱根丸という客船に乗り移った。出発するまで，予科練に行った兄の夢を常に見た。本当は私の行動を喜んでいないのではないのか」と思うのであった。

第２章　昭南島（シンガポール）

〔さらば日本〕宇品を出港して３日経ったころ，船は激しく揺れていたので目が覚めた。この船は瀬戸内海を抜けて太平洋をぐんぐん南下しているはずだ。船室の丸窓から，暗い海の遥か向こうにほの赤い灯が小さくちかちかしている。私は「日本のあかりだ。沖縄あたりだろうか。二度と見ることができないかもしれぬこの灯に目を凝らしながら，『さらば日本』と胸に念じた。」[14]のである。

船室は，Iさんという17歳の少女と同室であった。家族と離れて軍属としてたった１人で外国の戦地に行こうとしていた。どのような思いで軍に応募したのであろうか。私は少々感傷的

になったが，しかし「愛子の愛は，愛国の愛なんだ」と言い聞かせた。私は当時，玉音放送を聞くまでお国のためという大義を片時も忘れたことはなかった。お互いに頑張ろうと手を握り合った。そして彼女は，心の霧が晴れたように自分のことを話し始めた。浅草生まれで，５人兄弟の末っ子，この戦争で３年前に父を亡くし，その敵討ちのために軍属を志望したということであった。

〔船酔〕翌朝，いつもは食堂に行くと多くの兵士や軍属でいっぱいであったが，今朝はがらんとしていた。ほとんどの人は，船酔いになって食事どころではなかったのである。メニューはいつもどおりの食パンと目玉焼き，野菜の煮つけとミルクであった。食事の時，家族のことは考えないようにしていたが，Iさんとの会話でふと家族の団らんが頭の中をよぎったのである。その時，船は大きく傾き，テーブルの上の皿やフォーク，ソース瓶などが床に転げ落ちてしまった。コックは「大丈夫。ネズミがいる間は沈むことはない。」と笑いながら言った。

〔駆逐艦〕出発して１週間程経ったある日，Iさんから神宮外苑で行われた学徒壮行会で，その中の一人に許嫁がいたことを打ち明けられた。私は異性には関心がなかったが，彼女は，これからの人生に不安を感じていたのであろう。その翌日，兵士たちの声があちらこちらから聞こえてきた。空中戦が激しく，また，敵潜水艦を発見したことによるものだった。

この船は28隻の軍艦が護衛しているが，周りには敵艦を追撃する駆逐艦が飛び魚のように動いているのが見えた。正に戦争のただなかにいたのである。それと同時に背筋が凍るような緊張感に襲われたのである。「私自身が考えているようなタイピストの仕事なのであろうか。楽観的な予測は全く立たなかった。」[15]

〔下船〕護衛の軍艦が敵船を撃沈後，船は台湾の高雄沖に一時停泊したが，ここは亜熱帯であるのでじっとしていても暑かった。青年将校たちは海に飛び込んで泳いでいたので，このつかの間の安らぎの中で，昨日までの戦時の修羅場のことが嘘のように感じられた。Ｉさんは「日本に帰りたい」というので，そんな弱気にならずにがんばろうと勇気づけたのであった。

〔ジャングル〕昭和18年11月10日，昭南島に到着する。急ごしらえの港らしく，下船すると同時に蛇や猛獣が出そうなジャングルのような中を一列になって歩いた。目がくらくらしてきた。

〔街路〕昭和16年12月に真珠湾攻撃が始まったが，その翌年，フィリッピン，昭南島が日本軍に落ち，その時の名称の「シンガポール」は「昭南島」と名付けられたのである。

昭和17年６月のミッドウェー海戦で日本の主力艦船は撃沈される。アメリカの強さを見せつけられたのであるが，これよりも２か月前に東京に初めて空襲があった。昭和18年２月にはガダルカナル島が陥落，25,000人が戦死し，それ以来，アメリカ軍は完全に戦争の主導権を握ったのである。昭南島には，中華街のような所に屋台が並んでいるが，無数の日の丸もはためいていた。それを見た憲兵は「華僑だ」「日本人が１人で歩くのは危険だ」と伝えた。

〔消灯ラッパ〕私もＩさんも同じ隊の配属になり，部屋も同じであった。荷物の片付けをしていると，ジョンゴスという夫婦の現地人が，尋ねてきて挨拶をした。ジョンゴスとは「召使い」という意味で軍隊用語であるが，我々の世話をしてくれることになった。就寝時間になると，「サーッ」という音がするので何だろうと思っているとヤモリであった。「チィ，チィ，チィ」ともいう鳴き声で少しも眠れなかった

〔歩行訓練〕朝食後，校庭のようなところに呼び出されて朝礼が始まった。不動の姿勢から始まり敬礼の仕方，歩走の姿勢，服装，言葉遣いなど事細かに指示を受けることになった。またシンガポールは中国人，華僑，ユダヤ人，オランダ人など人種の多数の坩堝であるので，その見分けがつくように指導を受けた。昼食後は，照りつける太陽の中で兵舎の周りで歩行訓練を受けた。まるで兵隊そのものだと思った。言い知れぬ満足感に浸ることになったが，同時に母や弟たちのことが，まぶたに浮かんでくるのであった。

〔副官付き〕仕事部屋には古びたタイプライターが１台あった。しかし，活字が抜けていたので，これでまともな文章が打てるのだろうかと心配になった。

その時，通信兵の声がして副官に呼ばれたの

である。副官室は，椰子の葉とバナナの木でできた床の高い涼しそうな部屋であった。「本日付をもって，高級副官付を命ず」と告げられた。

副官より，「君は何歳か」と問われ，「16歳であります」と答えたが，その後で，副官は「父上は海軍士官だったようであるが，母上は寂しいだろう。これも『お国のため』だと思って頑張ってくれ．と告げられた。」私は「はい」と震えながら答えた。副官室での仕事は，初めの１週間ほどは兵士の持ってくる書類を副官に渡したりするなど秘書のような仕事であったが，中にはタイプする仕事はあるにはあった。

〔クアラルンプール〕昭和19年に入ると，タイプの仕事よりも憲兵と行動を共にすることが多くなった。1月にはマーシャル諸島が陥落した。国内ではB29による空襲が日増しに激しくなってきたことを聞いていたが，制海権も失い，南方の物資を運ぶこともできず，この時には，既に敗戦が決まっていたように思えたのである。クアランプールでは当然といえばそうであるが，激しい対日感情がみなぎっており，特にそれは華僑の間で強かった。

ヤモリは，今夜も鳴いていたが，ジョンゴスたちは決して殺さない。ヤモリは人を刺さないし，トカゲは神様だと思っている，とIさんから聞いた。スコールは猛烈である。ジョンゴスたちは，その中に飛び込み，着ているものを椰子油で洗濯する。スコールは30分程度で止む。

〔脱出〕空襲が激しくなってきた。兵士たちは防空壕を掘るのが日課になっていた。３月，私は，早く病院船が来るようにと，南十字星を見ながら合掌したのであるが，カトンの飛行場からは真夜中に飛び立つ飛行機のエンジン音がしたので特攻隊が出激するのだろうかと思った。そのような折り，昭南島に焼夷弾が落ち，女性軍属が３人亡くなったと聞かされた。

翌日，私とIさんは副官室に呼ばれ，内地送還の命を受けたのである。船は病院船である。憲兵から「女子軍属二名ほか負傷兵。明日入港予定の病院船にて，内地帰還を命ず。以上」であった。一睡もせず，身の回りの片付けをして，翌朝，トランク１つに軍服姿でIさんと共に船のタラップを踏みしめた。日本から一緒に来た８名の女性軍属は，私とIさんの２人だけになっていた。

第３章　マニラ

〔病院船〕昭和19年４月，乗船した病院船の中は，傷病兵でむせかえっていた。Iさんも同じ部屋だった。あるとき，甲板に出ていると，白い病衣を着た青年将校が話しかけてきた。陸軍の落下傘部隊にいたが，不運にも胸を患い内地に送還されることになったという。

バタバタと廊下を足早に歩いている音がしてきた。40がらみの白衣姿の看護婦長が，ドアの前で，早口で「病気の人は仕方ないが，元気な人は直ちに甲板に集合するように」と言った。甲板に行くと，先の青年将校はいなかったが，その代わりに白い病衣を着た兵士と軍服の兵士が12，３人ほど整列していた。

甲板に繋がる階段の横に５つの棺桶のような物が並んでいた。それらを甲板に引きずるようにして出し，そして亡骸を棺から出してカーキ色の軍の毛布に包み縄を掛け，５つの遺体にそれぞれ軍旗が掛けられた。それを見ていると，私は目眩がしたのである。縄を掛ける兵士たちの心中に思いを寄せるとき，胸が張り裂けそうになった。

「全員黙祷」と将校の号令が響くと，私たちが歌う「海ゆかば」の中で，毛布に包まれた遺体は，１つ１つ海に投げ込まれた。水葬である。戦争とはいえ，むなしい別れであった。この時，私は17歳であった。

〔岸壁〕昭和19年３月，イギリス領インパールに侵攻を図ったインパール作戦は大失敗に帰した。南シナ海には敵の潜水艦が無数に出動しており，いつ攻撃されるか分からなかった。病院船といえども敵戦闘艦から攻撃され，甲板には兵士の死骸が増えた。昭南島を出発して３週間目に入ったが，この先どうなるかは，誰にも全く予想もつかなかった。

穏やかな南シナ海は，空と海からの戦闘海域へと化した。運び出された傷病兵の遺体が並んだ甲板で，丸山中尉から「船が沈んだら必ず背丈よりも長い布を体に巻き付けろ。サメは自分よりも長い物は食わない。」と教えてくれた。海に投げ出された遺体は，おそらくサメの餌食になるのだろうと思うとゾッとした。

私たちの病院船も魚雷攻撃を受けたが，傾きながらもマニラ港の岸壁に着いた。出向してから４周間目であった。船底でうめき声を上げていた傷病兵たちはほとんど消えていた。

〔赤十字病院〕病院船は，船尾に受けた砲撃で右に傾きながらマニラまで来るのがやっとであった。トラックに乗り込み学校のような所に着いたが，それは赤十字病院であった。病院には，日本赤十字従軍看護婦総婦長がいた。そこで言われたことは，「あなた方は，輸送船が来るまでここにいなさい。ただしね，従軍看護婦が数名しかいないので，手伝ってもらう。」直ぐに，看護婦に呼ばれ「今日，只今より傷病兵の看護を手伝ってもらいます。」と言われた。その時，トラックが到着したばかりであった。

〔箸〕上着はボロボロ，ズボンはズタズタに破れ，腰からワカメがぶら下がっているような兵士の群れがいた。何日もニューギニアやラングーン辺りからジャングルをトラックで駈け抜けて，やっとここに到着したのであった。トラックの移動中や，ここに着いたとたんに息を引き取った兵士もいた。

看護婦たちは，10人ずつに並ばせた傷病兵に白い塗り薬を塗っていくが，私たちもその手助けをした。「私は日本人です。安心して，何か言ってください。」と言うと，ポケットから握りしめていた手紙や日記を出して，安心したかのように，次々と息を引き取っていった。それは，家族へ宛てた手紙であった。中には住所と名前を書いたものがあり，終戦後，私はそれを頼りに遺族に遺品とともに送ったのであるが，果たして届いたのであろうか。終戦から50年が経とうとしているが，地獄絵のようなこの光景は，私の脳裏から消えることはない。

傷病兵は毎日のように到着した。「顔を見てください私の。日本人です。」そう言うと，しっかり握った手を離して，小さなメモ，封筒，スプーン，箸などを「日本に帰ったら，家族に渡してくれ。」と言って息を引き取るのである。懸命の看護をしても，夜が明ける頃には，ほとんどの兵士は毛布に包まれて体育館のような所に並べられた。

〔混血児〕足が象のようにむくんでいる。疲労のため，皆，口を聞く者はいない。私は顔を洗いたくなり洗面所に行くと，後ろから人の気配がした。振り向くと，襟首を捕まえられ平手打ちを食わされた。私も軍装のベルトを抜き取り相手の首に巻き付けた。騒ぎを聞きつけた看護婦が来てくれ，その人物を連れ出してくれた。それは髪の毛が栗色の可愛い女の子であった。ユダヤ人とオランダ人の混血で日本軍の捕虜としてこの病院で働いているが，両親をこの戦争で失い，日本人を殺したいほど憎んでいるということであった。

その時，丸山中尉に会った。病院船の甲板でこの病院のことを話したことを思い出した。「自分は明日，飛び立つかもしれない。どうか，無事に日本の土を踏むことを願っている。」中尉の目は私をしっかりと捉えて，「もしも，日本に帰れたら，君をお嫁さんにしたい。」と言った。余りにも唐突な言葉に，私は自分の耳を疑った。

〔出港〕私はまるで，従軍看護婦のように働いた。朝は病院内で陸軍航空本部との連絡の仕事をして，夜は病室で看護の手伝いをした。輸送船も１か月が来るというのに，一向にその気配がしない。食べ物も少なくなり，三度の食事は麦飯と味噌汁だけになっていた。その代わり，小さなモンキーバナナは豊富であった．これが毎日の食事代わりとなった。

この前，私を襲った混血のあの可愛い少女が部屋に入ってきた。丸山中尉殿が私をお呼びだというのである。私は急いで中尉に会うと，中尉はぼんやりとして「明朝早く，輸送船が入港する。無理をしてでも乗り込みなさい。これを逃すと，２，３か月はマリラに居なければならない。」と早口に言い，「Iさんも一緒に。早く仕度をしなさい。」私はこきざみに体が震えた。どんなことがあっても生きて日本に帰り，陸軍航空本部に報告しなければならない，と思った。昭和19年６月のことであった。

第４章　内地帰還

〔輸送船〕甲板には，頭や手に包帯をした兵士たちがひしめき合っていた。私に内地に帰ったら「お嫁にしたい」と言った丸山中尉は，胸部疾患で内地送還であったが，この輸送船には乗船していなかった。戦況のため，病を押して出撃しなければならなくなったのか，再び会うこ

とができないのか，不吉な予感が頭の中を駆け巡った。船は傷病兵でひしめき合い，治療も満足に受けられない中でひたすら日本に帰ることだけが，皆の希望であった。やはり，丸山中尉の姿はどこにも見当たらなかった。

ハンセン氏病の患者がいるという噂が立ち，また，コレラ患者が出たという情報が伝わった。そのため船は台北に緊急停泊した。箱根丸で戦地に向かうときはエネルギーに満ちていたが，この輸送船では打ちひしがれた者ばかりで，その落差を感じられずにいられなかった。

そのような船に，台湾人が小舟に乗りバナナを売りにやって来た。少し青かったが，帰国するまでには食べ頃になる，と言われたので迷っていると，23，4の男性が私の分まで買ってくれた。聞けば，浪曲師の広沢虎造の一番弟子の広沢菊春だというのである。そこで，得意の「清水次郎長」を聞かせてもらうことになった。彼は戦後，昭和50年ごろ「左甚五郎」で一躍有名になる。こういう出会いもあった。

〔大阪港〕 船は，太平洋から東シナ海を抜け，北進していた。誰かが甲板で大声で「島が見える」「日本だ，日本だ」と叫んでいたので甲板に出て行った。輸送船は３週間の航海で，何とか無事に大阪港に到着することができた。

岸壁には，30人ほどの白い割烹着にモンペ姿の愛国婦人会や国防婦人会のタスキを掛けたお母さんたちが懸命に日の丸を振って出迎えてくれた。「御苦労様でした」という言葉とともに，何度も何度も頭を下げながらねぎらってくれた。その時，憲兵より「バナナは海に捨てる」という声があった。驚いて振り向くと，憲兵はバナナを海に投げ捨てていた。コレラ患者が出たためであると，その理由を聞かされた。

その後，大阪天王寺にある赤十字病院に行く専用バスに乗り込んだ。疫病検査のためである。私たちを乗せた輸送船は，直ぐに門司港に向かって出港した。

〔面会〕 検査の結果，私は肺浸潤に罹っており，37度ぐらいの微熱があり，療養と加療が必要との診断であった。軍医は，しばらく様子を見るといい，それから２か月程入院することになった。しかし，ここでもマニラと同様に，看護婦代わりに，言葉は悪いが，こき使われることになる。

熱は一向に下がらなかった。大阪にいることを，一日も早く母に知らせなければと思っていた。その矢先，看護婦の山下さんが「加藤さん，面会です。」と声を掛けてくれた。玄関正面の待合室に行くと，私は一瞬息をのみ，自分の目を疑った。そこには東京にいた母がモンペではなく，夏大島の着物を着て座っていたのであった。

母は前のめりになり，よろめき掛けた。そして，お互いの手を握り合った。母は，航空本部から連絡を受け，10時間かけて着てくれたのであった。８か月ぶりに会ったのであるが，面会時間はわずか10分間であった。兄は予科練に入り，今，弟たちと３人で東京の佃島の知人宅の２階を借りて住んでいるということであった。母の帰りに砂糖を土産にした。

〔夜想曲〕 この病院には，戦地で負傷し帰還した人，結核患者である人が10人ばかりおり，いずれも私と同じ年か20代の前半であった。昼食後，私はこれからの自分の居場所をどうするかを懸命に探していた。学徒出陣の恋人の後を追って，軍属になった女性も多く，その話になると決まって涙を流した。私も丸山中尉のことを思い，「せめて生きていてほしい」と願ったのである。

この病院には新聞はなく，ラジオは上官たちが占拠し，私たちは廊下の隅で歌謡曲や浪曲を漏れ聞きする程度であった。戦争は．相変わらず勇敢に戦っているという話しばかりであり，本当かと思った。現実を見てきた私は，にわかに信ずることはできなかった。

〔退院〕 この病院に来てもう２か月が経とうとしている。どこも悪くはないので，もう限界だと考え，軍医長に，家庭の状況を話して早く退院させてほしいと直談判した。「しかたない」と軍医長は認めてくれた。「明朝退院許可証と外出許可証を出す。それを東京の航空本部に出すように」と告げられた。トランクには，昭南島で買っておいた椰子油のバターやチョコレートを入れて病室を出た。

皆が手を振ってくれた。国鉄天王寺駅に行く途中，半袖のジャケットにスカートという軍服に，昭南島で買った白と黒のツートンカラーの

靴を履いた私を，通行人が珍しそうに見た。

第５章　軍属解任

〔夜汽車〕大阪駅までの列車は，国民服を着た男性やモンペ姿の女性たちが乗っており，くすんだような雰囲気であった。大阪駅に着き，東京行の夜汽車に乗った時には，車内は空いており，男たちの姿は見えなかった。灯火管制の町は暗黒の夜に閉ざされ静まりかえっていた。やっと東京駅に着き，真夏のきつい光を受けている白い丸ビルを見た時，生きて日本に帰った実感を初めて味わうことができた。

〔報告〕その時，二人連れの警察官が来て，私を呼び止め「きみ，この非常時にスカートとは何事だ」というのである。「たった今，昭南島より帰国しましたので」と答えたが，強制連行され取調室に座らされた。身分証明書を出し，これから直ぐに陸軍航空本部に行かなければならないと言うと，急にそれまでとは違う厳粛な顔つきになり「ご苦労様です。」と言った。

連行した警察官が「その洋服では困ります。警察の車で送りましょう。」と言う。私は「これは軍服ですよ。」ときりりとして答えた。昭南島で買った色と黒のツートンカラーのバックスキンの靴，半袖の開襟ブラウス，ベージュ色のスカート，それに上着を左の腕に抱かえて，右手はトランクという格好は軍装といえども珍しかったのであろう。

航空本部の正面で身分証明書を出すと，若い衛兵が捧げ銃をして迎え入れてくれた。大尉の部屋で，「加藤愛子，内地帰還を命じられました。」と最敬礼をした。大尉は「ご苦労であった」と言った。私の軍属の任務はこの重厚な言葉とともに終わりを告げた。

〔再会〕航空本部からタクシーを拾った。運転手に行先は佃島しか分からない，と言うと，それでも佃島の方向に向けて走ってくれた。母からは，大阪に面会に来てくれた際に，兄の友人の姉の家を借りているということは聞いていたが，住所を書いた紙きれを紛失していたのだから，「佃島」だけで探すより手立てはなかった。

タクシーから降り，路地裏に住んでいるような予感がして，その方に向かうと界隈で主婦たちが立ち話をしていた。その時，「加藤さんの娘さんでしょ。」という声がした。中年の女性が大声を上げて，下駄を鳴らして走ってきた。買い物をしていた私を見て，まさかと思いながら声を掛けてきたのであるという。

「加藤さん，加藤さん，娘さんが帰ってきたわよ。」２階から弟たちはきょとんとしていたが，母は慌てて階段から足を踏み外しながら降りてきたのである。「これが娘の愛子です」と言うとその女性は「本当によござんしたね。加藤さん」と言って，また露地を掛け抜けて行った。

〔おみやげ〕弟たちは，「お土産は」というので，昭南島で買ったチョコレートやバターをトランクから出すと大喜びであった。その日の夕食は，豆腐とヌタだけであったが，久しぶりに食べる母の夕食はおいしかった。「世間様には済まないが，米七分に麦三分にしている」とのことであった。

母は昭南島のこと，帰還船でのこと，大阪の病院のことなどを聞いた後，兄は予科練に行きとても不安であることなど，大阪での面会時と同じことを繰り返して聞いてくるのであった。

〔疎開保母〕母は「お前もモンペをはかなきゃ」というので，スカートを脱いで履き替えた。弟たちはゲートルを巻き始めた。その理由は，夜中は危ないから，きちんと身支度をしておかないとね，ということであった。灯火管制の下で，毎日，同じようなことを繰り返しているのだという。

ふと，押し入れの中を覗くと，傷んだ壁に新聞を張って修理していたが，その記事に「学童疎開の児童に同伴する保母募集」という記事が目に付いた。田舎のない子供たちは，親元を離れて学童疎開するのであるが，先生たちは応召されて不足しているので，その子供たちを世話をする保母を募集していたのである。

母に学童疎開の話をすると，「帰ったばかりなのに」と困ったような顔つきをして，「どこにも行かないでほしい」というのである。私は空襲で焼け出された後に疎開先に必要な物を送っておけば安心ではないのかというと，母は黙っていた。

２日後，母は上等の羽根布団などを用意してくれた。こうして，宮城県鳴子が，私の疎開先

になり，終戦を迎えることになる。

2つの作品についての考察

以上2つの作品について，次のようにまとめておく。

① 『従軍タイピスト』と『軍装のタイピスト』の主人公尾崎多摩子と加藤愛子の共通点は，共に女学校を卒業し，タイプを学び陸軍に入るタイピストであり，年齢は16，7歳の少女である。父親も軍属であったが，愛子の父親は早逝している。

② 多摩子は，「女で従軍できるこんな名誉なことはない」「私は家のために働くのではなく，父と同様に蒙古を築くために働く」というように，その言葉には，一命を賭して「国のため」に働くことを第一の目的としていることがうかがえる。「タイピストとして蒙古に行くの。もう二度と帰らないつもり」と友人に別れを告げたこの言葉にも，国家のために尽くす意志がよく表れている。

愛子も，面接では「お国のために尽くす」と答えている。2人ともこのような動機で陸軍のタイピストになるのであるが，それを知った家族は深く憂慮するのである。

③ 多摩子は，出征地の張家口において，銃撃の響きの中でタイピストとして業務に当たる。しかし，激務のため，職業病と伝染病でわずか19歳で戦病死する。多摩子の最期を見取れなかった父親は，多摩子の遺品を見ながら，彼女が生活費の負担など，家族のことを常に思い生きていたことを知り，我が娘に対して改めて思いを馳せ，頭を下げるのである。

愛子は，戦地に向かう船の中で「タイピストの仕事はあるのかどうか」不安な気持ちに駆られるが，それは当たっていたのである（この作品においてもタイプライターに関する言葉（例えば，「タイピスト」「タイプライター」「タイプ」などは，11ほどしかない）。

彼女は，まず激戦の昭南島（シンガポール）に到着し，当地やマニラでの戦地では銃声の中で任務に当たり，また多数の傷病兵の看護の手伝いを命じられるのである。実際，タイピストの仕事どころではなかった。そして，戦況の悪化から，19歳で帰還命令を受ける。

戦地においてもそうであったように，帰還の際の病院船の中で多数の傷病兵に接し，また水葬を繰り返し見てその家族のことを思い浮かべながら胸が張り裂けそうになる。途中，台湾を経由し，無事，帰還し東京の我が家に着く。母は驚き，2階の階段から足を踏みはずしながら出て来るのである。

④ 『従軍タイピスト』は戦時中の1941（昭和16）年に，『軍装のタイピスト』は戦後48年目の1993（平成5）年に出版された。前者は，青野季吉「跋」の中で，この小説は決して通俗小説ではなく，「若い女性の隠れた意志と情熱の化身と云ふ，代表性を賦興することに成功している。」[16] と戦時中の出版物として高く評価する。

ところが，『軍装のタイピスト』の執筆者の澤田愛子は，「あとがき」によると，「私が外地で見た歴史の現実は，必ずしもすべての日本人の共通体験とは言えないかもしれません。」[17] と断りながらも，1989（昭和64）年，昭和天皇が崩御し，夫にも先立たれた筆者がそれを契機に，「自分の過去をきちんと精算しなくてはという衝動が，静かに沸き起こったのです。」[18] そして，「昭和が続く限り，話せなかったこと，口に出すことすらはばかられたことを，今こそ克明に記述し，もう一度しっかりと自分の人生を問い直し，昭和という時代をとらえ直してみたいと思いました。」[19] それが，この作品となっているのである。

⑤ 以上から，次のことが言える。川島武宜は，戦前の家族制度は，武士階級に見られる儒教的な家族制度と，農民に代表される民衆の家族に見られるそれとの2つがあるという。前者の家族制度では，家長の下に成員はその権威に対して恭順に従うのであり，後者においては家族は「互いに睦み合う」その「共同的な雰囲気」を権威として認識し従うというのである。ここでは上下の区別はない[20]。言うまでもなく，明治政府は前者の家族制度を国体になぞらえたのである。

⑥ このことについて，戦後，ラッセルは，日本は主権在民の民主国家になったとはいえ，「現代人の心にはあまりにも奇想天外に見えるので，これが本気で主張されたとは信じられない

ほどである。」[21] と言っている。戦後もこのような戦前の残滓を，磯野等によると，「格別に『奇想天外』とは感じない日本人も少なくはない。」[22] と言う。それは，いずれの家族制度においても，「個人」が存在していないからである。

この２つの小説も，我が国の家族制度が色濃く反映されており，わずか16歳で多摩子も愛子も自ら進んで「お国のために」タイピストになり，軍属になるのであった。しかし，多摩子も愛子も，またその家族も常に外面的には「お国のため」であるが，その内面は，二つの家族制度における家族とは異なる真の家族愛に満ちているのではないか。このように考えれば，タイピストになったのも，「個」は表面化されてはいないが，心底には「個」としての家族愛のためであったと読み取れる。

多摩子の場合は，出版が戦時中ということもあり，文面では内面が抑えられているが，死に直面して外面が背後に押しやられ，内面が表出して両親のことと仕事（タイプ）の譫言を漏らすのである。ここでは，家族愛と「お国のため」の「滅私奉公」の両面が表れている。

愛子の場合は，戦中派としてこれまで押さえつけられていた内面が，天皇の崩御に際して一挙に吹き出し，「思い出すだけでの胸が張り裂けそうになり，血圧が高くなって体が震えてくるのです。しかし，勇気をふり絞って，過去を蘇らせることにしました。」[23]「するとどうでしょう。辛くて暗いだけの毎日と思っていたあの頃にも，梅雨の晴れた日の空のような日常が思い起こされてくるのです。」[24]

少女時代に戦争にもてあそばれ，巨大な力に抗することはできなかったけれども，その時の人々と共に時代を懸命に生き抜いてきたことを，本書を執筆することによって歴史を批判し，戦後48年ぶりに「個」としての真の内面を取り戻すことができたのである。

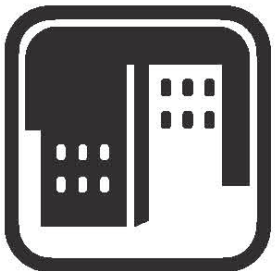
⑦　ラッセルの言葉からも理解できるように，このことは，日本文化の特色であり，現象的には儒教的家族の内面を国家という外面が擬え，あたかも内面的な外面によって国家を統治し，歴史を動かすように考えた「擬制化」という言葉で言い表すことができるのである。ただし，この場合の「内面」は「個」としての内面ではない。

この２つの作品を読み終えると，当時の２人のタイピストは，少女でありながら，戦火の中で，また厳しい上意下達の規律の中で，命を賭け精一杯，生き抜いてきたことが読み取れる。多摩子と愛子の時代よりやや遡るが，第14回で論じてきた，軍服とは関わりなく，就業後は着物から洋服に着替え「銀ブラ」するなど，体制を批判するかのように，自由な生き方を求めようとした同じ年代の職業婦人としてのタイピストとは大きく異なっている。いずれ，この両者の比較検討をしてみたいと思う。

注

1) National Museums Scotland（https://www.nms.ac.uk/explore-our-collections/stories/science-and-tecnology/the-typewriter/2024年５月９日参照）。“fangle”という言葉であるが，これは“new”を付けて「新しい流行」と訳すが，軽蔑的意味があるという。（研究社新英和大辞典）。マーク・トウェインのこの言葉は，次の文献にも使われている。
Herkimer Country Historical Society, The History of the Typewriter:1873-1923, Herkimer, 2019, p.73.
（https://www.gutenberg-org/files/60794/60794-h/60794-h.htm　2023年５月23日参照）
2) 櫻田常久著『従軍タイピスト』赤門書房，昭和16年４月20日，２刷発行，41ページ。（初刷も同じ）
3) 同上，60ページ。
4) 同上，104～105ページ。
5)「T.B.」とは，「tuberculosis」の略で，結核の略語である。職業病との関係では，仕事からくる不調などをいう。
6) 同上，142ページ。
7) 同上，100ページ。
8) 同上，188ページ。
9) 同上，214～215ページ。
10) 澤田愛子著『軍装のタイピスト－あの時代を駈けぬけた17歳の記録－』中島書院　1993年10月１日，第１刷発行，15ページ
11) これは，これまで取り上げてきた杉本京太が1915（大正４）年に発明した和文タイプライターの基礎となる直接平盤式という機種である。
12) このような軍属志望の動機は，言葉は異なるが，『従軍タイピスト』の主人公，尾澤多摩子と同様である。
13) 同上，24ページ。
14) 同上，65ページ。
15) 同上，75ページ。
16) 櫻田常久著『従軍タイピスト』232ページ。
17) 澤田愛子著『軍装のタイピスト－あの時代を駈けぬけた17歳の記録－』185ページ。
18) 同上，184ページ。
19) 同上，184ページ。
20) 川島武宜著『日本社会の家族的構成』日本評論社，昭和47年12月15日，第１版第24刷発行，７～12ページ。
21) 磯野誠一・磯野冨士子著『家族制度－醇風美俗を中心にして－』岩波新書，1974年11月10日，第16刷発行，２ページ。
22) 同上，２ページ。
23) 澤田愛子著『軍装のタイピスト－あの時代を駈けぬけた17歳の記録－』184～185ページ。
24) 同上，185ページ。

Shift Work Challenge



労働科学研究所が設立以来、一貫して行ってきた夜勤・交代勤務研究の成果をまとめ、夜勤リスクをかかえる現代社会の人々に大いに活用していただくために、夜勤・交代勤務検定を始めました。今回新たに検定試験と研修を経て、交代勤務アドバイザーの資格を得る仕組みをつくりました。検定試験への挑戦を通して、夜勤のリスクを正しく知ることで、健康対策や事故の予防につながり、夜勤に関する個人と組織の取り組みに役に立ちます。

本書の構成

Ⅰ章　夜勤・交代勤務　QA
1　夜勤・交代勤務の人間工学的な勤務編成
2　産業別の夜勤・交代勤務
3　夜勤・交代勤務の生理学・心理学
4　夜勤・交代勤務の知識
Ⅱ章　シフトワーク・チャレンジ　想定問題
索引　裏引き用語集

好評　廉価版

［普及版］

シフトワーク・チャレンジ

夜勤・交代勤務 検定テキスト

深夜に働くあなたと、あなたの周りの人に知ってもらいたい 80 のこと

代表編集
佐々木 司

公益財団法人 大原記念労働科学研究所
シフトワーク・チャレンジ プロジェクト企画委員会

■体裁　B5 判並製　112 頁
■定価　本体 1,000円＋税

図書コード ISBN 978-4-89760-332-2 C 3047

〒 151-0051
渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12
桜美林大学内 3F

公益財団法人
大原記念労働科学研究所

TEL：03-6447-1435（事業部）
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/

株式と労働 3

派遣社員の登場

坂本 恒夫

職員を２割カットしたい

2004年のある午後の話です。当時，私は，M大学の教務部長をしていましたが，理事長から「話がある。」と呼び出されました。

話は，「職員を２割削減したい。」というものでした。「学生のサポートや教育サポートは，どうなるのでしょうか。」と私は尋ねました。

「いや，それは心配いらない。派遣社員を雇うからネ。」

これが，M大学派遣社員導入のはじまりでした。

その後，M大学では，職員が停年退職を迎えても，補充はありませんでした。後任の担当職員には，派遣社員が送り込まれてきました。

派遣された職員は，私が知る限り，みなさん立派な方々で，仕事熱心でした。決まった時間に出勤され，定時，例えば夕方５時に時間どおり退勤されます。能力も高く何の問題もないように思われました。

勉強不足で，世間知らずの私は，すっかり理事長の最初の言葉「職員を２割カットしたい」を忘れていました。



さかもと つねお
大原記念労働科学研究所 主管研究員
明治大学名誉教授
静岡県立大学講師

雇用の流動化

後から勉強して分かったことですが，これが当時，企業の経営者が推し進めていた「雇用の流動化」でした。つまり，専任職員の給与よりもかなり低い給与ですむ非常勤職員への入れ替えでした。

そして高コストの固定的な給与から低コストの変動的な給与への変更です。

不勉強で鈍い私も，周りの職員の多くが非常勤職員に入れ替わっていくのを見て，初めてその問題の重要性に気が付きました。

現在，全国の大学で職員の半数程度が派遣社員ですが，その始まりが「職員を２割削減したい」の言葉でした。

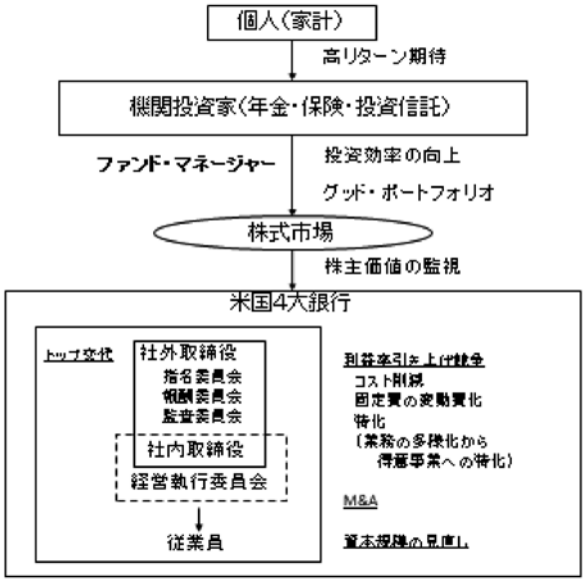
派遣社員の登場で専任職員の仕事・勤務の態様も変わってきました。

まず，専任職員の残業が増えました。派遣社員は，５時の定時に退勤しますので，やらねばならない残された仕事は，すべて専任職員に廻ってきます。専任職員の残業時間が増え，当時はまだサービス残業が当たり前でしたから，そこかしこで専任職員が夜遅くまで働く様子が見られました。

次に，専任職員の責任が重くなりました。専任職員の絶対数が減っていますので，いままで10人で担っていた責任の重い仕事が，８人の専任職員に集中的に担わされたわけです。

株主価値経営

「派遣社員」→「雇用の流動化」の本質は，実は「株主価値経営」の一般化でした。



図表１　株主価値経営の仕組み

出所：筆者作成

株主価値経営とは，株主にすべての利益を収斂するやり方です（図表１参照）。

利益を創り出す方法にはいろいろありますが，主なものは，コストの削減，特化（低い収益率の事業を高い収益率の事業分野に集める），固定費の変動費化（減価償却費を利用コスト化へ転換）などです。

雇用の流動化は，固定費の変動費化の一つです。正規職員・常勤職員・専任職員などと呼ばれている人を解雇して，非正規職員・非常勤職員・臨時職員に入れ替えていくのです。

企業経営から見ると，これには２つのメリットがあります。一つは給与コストを大きく削減できます。非正規職員の給与は，正規職員の３分の１程度ですむのです。また，各種の手当のいくつか，さらに，賞与も要らないのです。

２つ目のメリットは，雇用の継続性の断絶です。つまり，必要なときに雇い，必要でないときは雇わなくてすむということです。

しかしこのようなことは，働く立場から見ると，大変なことです。まず収入が減ります。各種の手当てももらえません。賞与もありません。また，いつ解雇されるか分かりません。生活は極めて不安定になります。

特に重要なのは，経済的だけではなく，意識的にも「格差」が生じることです。それは，＜正規は偉く，非正規はそれに従う＞という意識です。

２つ目は，自立的かつ主体的な生活ができなくなります。労働という営みを企業に，他人に依存することは，「人間の自立性・自律性を喪失」するということです。

派遣社員の悲劇

現代の企業には，頂点に株式の所有者である株主が存在し，底辺に仕事の担い手である労働者がいます。

頂点の株主は，株主価値経営で最大の利益を実現しようと考えます。

そして，それだけではなく，労働者を分断しようとします。正規と非正規，そして正規と派遣というように，細かく分断・区別しようとするのです。

情報を切断することにより，管理をしやすくするのです。

＜派遣社員制度＞の究極の悲劇は，労働者の格差・非自律性・そして分断です。

次回は，「株式の本質と労働」です。

凡夫の安全衛生論議
［疑問と思い込み］
19

マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で④～

福成 雄三

認証を受ける必要はあるか

事業を進める中で防災や環境に関して大きなリスクを抱える石油メジャーなどの企業は，安全衛生管理にも熱心で，単なるサプライヤーに対してであっても安全衛生管理や環境管理に高い水準の取り組みを求める面がある。サプライヤーや下請の安全衛生管理を含む労働条件を犠牲にして収益を挙げることに対して近年批判が集まっていることに近いものがあり，社会的責任を果たすという大義を掲げての要求になる。石油メジャーが代表格だが，他の産業でもこのような傾向が見られることもある。

ネットワークを活かして社会課題に取り組むことは決して悪いことではなく，望ましいことだと思うが，具体的に何を求めることが適当なのかを示すことは難しい。組織マネジメントの手法は，それぞれの組織にとって好ましい（適している，効果が上がる，効率的にできるなど）形があり，幅がある。比較するのは必ずしも好ましいとは思わないが，世界で200程の国家であっても，「その体制はさまざま」なことと類似している。稚拙な言い方だが，他国との争いもなく，その国民が幸せに生活できていれば，他国が干渉すべきことではないと思うことと似ていると思う。

現実には，取引先などとの「力関係」で物事が決められ，それを受け入れて安定的な状態が維持されている組織がある。担当者や事業者が，このような状態の中にいることに「安心」を得ていることもある。このような視点が背景にあると思うが，営利企業にとって取引先（ユーザーなど）の要求は，収益に影響を与えかねないこともあって慎重に対応を検討することになる。取引先からの要求が合理的であればいいが，「マネジメントシステム規格に沿っているか」を指標として位置付けられていることがあり悩ましい。

このようなことを思っていた筆者だが，安全衛生管理に関する国際標準の流れに外堀を埋められてきていると感じたことがある。勤めていた会社の業界の世界組織の安全衛生委員会に1995年から15年の間に海外で開催された委員会に10回以上出席し，海外の同業他社と安全衛生管理について情報交換してきた。日本からは，いつも筆者一人の出席だった。メンバーの会社の取り組みを互いに紹介するプレゼンテーションを聞く中で，OHSAS18000の認証に取り組んでいる会社が2000年を過ぎた頃からだったと思うが増えてきた。欧州だけでなくアジアや中東の会社もあり，安全衛生管理における世界の流れを感じた。ただし，だからと言ってOHSASの認証が安全衛生水準の高低を決定付けているとは思われなかった。

また，同じ頃だったと思うが，筆者のいた会社と技術交流を行っていた台湾の会社が，安全衛生管理についての交流を希望して来日したため，筆者らが応対した。会社の安全衛生管理の取り組みを幅広く説明した後の先方からの質問が印象に残っている。「いろいろと取り組んでいることは分かったが，どんなシステムで取り組んでいるのか教えてほしい」と言われた。このときに言われた「システム」という言葉が印象に残った。OHSAS18000の考え方を取り入れているかを聞かれたということだと思う。こ

ふくなり ゆうぞう
公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員（アドバイザリーボード）
日本人間工学会認定人間工学専門家，労働安全コンサルタント（化学），労働衛生コンサルタント（工学）

の時も，だからと言って，認証を受けることが必要だとは思わなかった。

JISHA 方式 OSHMS 適格認定を受ける

マネジメントシステム規格に基づく認証にいろいろな面で疑問を持っていた筆者だが，本社の安全衛生部門として社内全事業所で労働安全衛生マネジメントシステムに関する認証を受けることを関係者・各事業所に諮り理解を得た。一般的な動機とは異なるところを目指した取り組みだった。

2000年頃からだったと思うが，筆者のいた会社の取引先の複数の石油メジャーから会社の安全衛生管理について質問されたり，意見を言われたりすることが増えた。本稿の冒頭に書いた流れの中でのことになる。この関連で営業部門等から安全衛生部門に対しての協力要請も増えてきた。マネジメントシステムの認証を受けることが求められた訳ではなかったが，認証取得をいろいろな意味で活かすことはできないかと考えるようになった。外圧に屈したというよりも，外圧を活かして社内の安全衛生水準を向上させようと思ったからということになる。外圧に対してそれを避けるための方策の実施を担当部門に求めることになりがちな社内での発想を勘案して取り組んだ面もある。

この頃タイミングよく中央労働災害防止協会（中災防）がJISHA方式OSHMS適格認定という独自の認定制度を開始することが分かり，この認定を受けようと考えた。この制度はOHSAS18000も横にらみしながら，労働安全衛生規則に規定された指針とILOのガイドラインILO-OSH 2001を後ろ盾と位置付けていた。

取り組みに当たって考えていたことは，大まかに言えば四点ある。一つは，この認定を社内の全事業所が取得することにより，各事業所の安全衛生管理レベルをシステマティックに向上させようとしたことにある。社内には６箇所の製造所（いずれも歴史があって，規模も大半は大きかった）があり，いずれも安全衛生水準向上に真摯に努力していたが，それでも安全衛生の管理レベルには差があった。それぞれに歴史があるが故にといった面もあり，「気合い」や人間関係に力を入れて安全衛生活動を進めている事業所もあった。そのような事業所は安全衛生水準をスパイラルアップさせていくためには，ハード面や制度面の対策に一層目を向ける必要があるし，幹部を含めた従業員の意識もさらに向上させなければならないと思い，その手段としてマネジメントシステムを活かそうと考えた。全体としては，従来から各事業所の安全衛生管理の取り組みを活かすことをベースにマネジメントシステムとして整えるとともに，会社にとって必要と考える独自の視点での取り組みを付加して取り組もうと考えていた。

例えば，事業所内の内部監査とは別に，会社として本社が主導して実施する事業所対象の社内安全衛生監査を制度化して，この監査を通して全事業所が安全衛生管理の一層の充実に取り組むように誘導しようとした。社内監査の監査員には監査対象以外の事業所の安全衛生部門の責任者を加えることで，事業所間のレベル差の解消を意図した交流の場ともした。

社内の安全衛生管理に対する意識を高めるために社の安全衛生基本方針も利用した。その中では前文として記載した理念として,「我が国の安全衛生施策に先進的な役割を果たしてきた歴史を誇りとし，安全衛生を通しても社会に貢献し続ける」ことなどを謳い込んだ。社長の思いと齟齬はなかった。「思いのこもった」基本方針は各職場に掲示され，基本方針を見て刺激を受けた従業員や役員も少なくなかったと思う。

二点目は，中災防が新たに制度を作るのであれば，最初に認定（都道府県単位で認定番号が付与される）を受けて，各事業所がそれぞれ都道府県で最初の認定を受ける（認定番号１番となる）ことを目指した。都道府県で１番を目指すとなれば事業所の安全衛生部門の士気が高まる。事業所としても否応なしに従来以上に「しっかり」しようといった意識が強まり，安全衛生水準向上に向けての取り組みが後押しされる。都道府県労働局や地元の労働基準監督署からも注目されることになる。

三点目は，いろいろな意味で中災防との関わりが深かったこともあり，その新規の事業を後押ししようとの思いもあった。中災防には日本の産業界の安全衛生管理の向上を実務面で支えてもらわなければならない。中災防の制度は，

完璧でなくとも，「日本の産業界の安全衛生水準向上を図ることを目指したい」という意図を持った制度になると期待もしていた。安全衛生管理の実務を理解した審査員が審査に当たることも期待できた。筆者のいた会社は代表的な重厚長大産業で，このような安全面のリスクが大きな事業所が積極的に認定取得に取り組むことが中災防の認定事業を定着させるために欠かせないと勝手に思っていた。

四点目は，認証取得したことを社内の営業部門や管理部門からの評価にもつなげて，事業所の安全衛生部門の位置付けを高めようとしたことにある。営業部門のユーザーへのアピール材料の一つにもなる。認定取得後には社外向けのアピール資料をリーフレットとしてまとめ，関係部門に提供したりした。

このようなことを思いながら認定取得の準備を進め，計画的に認定を取得していった。この認定を受けたことが，関係者の意識を変え，安全衛生管理をスパイラルアップさせるといった意識が社内各事業所に従来以上に高まっていったと思っている。全社の安全衛生管理を担う立場では，スパイラルアップの考え方をさまざまな企画や施策の全社への展開に当たって利用した面もある。

このような認定取得の顛末だが，はっきりしていることは，認定によって評価を高めようとしただけではなく，認定を活かそうというはっきりとした意志があり，それを活かしていったということになると思う。決して受け身ではなかった。認定審査の中でも，事業所で認定審査に当たってくれた多くの中災防の審査員とも各事業所でさまざまなことに関する議論をしたと聞いている。

なお，その後会社は合併したこともあり，中災防の認定から，JISのマネジメントシステム規格の認証を受けることにしたとも聞いている。その後の対応については，筆者は詳しくは知らない。

まとめ

４回にわたってマネジメントシステムの認証に関わる持論を書かせてもらった。筆者は認証制度のことを深く理解していないと思われた読者もいるだろう。否定はしない。それほどに筆者に自信がある訳ではなく，気づいたこと，思ってきたことを正直に披歴してきた。マネジメントシステムが規格として活かすことができるといいと思う一方，改善すべき点もあるとの思いは変わらない。この連載で取り上げた視点を最後にまとめておきたい。

・最適な組織マネジメントは組織（会社，事業所等）によって異なる。一律の規格で組織マネジメントのあるべき姿を固定化して考えるのは適切ではない。

・マネジメントシステムの規格（要求事項）そのもののスパイラルアップが，認証審査という過程を通して行われることが欠かせない。審査の過程での受審側との議論も必要だろう。

・適格性の判断の基準には，受審側の組織に適した運用ができる幅が必要になる。

・認証審査の審査員には，審査分野の実務に関しての深い知識と高い見識を持っていることが望まれる。

・審査を受ける側（事業所等）は，認証を得ることだけを目的とするのではなく，マネジメントシステムを活かして品質，環境，安全衛生などの水準を高めていこうという事業所として意志があるといい。

・同じ発想で安全衛生と品質や環境などの管理や施策を考えることは適切ではなく，同列のものとすると施策の形骸化を生む恐れがある。従業員を含めた関係者がどのように感じながらそれぞれの取り組みを行っているのかをしっかり考えてみたい。

・マネジメントシステムの認証に関係なく組織マネジメントが的確にできる（従業員の力を最大限に引き出すことができる）人材の育成が必要だろう。

・事業所の安全衛生水準を高めていくためには職場や従業員の積極的な取り組みの拠り所となる規程基準が欠かせない。安全衛生管理をスパイラルアップさせるためのベースになる。

＜「わたしはこう考えます」…ご意見を＞
執筆内容についてご意見をいただきたいと思っています。次のアドレスにお願いします
ご意見送付先：publishing@isl.or.jp

塗り潰された「モネの池」
東京・井の頭公園　アオコ大量発生　悪臭の懸念も

千葉 百子

はじめに

今回紹介するのは，朝日新聞夕刊一面トップ記事である（2026年９月３日・写真１参照）。記事には「数年前までは澄み切った水が『モネの池』と評され，市民や観光客の目を楽しませていた。それが一変し，水は濁った緑色で，水中は見えない。池が抹茶ラテみたいになっている。公園を管理している東京都西部公園緑地事務所によると，植物プランクトンの藍藻が大量発生した『アオコ』が緑色の正体である。水に窒素やリンなどの栄養が多く含まれ，温度や日照の条件が重なると発生しやすく，池や湖が緑色になる。池底の有機物を含む堆積土や，昨夏以降の少雨で水の流入が少なかったことなどが影響しているとみている。一斉に死滅すると悪臭などを引き起こす」と，記されていた。

この記事を読んだ翌日，私は早速，井の頭池へ行ってみた。広い湖面全体が緑色のペンキを撒いたような不透明な濃い緑色であった。その湖上をゆっくり進むスワン・ボート（写真２），客待ちで待機しているスワン･ボートの群れ（写真３）の白色がひときわ引き立って見えた。


朝日新聞　The Asahi Shimbun　9月3日
塗り潰された「モネの池」
澄み切っていたのに
東京 井の頭公園
アオコ大量発生　悪臭の懸念も

写真１　井の頭池のアオコに関する新聞記事



ちば ももこ
大原記念労働科学研究所 客員研究員
順天堂大学医学部 客員教授，元国際医療福祉大学薬学部 教授，ハルピン医科大学 名誉教授，カザフスタン国立医科大学 名誉教授
主な著訳書：
・『健康と元素：その基礎知識』（主編集）南山堂，1996年.
・『病気と健康の世界地図』（訳）丸善，2009年.



写真２　緑色の湖面を行くスワン・ボート



写真３　客待ち・待機中のスワン・ボート

地域で愛される井の頭公園

井の頭公園は，東京都23区のすぐ西隣り，三鷹市と武蔵野市にまたがる総面積約43万m^2の都立公園である。日本初の郊外公園として1917年（大正６年）５月１日に開園した。正しい名称は東京都立井の頭恩賜公園であるが通常「井の頭公園」と呼ばれ，親しまれている。春は桜，秋は紅葉の名所として知られていて，多くの地域住民や観光客でにぎわう。また，バードウォッチングに来る人の姿もある。中心部に面積約43,000m^2の池があり「井の頭池」と呼ばれている。「井の頭」の名は，三代将軍徳川家光が鷹狩りに来た折に「この湧水はおいしい，井戸の中で一番，『頭』だと言った」というのが由来であると伝えられている。家光自らが小刀で弁財天（写真４）の傍らのこぶしの木にその名を刻んだと伝えられている。現在，そのこぶしの木はないが，代わりに伝承を記した記念碑がある（写真５）。しかし，とても古く，文字はすり減っていて読めない。その弁財天は岸から太鼓橋が架けられている小さな島にあり，銭洗い弁財天には，懐から紙幣やコインをザルに入れて洗う順番待ちの人の姿がある（写真６）。池の西端に「お茶の水」という泉がある（写真７）。江戸時代，鷹狩りに来た徳川家康が，この湧水を関東一の名水とほめてお茶を入れたという伝説からこの泉は「お茶ノ水」と呼ばれている。名の由来と現在は地下水を汲み上げているということが泉の脇の説明板に書かれている（写真８）。池の南東端に神田上水（現在は神田川）の起点がある。江戸時代に徳川家康が江戸市中の飲料水確保のための水源としてこの池の湧き水を利用し，江戸の人々の生活用水として供給した。玉川上水と並ぶ重要な上水路だった。神田川は最終的に隅田川に合流し，東京湾



写真４　池の中の小さな島にある弁財天



写真５　「井の頭」の命名由来の伝承を記した石碑



写真６　銭洗い弁財天



写真７　「お茶の水」という名の泉



写真８　「お茶の水」の説明板

へ注ぐ。

散策中の88歳の男性は「幼い頃からこの付近に住んでおり，小学生の頃は井の頭池で泳いで遊んだ。水が冷たくて長くは水中にいられなかった」と語る。また，70代の男性は「ほとんど毎日散歩に来ている。ここのところアオサギ，カワセミ，コイサギを見るようになった。餌になる魚が増えたことで湖水の状況が改善されつつあるのでしょう」と話してくださった。

武蔵野三大湧水池

井の頭池は石神井公園の三宝寺池（練馬区）と善福寺公園の善福寺池（杉並区）と共に武蔵野三大湧水池といわれていた。善福寺池の西岸には東京都水道局杉並浄水所があり，東京23区で唯一の井戸水を水源とする浄水場であり，付近住民の飲料水・生活用水として供給されていた。現在では湧水は枯渇し，深さ120mの井戸を掘って水を汲み上げ，その水を湛えている。三宝字池はいかなる日照りにも枯れないと言われ，昭和30年頃までは「不凍湖」として知られていたが，周辺の都市化などで環境が変わり，1971年からは深井戸により地下水をポンプで揚水して補給している。

善福寺池と三宝字池は1960年代から1970年代初頭にかけて湧水が枯れて，深井戸からの揚水となった。井の頭池は歴史的な水源としての役割を持ちながら，都市化の影響を受けつつも，地下水と湧き水によって現在も水量が維持されている貴重な自然資源である。

アオコ対策

冒頭紹介した新聞記事には次のように書かれている。担当者によると，窒素濃度は高めだが，生物への影響は確認していない。７月に水位を上げ下げして水を動かしたが，水車を使って上層と低層の水を循環させる対策を検討している。

最も有効な対策しては池の水を抜いて干す「かいぼり」であると考えられる。池の水を全部抜いて，日光を当てるのであるから大規模な作業である。水を抜くにしてもこれだけの水，全部抜くのに数日かかるであろう。「かいぼり」はかなりの費用，人手，時間を要する一大作業である。

湖畔のあちこちに「チラシ箱」が設置してあり，植物，鳥，虫，小動物，魚などの観察ポイントなどの情報を記した色刷りのパンフレットが置いてあり，自由にとれるようになっている。その中に「かいぼりによる自然再生のとりくみ」というのがあった。「かいぼり」のやり方が書かれている。①池の水を抜く，②生き物を捕る，③仕分けをする（外来種の防除），④池底を干す，⑤水を入れる，⑥在来種を戻す，という手順で進める。池底を空気に曝すと窒素は空気中に発散され，リンは水に溶けにくい状態に変わる。水を戻した後は，富栄養化が抑制されて水質が改善される。別のパンフレット「湿地の植物がみられる井の頭池」には次のような記述がある。大きな川や湖では，増水や波によって枯れ草などが運び去られて湿地の環境が保たれる。公園の池ではそうした自然の力が働かず陸地化しやすい。井の頭公園では「ちょこっとかいぼり隊」が草刈りなどの作業を行い，湿地保全に協力している

新聞記事の中に陸水生態学の専門家，中野伸一教授（京都大学生態学研究センター）の談話が載っている。言葉を選びながらの発言と感じるが，放置しておけば事態は悪化し，腐敗や悪臭にもつながり，憩いの場や観光地としてもダメージを受けかねない。中野氏は再び「かいぼり」をすることを勧めている。

井の頭池では2013，15，17年に「かいぼり」

を実施した。その効果は大きく，池底に埋まった種子から絶滅危惧種の水生生物が発芽したという事実があった。「かいぼり」には多くのボランティアが参加できる。筆者も2013年の「かいぼり」に参加した。井の頭池の池底を自分の足で歩くという夢のようなことの実現である。私が参加したのはかなり作業が進んだ行程であったと思われる。池底から小さな湧き水がふつふつと噴出してくる状態が観察でき，井の頭池は湧水湖なのだと，とても感激的であった。また，澄んだ水の中で揺れ動く水草も感動を与えてくれた。またとない機会に参加できたことの喜びを感じた。

おわりに―今後の課題

新聞記事とその写真に触発され，実際に井の頭池のアオコを見に行き，深く考えさせられた。日本国内のあちこちでアオコ対策に取り組んでいるところがあるに違いない。

アオコは湖沼や池などの淡水で藍藻（シアノバクテリア）が大量に増殖して水面を覆い，緑色や青緑色になる現象である。海や汽水域での湾内や閉鎖的な海域では植物プランクトンが大量に増殖すると海面が赤色に着色するのが赤潮と呼ばれる現象である。アオコも赤潮も気温が高いと発生しやすい。世界的な地球温暖化と密接に関係するのであろう。すでに大きな課題の一つとなっている国，地域は多いのではないかと思われる。今を生きる私達に何ができるであろう。私達に課せられた大きな課題である。

東京都によれば，数年に一度の「かいぼり」は望ましいが，現在，井の頭池に関して具体的な予定は立っていないという。近い将来，再び池底の見える，透明度の高い井の頭池に回復し，再び「モネの池」と呼べるようになることが望まれる。

これからの石綿対策

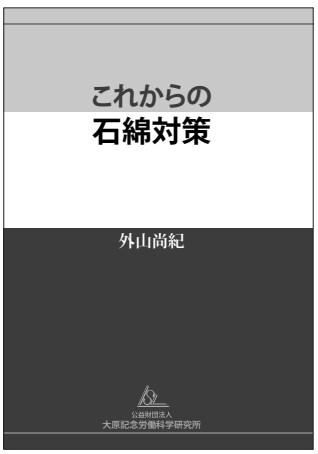
外山 尚紀

NPO 法人東京労働安全衛生センター／労働安全衛生コンサルタント／建築物石綿含有建材調査社協会副代表理事／大原記念労働科学研究所協力研究員

好評既刊！

最強の発がん物質＝石綿（アスベスト）の被害が止まらない。日本では石綿による疾患である中皮腫の死亡者は年間1、555人に達し、世界では毎年22万人の命を奪っている。石綿は建材に多用され、身の回りに大量に残されている。その対策は大丈夫なのか？

著者の20年の経験をもとに石綿のリスク、曝露の実態、石綿対策の課題を分析、検討し、これからの石綿対策を提案する。



本書の構成

第1章 石綿と石綿のリスク
第2章 石綿曝露
第3章 石綿対策の現状と課題
第4章 震災と石綿
第5章 英国の石綿対策
第6章 これからの石綿対策
・関連図表・写真を多数収載

ISBN 978-4-89760-334-6 C 3047
体裁　A5 判 168 頁
定価　本体 1,000 円＋税

〒 151-0051
渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12
桜美林大学内 3F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436

公益財団法人
大原記念労働科学研究所

労働科学研究所と国立公衆衛生院(3)
大原孫三郎と暉峻義等

椎名 和仁

はじめに

前回は明治から大正時代にかけて，紡績業から拡大した結核とその予防として開発されたBCGワクチンについて振り返ってみた。その際に北里柴三郎（伝研所長）から多大な影響を受けた助川浩の「工場労働者の結核調査に関する論文」を紹介し，暉峻義等との関係性についても触れてみた。

さて，公衆衛生院（現：国立保健医療科学院）は1938年（昭和13）３月に日本の公衆衛生の向上を目的として厚生省の付属機関として事業を開始するが，この計画時に労働科学研究所（以下，労研）を母体にしてはどうかという厚生省の案があったという。だが，暉峻義等（以下，暉峻）はこれを拒否し，自由に研究ができる民間研究所を選ぶのである。さらに戦後，労働衛生研究所（現：労働安全衛生総合研究所）創設の際にも労研を母体にする計画もあった。この時，既に暉峻は所長を退いていたが，当時の労研首脳陣はこれを断った。なぜ，このような自由を欲する精神が育まれたか，それを知るためには，労研の生い立ちを知る必要がある。

そこで今回は著書「暉峻義等：労働科学を創った男[1)]」から暉峻と労研について三回にわたり紹介してみたい。この本の著者である三浦豊彦（労研・元副所長）は，1940年（昭和15）に労研に入所し暉峻から直接指導を受けた１人である。労働環境の改善に関する研究実績が多く，また「労働衛生史学会（現：日本産業衛生学会労働衛生史研究会）」の創設者として知られている。三浦は1962年（昭和37）に暉峻と対談しており，その時の様子は三回にわたり「労働の科学」に掲載されている[2)]。本書はその記事をもとに暉峻の生涯を労働衛生史の観点からまとめたものである。また，この対談は「労働科学研究所60年史話：創立60周年記念[3)]」の執筆の際にも活かされ，さらには暉峻の遺稿集である「暉峻義等博士と労働科学[4)]」にも収録されている。

暉峻の一生は複雑な側面があり，その評価は賛否が分かれるという。しかしながら，労働現場を中心としたフィールドワークは多くの衛生学者に影響を与え，その功績は多大なものである。そのためまずは，暉峻の生い立ちを幼少期から青年期までみてみたい。



しいな かずひと
博士（知識科学）
公益財団法人 大原記念労働科学研究所 協力研究員
主な論文
・単著「文系大学生の安全意識調査」『日本労働科学学会年報』２号．2022年．
・共著「工学系大学生における安全に関する工学教育の提案」『技術と経済』652号．2021年．

暉峻義等について

1)幼年期，第七高等学校造士館時代

暉峻は1889年（明治22）９月３日，浄土真宗本願寺派の僧侶であった父・暉峻光浄，母・はる，との間に長男として兵庫県印南郡伊保村（現：高砂市）に生まれた（表１参照）。父・光浄は僧侶で仏教中学の校長だったこともあり，４歳の暉峻に浄土三部経を暗唱させた。高等小学校に入学した頃から論語の素読も習い始め，中学を卒業するまでに「論語」，「孟子」，「老子」

表１　暉峻義等の略歴（明治22年～大正９年迄）

西暦	和暦	年齢	略歴
1889年	明治22年		9月3日:兵庫県印南郡伊保村（現：高砂市）に生まれる。父・暉峻光浄、母・はる。
1908年	明治41年	19歳	9月:豊岡中学卒業、第七高等学校造士館入学。
1910年	明治43年	21歳	9月:東京帝国大学医学部入学。
1911年	明治44年	22歳	11月:結核発病、須磨療養所入院。
1912年	明治45年	23歳	法隆寺に寄宿。
1913年	大正2年	24歳	桜島有村の寺の仮住職になる。
1914年	大正3年	25歳	1月:帰京、東大再入学。
1916年	大正5年	27歳	工場法実施、内務省保健衛生調査会が発足。
1917年	大正6年	28歳	12月:東京帝国大学医学部卒業、生理学教室に入り永井教授の指導を受けて「炭酸同化作用」の研究に取り組む。
1918年	大正7年	29歳	有馬頼寧らの「労働者学校」講師となり、夜間週1回2時間、労働者の生徒に「生理学」を講ずる。5月:内務省保健衛生調査会に入り、警視庁嘱託となり、東京市内の貧民窟に泊まり込み、貧乏問題の調査を始める。「社会衛生学」へ開眼となる。8月～9月:全国で米騒動を起こる。
1919年	大正8年	30歳	10月:大原孫三郎「大原社会問題研究所」創設、社会医学研究部門の研究者として入所。日本社会衛生年鑑第1冊の編集。八王子の機業の女子労働の調査。
1920年	大正9年	31歳	2月:大原孫三郎社長と深夜の倉敷工場へ訪問、工場内に研究所設立の提案を受け、受諾される。6月:「日本社会衛生年鑑」第1冊、大原社会研から刊行。7月～8月:暉峻、石川、桐原の3名が万寿工場で女工の昼夜二交代作業の予備調査。

出典：三浦（1991），pp.293-294.を参考に筆者が作成

その他を読まされ，厳しい古い教育を受けながら育った。この詰め込み教育は暉峻を反抗的な青年にしてしまったという。

中学を卒業すると鹿児島と東京の２つの高等学校の入学試験を受けた。鹿児島県は暉峻の祖父・普端が浄土真宗の僧として住んでおり，暉峻も少年時代に２～３回行ったことがあり，鹿児島に親近感をもっていた。高校進学は祖父，父・母ともに鹿児島の第七高等学校造士館（以下，第七高等学校）に入ることを望み，入るなら医学をやれと言っていた。暉峻は医学に興味がなかったが，第三部（医科）を受けた。当時は受験者が1,300人もいて，彼は合格の見込みはないと思っていたが，それでも合格者48名の１人になることができた。

高校入学後は夏目漱石やゲーテなど国内外の文学に親しんだが，２年生の終わり頃に多少ノイローゼ（神経衰弱）気味になった。暉峻は気分転換に旅行（当時は歩きで）しようと思い立った。宮崎の県境を越えて大分に向かっている途中で日が暮れてしまった。このとき１人の僧侶が追いついて来て，暉峻を寺（浄土真宗）に泊めてくれることになった。翌朝，この僧侶が来てお説教があるので聞くように誘った。身支度して本堂に行くと，午前３時半だというのに聴衆が堂に溢れかえり，東陽円城（聖僧）和尚が「歎異鈔（たんにしょう）[a)]」を論じていた。これに暉峻は感銘を受け，鹿児島に帰ってから仲間を集めて第七高等学校仏教青年会をつくり，その幹事を卒業まで務めたのであった。

2）東大医学部時代

1910年（明治43）に暉峻は高等学校（第三部）を卒業した。第三部で医科に行く学生は30名

いて，その内20名は東大に入れるが，残り10名は福岡の九大に行かねばならなかった。暉峻は医学部に入れなければ，経済学部でも文学部でも良いと考えていた。ところが，級友が暉峻を東大医学部に進学させると言うことになり，本郷の医学部に入学した。講義は彼が期待していた内容ではなく面白くなかったが，心理学の講義には関心を示した。

東京帝国大学医学部の生理学教室の初代教授は大沢謙二，二代目が永井潜，三代目が橋田邦彦だった。当時，永井は生理学教室の助教授で生理学概論の講義をしていた。大沢は二度目の留学から帰国した頃で，はじめて日本生理学界に刺激生理学を伝えた。それはカエルの腓腹筋を取り出した筋神経標本をつくり，これを電気刺激すると筋の収縮が起こるという，極めて簡単な実験を見せながら淡々と刺激生理学の講義をした。しかし，暉峻は大沢教授の「刺激論」と永井助教授の「生命論」から誘発され，次第に医学に興味を持つようになって行った。

ところが２年生になると肺尖（はいせん）が悪いと医師・尼子四郎（医学者）から診断され，学問をやめて家に帰ることを勧められるのである。大学を辞めると決心した彼は東京を去って郷里に近い須磨療養所に入院した。当時の結核治療方針は日光，空気，栄養の３つだった。これが戦前まで続きBCGワクチンが普及するのは戦後である。療養所は日本随一のもので毎月二回，青山胤通（たねみち）教授（東大医学部）が来て診察をしていて，暉峻は青山教授の診察を受けることに光栄を感じていた。また，療養所には医学生もおり，彼らは医学書を持ち込んで勉強をやっていたが，暉峻は全く，これに加わることなく養生に務めたが，６ヵ月の入院中に３名の学生が亡くなった。次第に体調が回復してきた暉峻は主治医に相談したところ，結核菌は出てないと言われるのであった（当時のことなので検査して菌が出ていたかどうかは実のところ分からない）。とにかく菌が出てないなら外に出ることにした。いろいろ考えた末，まず菜食のお寺が良いと思い，行くなら一番良いお寺に置いてもらおうとして法隆寺を訪ねて，そこの執事に頼んでみた。しかし，医学生を置く訳にはいかぬと断られたが，暉峻は管長さんにお目にかかり，修行中の小僧扱いで良いから置いて欲しい，と嘆願したところ，管長と会うことになった。当時の管長は佐伯定胤（さえきじょういん）師で東洋一の唯識論（ゆいしきろん）[b]者で学士院会員だった。さっそく暉峻は管長に頼んでみると，暫く預かりましょうということになった。

法隆寺の生活は朝３時に起き，お経を読み，掃除して，朝食後は講義を聞き，午後は自由に勉強して，夜はお寺の行事があった。その後は，修行中の小僧達と一緒になって話したりもした。また，時々，佐伯管長の部屋で法隆寺や奈良の寺の話しをうかがうことができたり，弟子入りした訳でもないが「倶舎論（くしゃろん）[c]」の講義も聞くことができたりした。「倶舎論」とは仏教の物質観であり，全ての物質や生きとし生けるものは「極微」から成っているという。この極微を取り巻いて極微があり，この極微の相違によって，物象の相違ができる。暉峻は，今日の原子論によく似た考えを仏教は持っているのだなと面白く感じた。大仏事の際には暉峻も僧侶になりすまして立派な法衣をまとって助勢を行い，このまま坊主になろうと思ったりもした。

また，法隆寺の精進料理は須磨療養所とは雲泥の差で野菜などは新鮮で味も良かった。このような規則正しい生活から６ヵ月もすると，彼の体力はみるみる回復したのである。法隆寺で１年間過ごした後，暉峻は自身の体力を試すために旅に出てみようと考え，管長の許可を得て高校時代過ごした鹿児島に旅に出ることにした。

1913年（大正２），有村（桜島）に渡って下宿を探した。この温泉部落（30～40戸）には寺があったが，住職が亡くなり空室になっていたため，寺の掃除をすることを条件に自炊生活を始めた。この寺で暉峻は住職以外にも社会事業主事の仕事もさせられた。ところが，ここに暉峻が尊敬する第七高等学校の倫理学担当の大島

教授が月２回程，日曜日に弁当持ちで来て，講義をしていたのであった。寺の中は暗いので砂場に出で陽に当たりながら，まるで個人授業を受けるような話を聞くことができ，楽しい生活だったという。

しかし，冬になると有村での生活も寂しくなり，1914年（大正３）１月10日に東京に帰ろうと決意し，この日の夜汽車で出発した。ところが，東京に帰着したとたん電報が入るのである。１月12日に桜島が大噴火[d]したのである。暉峻が住んでいた有村という温泉場も壊滅したというので，東京の知人や友人たちがまだ桜島にいると思って見舞電報をしきりに打ち，それが東京に転送されたのである。暉峻は間一髪で命拾いをしたのであった。

東京に帰ると，友人たちが再入学を勧めた。同級生たちは３年生になっており，違った級に入るのも嫌だったので暉峻は学校に出たり，出なかったりした。４年生になると衛生学の講義があり，日本で最初に衛生学の教授になった緒方正規（後に東大学長）や横手千之介（衛生学者）の講義も聞いたと思われるが，その印象は残っていないという。

また，この頃，富士川游（医学史家）は，宮本叔（細菌学者），林春雄（薬理学者，後に国立公衆衛生院初代院長），尼子四郎ともに，青山胤通（たねみち）監修の「日本内科全集」の編纂に従って，その第１巻として自分の「内科史」を医事新報社から発刊した。

暉峻は大学４年生の時，あまり学校に出ないのでヒマがありそうだというので，この「日本内科全集」の編集を手伝わされた。当時，大学助手の給料は80円程であったが，暉峻は月150円程もらったので，割の良いバイトであった。この全集はたくさん売れたという。

1917年（大正６）に暉峻は卒業試験となり，ノートもなく困ってしまった。しかし，第七高等学校の先輩や早稲田病院で知り合った勝沼博士のお蔭で1917年（大正６）12月にようやく医学部を卒業することができた。

3)生理学教室から貧民窟調査へ

東大医学部を卒業した暉峻は永井教授（生理学教室）のもとで生理学研究を始めた。彼が与えられたテーマは炭酸同化作用で，文献調査などを行っていた。

この頃から大正デモクラシー運動（自由や平等を求めた運動）が労働運動や普通選挙運動へと発展するようになり，ヴ・ナロード（人民の中へ）のスローガンのもと，社会思想の研究，外国文献の翻訳，研究会，講演会，さらにセツルメント運動[e]によって宣伝や啓蒙活動が活発に行われるようになり，その１つに「新人会」があった。これは吉野作造[f]を顧問とし1918年（大正７）12月に結成された組織で，主に経済学部（東京帝大）の三輪寿壮（じゅそう），赤松克麿（かつまろ）や法学部の学生たちが集まっていた。ここに暉峻は医学部から最初の１人として加わったのである。さらに，有馬頼寧（よりやす）[g]，近藤麿（まろ），木戸幸一たちは日本で最初の労働者学校を浅草で始めた。この学校は労働運動が活発化する中，労働者に実務的な教育を行うことを目的としていた。ある日，有馬が永井教授のもとを訪ね，同校の講師を依頼したところ，永井教授が暉峻に講師を務めるように指示し，彼は浅草に週２回通って生理学と栄養学の講義を行うことになった。講師代は200円/月を貰っていたので，かなり暉峻は優遇されていた。同校の受講者は皆優秀な若者たち（50～60名）で，学校運営には若い華族や知識人が多く参画していた。暉峻はこの学校で様々な人たちと出会うことができ，この人脈は後に役立つことになる。

また，同時期，内務省保健衛生調査会は永井教授に生理学者を求めてきたのである。永井教授は「新人会」に入り，労働者学校の講師を務めていた暉峻を適任だと考え，彼を推薦した。この調査会は国民の保健衛生の向上を目的に1916年（大正５）に発足し，永井，横手，富士川も委員だった。それ以外にも委員には高野岩三郎[h]（東大経済学部教授）などの社会統計学の専門家も名を連ねていた。調査会には７つの部

会があって，第１部会は乳幼児・学童青年の死亡，第２部会は結核，第３部会は花柳病，第４部会はらい病（現・ハンセン病），第５部会は精神病，第６部会は衣食住，第７部会は農村衛生・地方病・風土病，第８部会は統計であった。暉峻は暫くの間，月給をもらいながら第７部会に行き農村の保健衛生を調査することになった。最初に内務省衛生課長の案内で農村地区へ視察に行ったが，予備調査は府県管轄でないと何もできないことが分かった。そこで東京府に調査を代行してもらうことになり，身柄は内務省保健衛生調査会で保証する条件で暉峻は警視庁の嘱託になった。暉峻は警視総監から呼び出され，内務省では困っているので好きなことをやってくれと依頼された。これを永井教授に報告すると，月給をもらっていい加減にやって帰って来いという。だが，月給を貰うのであれば，いい加減なことができないので暉峻は警視庁管内の農民の貧困の真相を調べることにした。彼が調査対象にしたのは貧民窟であった本所の横川町，深川の豊住町で，ここで協力者（女医１名，助手５～６名）と伴に行った。警視庁から来たというのでは，住民たちは戸を閉めて話さないので，1918年（大正７）５月から暉峻も長屋に泊まり込んで，個人の仕事ということにして調査を開始し，それを終えたのは６ヵ月後であった。その際，暉峻は借金（500円）をして助手に弁当代や交通費を支払った。この時の報告書は社会衛生学：社会衛生学上に於ける主要問題の論究[5]の中に「貧困に関する社会衛生学的研究」として収録されている。

その内容は，1901年（明治34）にイギリスのシーボーム・ラウントリー（Benjamin,S.R.）が発表した「貧困―都市生活の研究[6]」と日本の貧困原因を比較したのであった。報告書の結論は，貧困の原因はアルコール，乳児死亡（50％），不衛生からの病気によるもので，さらに貧困地区には犯罪者，貧乏で職のない浮浪者，心身障害者が集まる傾向があった。この調査を終えてから暉峻は警視庁に挨拶に行った。当時の警視総監代理の正力松太郎[i]官房主事は暉峻の調査を褒め称え，警視総監をはじめ幹部たちを集めるので貧困状態を全部洗いざらいに話してくれ，ということになり，そこで暉峻は２～３時間報告した。この報告は歓迎され，正力から謝礼金を受け取ることができ，その謝礼金で暉峻は借金を全て精算することができた。この経験から暉峻は社会衛生学へと開眼していくのである。また，この年の1918年（大正７）は７月～９月にかけて全国で米騒動が起こった。

大原孫三郎について

1）社会事業へのきっかけ

大原孫三郎の経歴についても簡単に触れておく。大原は1880年（明治13）７月に大原四郎（倉敷紡績所初代社長）の三男として生まれた。長男は19歳で夭逝，次男は出生後まもなく亡くなったため，大原は後継ぎとして大切に育てられた。幼年期の大原は勉強嫌いで，人一倍の負けず嫌いで癇癪が強かったという。1897年（明治30），16歳で東京専門学校（現：早稲田大学）に学ぶが，放蕩の限りを尽くし，実家に連れ戻された。さらに大原が作った莫大な借金（現在の億単位）の返済に奔走したのが姉婿の義兄であった。その借金の善後策を話し合っていた夜，突然，義兄は脳溢血で倒れ，そのまま32歳の若さで息を引き取ったのである。義兄の死によって，大原は自責の念に駆られ暗闇に突き落とされていくのであった。しかし，謹慎中に大原に光を与えたものは，東京の友人から贈られた二宮尊徳の「報徳記[j]」と，後に人生を一変させたのは友人・石井十次[k]との出会いである。大原は18歳の夏，石井の講演を聞いて感銘を受け，キリスト教的人道主義に感化され聖書を精読するようになった。

その後，1901年（明治34）１月に倉敷紡績（現：クラボウ）に入社し，11月に石井十次の紹介でスエ（後に寿恵子と改名）と結婚し，1904年（明治37）12月に24歳で家督を相続した[7]。

1906年（明治39）に26歳で倉敷紡績の取締

役社長と倉敷銀行の頭取に就任した。倉敷紡績の経営は順調であったが保守的な体質から多くの問題点を抱えていた。そこで大原は人事の刷新，輸送の合理化などを積極的に行った。特に労働問題では，悲惨な労働環境を改善するため飯場制度を全廃し，従業員たちを中間搾取の悪習から解放したのである。さらに，1909年（明治42）に倉敷電燈会社（現：中国電力）を設立，1913年（大正２）に中国民報社（現:山陽新聞社）を買収，1919年（大正８）に第一合同銀行（現:中国銀行）を設立するなど経営を拡大し，第１次世界大戦が終わる頃には中国地方最大の財閥になっていた。

その一方で大原は私財を投じて社会事業に貢献した。その１つに石井が設立した岡山孤児院に膨大な私財を提供したのである。1914年（大正３）に石井十次が他界すると，大原は代って孤児院の院長になった。その３年後に記念事業として，大阪に石井記念愛染園（現：社会福祉法人石井記念愛染園）を開設することを提唱し，その基本財産と経費の出費を申し出た。この地域は古くからスラムとして知られ，その改善に石井が病にも関わらず乗り出すが，道半ばにして倒れたのである。愛染園は石井の志を引き継ぐものであった。

1918年（大正７）１月30日，大原は開所の席上で愛染園には救済事業及び社会状態の調査研究と社会事業の人材育成を目的として救済事業研究室を附設したが，近い将来，これを独立した研究機関に発展させたいと述べたという。大原はこれまで個人の慈善事業として孤児や貧困を援助してきたが，貧困という最大の問題を解決するには，独立した調査・研究機関が必要だと考えるようになっていた。これが大原社会問題研究所（以下，大原社会研）の創設と結びついていくのである。

2)大原社会問題研究所

1918年（大正７）８月２日，日本はロシア革命に対してシベリア出兵を宣言した[1)]。この出兵は，イギリス，フランス，アメリカと共同でシベリア地区に軍隊を派遣し，革命を抑えようとしたものであった。ところが，前年からこの計画を予想していた米商人は，あとで大量の米が高く売れると考え米を買い占め，同年３月から３ヵ月の間で米の値段が２倍半になったのである。1918年（大正７）７月，富山県では「米騒動」が起こり，これが発端となって全国に波及したのである。これを鎮圧するために警察はもとより軍隊が出勤する事態となった。これがきっかけに国内では労働者の運動，農民の運動など全ての社会運動が盛んになって行った。

大原は「米騒動」の背後にある貧困問題を鋭く捉え，このような社会問題を解決するためにソルベイ研究所をモデルにした研究所をつくりたいと考えていた。ソルベイ研究所とはベルギーの実業家・ソルベイ（Solvay, E.）が設立した研究所であった。ソルベイは独学で基礎的な化学と物理学を学び，叔父の小さなガス工場の助手となって，ガス工場の副産物であるアンモニアを採取し，その利用法を考えた。1863年（文久３）にアンモニアと炭酸ガスを食塩に作用させて，炭酸ソーダをつくりアンモニア・ソーダ法（ソルベイ法）を発明し，以降，ソルベイのソーダ工場（現：ソルベイ社）は世界最大の独占企業までに発展した。彼は富裕になると同時に各種の博愛事業や社会事業に貢献したのである。1894年（明治27）にソルベイはブリュッセル自由大学に社会科学研究所を創設し，これが1901年（明治34）に社会学研究所となった。同所には経済学部門，社会学部門，社会医学部門があった。大原の繊維産業とは異なるが，彼は高田慎吾[m)]（社会事業家）の意見を入れながら大原社会研の設立に向けて動くのである

まず，大原は河上肇（京都大教授）が推薦した高野岩三郎（東大経済学部教授）のもとを訪れ研究所運営について話し，協力の約束を得るのであった。高野も保健衛生調査会の委員に任命されていて，第７部会の委員でもあった。第７部会は農村衛生の調査であったが，高野が工場

地区労働者の健康状態も調査することになり，1918年(大正７)10月下旬のある日，高野は二人の青年を連れて月島地区を調査する前に本所に立ち寄った。この時，暉峻の案内で貧民地域を視察し[8]，ここで二人は出会うのであった。

ところが，同年に高野は政府の要請により国際労働機関（ILO）代表に鈴木文治（友愛会創始者）共に任命されたが，日本労働総同盟が大学教授の何が労働者代表かという意見で高野は辞任を止むなくされたのである。そして彼は東大にも迷惑を掛けたということで東大も辞職した。さらに高野の弟子である東大助教授，森戸辰雄，大内兵衛が無政府主義者クロポトキンの論文を発表（森戸事件）したことで両助教授は東大を追われた。この出来事によって高野は東大を離れて大原社会研に専念することになっていくのである。

大原社会研には若い優れた経済学者や社会学者が集められたが，この中にただ１人，若い医学士の暉峻が含まれていた。当時，貧民調査をしていた暉峻のもとに大原の使いとして高田慎吾が訪ねて来て,大原社会研に誘うのであった。大原はソルベイ研究所にも社会医学部門があったので，大原社会研にも医学士である暉峻を入所させたかったのである。

倉敷労働科学研究所の設立

1)万寿工場訪問

大阪の大原社研の建設はまだ進んでいなかったので,暉峻は主として東京で仕事をしていた。この期間，当時，織物の街だった東京府八王子で乳児死亡の調査を行い，その報告書を1921年（大正10）に「乳児死亡の社会的原因に関する研究」として発刊した。これが暉峻の学位論文[9]となった。

しかし，大阪の大原社研に行っても医学者は暉峻１人であり，当時は研究調査のため開放してくれる工場などは皆無だった。暉峻は大原に会って，これでは何もできないと訴え，２～３回会ううちに倉敷に来るなら自分（大原）の紡績工場を提供しようということになった。だが，暉峻は直ぐには決心ができなかったのである。実のところ，暉峻はその時まで，紡績工場の中を見たことがなく，どの工場も決して人を入れなかったからである。そのため，一度，紡績工場というものを見せて欲しいと大原に頼み，それが実現するのであった。

2)二人の約束

1920年（大正９）２月のある夜，倉敷紡績の倉紡万寿(ますず)工場を訪問した。暉峻は三浦との対談で，その時の様子を次のように語っている。

自分はあそこにいるうちに都合をつけるから来いということで倉敷に行った訳です。ちゃんと宿屋が取ってあって，晩に大原さんが会うということになって待っていたところが，あの人は人力車に乗って歩く人でね。夜の８時頃，人力で乗り付けて来て，今晩は１つ紡績の中を見せるという訳です。まだ，あまり入ったこともないだろうし，自分も１年程入らない。工場に知らせて行くと準備するから準備しないところを見せたい。それでいっぺん帰って夜１時にまた誘いに来るから寝ないで待っていてくれ，と言うことだ。それから起きて宿屋で待っていた。

正一時に大原氏，白足袋に雪駄(せった)を履いて，袴をつけて……今から行こうという訳で迎いに来てくれた。二人で歩きながら話して……，たいぶ道のりがある。夜道を二人で歩いて紡績の中に行ったところが，ふいに行ったものだから，さあ社長さんが来たというので大騒ぎですよ。人間は少ない，監督者はいない，女工さんばかり働いている。もうちょっと名状（言葉では表現しがたい）すべからざる光景ですよ。画期的なんだ。至るところ，女工さんの３分の１は眠っている。９歳，10歳ですよ。そして紡績のリング，という機械はこんなに高いんですよ。目の所にリングのスピンドル（紡錘：糸を紡ぐための紡織具）がある。それから，もうえらい埃……見えやしない。スピンドルなんかもうな

いですね，この頃は。その前の粗紡という工程，その前にカールという工程があるでしょう，繊維をまっすぐにする機械，その前が混綿，これがみな同じ程度，埃が出る。もうまるで闇の世界に入ったようで，２メートル先は殆ど見えない。電灯の光はぼんやりしているしね。そこへもって加湿している。温度がないと糸切れがする。糸が切れては生産が落ちるというので思い切り加湿している。湿度は，冬でしたらまあ……通気，暖房，温度，塵埃，それは人工の紡績という生産事業場であるけれども，まるで牢獄ですね（中略）。

これに機械はマンチェスター製でみんな西洋人のサイズに合わせているでしょう。女工さんの頭の高さだ。機械が……。だから居眠って頭を打っては目を覚ましている……。

もちろん，労働時間は昼12時から夜12時までですしょう。そして交代制で，しかも半交替になる。そこで12時間の労働じゃなくなる……どうなるかな。

そう，時によると18時間だ。そういう交代制ですから－。それが10歳からと言うけれど，９歳の人間も入って来ている。

義務教育を辞めて（学費がないから）９歳から来てしまう。それ程，農村は貧困になっていたのですね。

その時からだ。これは大変なことだと……。大原さんが歩きながら事情を話すんです。ああいう子供は採りたくないが，やむを得ないのだと。この人たちのお父さん，お母さんが貧乏で，こっちへ寄こせば食いぶちがそれだけ少なくなる。家計を助けるために農家自身が一種の手段としているので，いくらでもあるんだ。勤続年限は半年くらいで，しきりに交替する，そういう事情だというのでしょう，客観的に言えば。

農家が貧困なため娘を早く家から離れさせ，それだけ食いぶちを減らして，その上にプラス給料をもらい，それを強制貯金して送る，こうでなければ女工さんが集まらないんですね。そういうことを歩きながら話すんですよ。

君，何とかこの少女たちが健康で幸せになるように，ここで１つやってくれんかという訳だ。はじめは自分から見せようと言ったんだけれども，１年ぶりに入ってみて，やっぱり私という男を連れているのが大原さんに響いていたし，大原さん自身も生々しい現実を１年ぶりに見たんですから，酷（ひど）くこたえたんですね。こうして頭をぶっけて目を覚ましている。打っちゃ目を覚ましている……至るところでね。

それは大原さんの痛切な要求だったんでしょう。歩きながら真剣に語り続けるものだから，僕も感動してしまって，「大原さん，やりましょう！ここに来て，さっそくやりましょう！」というところにきた訳です。まあ一通り見まして大原さんが，しみじみ「やってくれれば私も全力を上げてやりましょう」と，こういうことだ。

そこで僕がやりましょうと言ったもんだから，大原さんは喜びましてね。それでは早速，明日ひとつ係りの者にそう言うから，君が来ればどういう設備がいるか，どういう部屋がいるか，だいたい話してくれ，立派なものは出来んけれども要求にそうだけのことはやらせるから……と言うことですよ。僕も決心をし，大原さんもそういう気持になってくれたので，これはまあ大変な……。僕もこの時代のことを思うと感動に堪えないくらいだからね。

僕を語る－暉峻義等対談抄－
暉峻義等博士追憶出版刊行会編（1967），pp.90-93.

この時，大原は40歳，暉峻は31歳，高野（大原社会研所長）は50歳になろうとしていた。万（ま）寿（す）工場の中に研究所が正式に決まったので，暉峻は帰京して早速，仲間の研究者を探すのであった。

また，暉峻は９歳，10歳の女工が働いていたと語っているが，後の同僚となる桐原葆見（心理学者）は，女工は12歳になったばかりの者から，15～16歳の少女が大半を占めていたと語っている。９～10歳もいたかも知れないが桐

原の話の方が正しいと考えられている。

おわりに

今回は暉峻義等の生い立ちと大原孫三郎の出会いまでを紹介した。二人の生い立ちは互いに異なるが，多感な青年期に体験した出来事が後の人生に大きく影響を与えていくのである。また，当時，東大医学部の衛生学は細菌学が主流であったが，暉峻はこれに興味を示さず，彼が行った貧民窟のフィールド調査は，当時の公衆衛生学としては先駆的な取り組みであり，かつ暉峻の原点でもある。この調査でシーボームの研究と比較しているが，シーボームの父・ジョーゼフ（Joseph, R.）はイギリスで菓子企業を経営するラウントリー社の社長であった。ジョーゼフは，企業内福祉政策（学校創設，各種給付金，産業医設置など）を進めた以外にイギリスの貧困，失業，ギャンブル，飲酒の撲滅などの社会問題を考察して，その解決策を模索していた。それらが二代目社長・シーボームにも引き継がれるのである。このような意味でも，大原孫三郎の考えも同様であり，貧困の原因は日本もイギリスも同じであった。

次回は労研設立後，暉峻たちがフィールドワークを通じてどのような活動を行っていくのか，1936年（昭和11）頃までに焦点を当てて紹介してみる。

注

a) 歎異抄：浄土真宗の信仰の核心をわかりやすく説いた書物。
b) 唯識論：仏教学説の一つである。一切の認識はただ自己の識（心）によって生み出されたもので，認識の対象となる事物的存在はないと説く。
c) 倶舎論：仏教の教えを体系的にまとめた文献である。
d) 桜島大噴火：1914年（大正３）１月12日，桜島で噴火が起こる。この噴火で焼けたり，埋まったりした家は１万２千戸に及んだ。
出典：鹿児島県HP．桜島の大噴火．
https://www.pref.kagoshima.jp/index.html
（2026/6/19アクセス）
e) セツルメント運動：資本主義が生み出す貧困に対して，宗教家や学生が都市の貧困地区に自ら居住して宿泊所，託児所，教育，医療活動などの社会事業を行う活動であった。
f) 吉野作造：大正時代の政治学者及び思想家。
g) 有馬頼寧：1910年（明治43），東京帝大農大学卒業後，農商務省に入る。その後，東京帝大の講師，助教授となる一方，部落解放運動や農民組合運動を支援する。戦後は，日本中央競馬会理事長となり「有馬記念」にその名を残す。
h) 高野岩三郎：1895年（明治28）に東京帝国大学法学大学卒業後，兄・房太郎（社会運動家）の影響で労働問題に深い関心を持つようになり，これらの問題の統計学研究を行った。社会政策学会の創立者の１人でもある。
i) 正力松太郎：東大法学部卒業後，警視庁に入庁。1923年（大正12）警視庁警務部長の時，虎の門事件の責を負って退職し，1924年（大正13）に第７代目読売新聞社長となる。
j) 報徳記：二宮尊徳翁の生涯の伝記。
k) 石井十次：社会事業家。1882年（明治15）岡山甲種医学校入学。明治17年キリスト教に入信。明治20年，岡山の三友寺を借りて孤児教育会（後の岡山孤児院）を設立し，孤児救済事業を開始する。
l) シベリア出兵：1917年（大正６）にロシア革命が起きたことで，東部シベリアに日本を含む７カ国の連合国軍が武力干渉したこと。
m) 高田慎吾：1908年（明治41）３月東京帝国大学卒業後，東京養育院付巣鴨分院の主任を務め，社会問題を学ぶために渡米した。帰国後は内務省に勤務を経て，大原社会研に入所。

参考文献

1) 三浦豊彦．暉峻義等：労働科学を創った男（シリーズ民間日本学者：31）．リブロポート 1991．
出所：国立国会図書館デジタルコレクション．
https://dl.ndl.go.jp/pid/13285630/1/3
（2026/6/13アクセス）
2) 三浦豊彦．労働の科学と暉峻義等（その１～３）．労働の科学 1962；17(5)：36-45，1962；17(6)：36-45，1962；17(7)：42-55．
出所：国立国会図書館デジタルコレクション．
https://dl.ndl.go.jp/pid/2818789/1/22
https://dl.ndl.go.jp/pid/2818790/1/22
https://dl.ndl.go.jp/pid/2818791/1/25
（2026/6/17アクセス）
3) 労働科学研究所．労働科学研究所60年史話：創立60周年記念．労働科学研究所 1981．
出所：国立国会図書館デジタルコレクション．
https://dl.ndl.go.jp/pid/12168522/1/3
（2026/6/13アクセス）
4) 暉峻義等博士追憶出版刊行会編．暉峻義等博士と労働科学．暉峻義等博士追憶出版刊行会 1967．
出所：国立国会図書館デジタルコレクション．
https://dl.ndl.go.jp/pid/3031913/1/3
（2026/6/13アクセス）
5) 暉峻義等．社会衛生学：社会衛生学上に於ける主要問題の論究．吐鳳堂書店 1927．
6) Benjamin,S.R. Poverty: A Study of Town Life. London : Macmillan 1901.
7) 企業メセナの先駆者 大原孫三郎．
出典：神奈川県立の図書館．
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/uploads/2020/12/016oohara.pdf（2026/6/14アクセス）
8) 大島清．高野岩三郎伝．岩波新書 1968；98．
出所：国立国会図書館デジタルコレクション．
https://dl.ndl.go.jp/pid/2974430/1/61
（2026/6/16アクセス）
9) 暉峻義等．学位論文：乳兒死亡の社会的原因に関する考察．東京帝国大学 1924．

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
『勞働科學』100巻２号掲載論文抄録

運動器外傷データを用いた転倒の発生状況と関連要因

菅知絵美，高木元也，三上容司，東川晶郎

本研究は，運動器外傷データを用いて転倒発生状況を分類し，性別や受傷時年齢などの個人基本情報，受傷箇所，受傷程度などの医学的情報との関連性を検討した。全対象者および労災保険適用者を対象とした解析の結果，転倒発生状況によって，個人基本情報，骨折部位や受傷後の医学的な情報との関連性に差異が認められ，両群間で共通点と相違点が明らかとなった。これらの結果は，転倒が日常生活および労働環境において頻繁に発生し，加齢の影響に加え，周囲環境が転倒発生の重要な要因であることを示唆しているため，転倒予防策を策定するための基礎資料として有用であると考えられる。

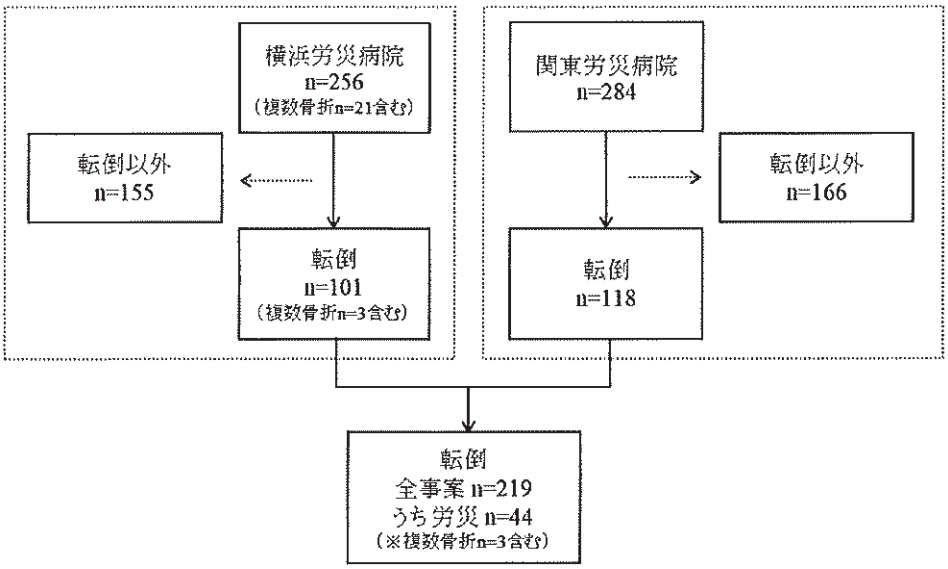


図１　分析対象とした転倒災害の抽出

Figure 1　Extraction of fall-related accidents for analysis

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
労働科學
©
B5判　年2回刊　100巻2号　定価1,600円（税込）　年間購読料3,000円（税込，送料不要）

労働科學のページ

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR

『労働科學』101巻１号掲載論文抄録

医療系大学における作業療法学科１年生が抱く職業イメージ
ー医療機関と福祉施設における実習前後の変化ー

永井邦明，吉田和弘，角田孝行
太田研吾，坂口聡子，山根伸吾

作業療法学科１年生57名を対象とし，医療機関と福祉施設における初回の見学実習で作業療法士のイメージの変化にどのような違いが見られるかを明らかにした。医療機関，福祉施設の実習地に配属された学生は，実習の前後に作業療法士のイメージを自由記述で回答した。これらの言語データはInductive thematic analysisの手法で分析され，42種類のコードと９種類のテーマが生成された。研究の結果，医療機関の実習後では，他職種と業務内容が重複しているイメージを持つようになる。福祉施設の実習後には，作業療法の手法に関するイメージの種類が著しく増加するといったようにそれぞれの特徴が見られ，各学生に応じた適切な実習施設への配置を検討すべきことが示唆された。

Table 1　Practice Facility Details

表１　実習施設の詳細

医療機関ａ（実習に参加した学生：６名）
病床数369床であり，救命救急に対応。作業療法士は手術後（心疾患など）の経過に合わせた運動指導や仕事復帰に向けたリハビリテーションを行う。
医療機関ｂ（実習に参加した学生：10名）
病床数227床であり，救命救急に対応。作業療法士は手術後の日常生活動作能力の改善に努める他，脳性麻痺やダウン症候群の状態にある子どもに対して道具の使い方や，社会生活上のルールの学習支援を行う。
医療機関ｃ（実習に参加した学生：16名）
病床数214床であり，救命救急に対応。作業療法士は手術後の日常生活動作能力の改善に努める他，がん治療による心身への影響に対する回復力を高め，残存能力を向上させるリハビリテーションを実施する。
医療機関ｄ（実習に参加した学生：６名）
病床数120床であり，急性期の医療機関で治療が終了した患者に対応。作業療法士は日常生活動作能力の改善に努める他，自動車運転の再開に向けた指導・訓練を実施する。
福祉施設ａ（実習に参加した学生：６名）
入居する障がい児者に対して生活支援を提供。作業療法士は対象者が周囲の環境に適切に反応するための訓練や娯楽施設への外出支援を実施する。また，パンの販売といった生産活動の支援を行う。
福祉施設ｂ（実習に参加した学生：５名）
障がい者に対して就労移行支援，就労継続支援A型，B型のサービスを提供。作業療法士は経務，経理，営業，印刷，清掃などに関する指導・支援を行う。また，歩行訓練や階段昇降訓練を行う。
福祉施設ｃ（実習に参加した学生：８名）
障がい者に対して就労継続支援A型，B型のサービスを提供。作業療法士は弁当，パン，菓子の製造に加え，チラシの封入，箱の組み立てなど軽作業の指導・支援を行う。

※就労移行支援：障がい者に対する一般企業への就職を目指した支援

※就労継続支援A型，B型：一般企業での就労が困難な障害者に対し，就労の場を提供する支援（雇用契約：A型あり・B型なし）

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
労働科學
©
B5判　年2回刊　101巻1号　定価1,600円（税込）　年間購読料3,000円（税込，送料不要）

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
『勞働科學』101巻２号掲載論文抄録

安全教育機器を事例とした非熟練者向け作業手順書改訂法の一提案
ー行動分析学における課題分析法を用いたアプローチー

北條理恵子，菅知絵美，中村瑞穂，是村由佳，森田智恵，
眞砂英樹，吉田瞬，蓮實雄大，清水尚憲

産業安全の分野では，作業者，とりわけ作業に不慣れな非熟練者が作業手順書の通りに作業を行えず，事故や不良品の発生につながるケースがしばしば発生する。本研究では，機械操作の非熟練者に安全教育機器を用いた模擬的な作業を作業手順書に沿って行わせ，行動分析学で用いられる課題分析法を用いて作業手順書の分かりにくい点を特定した。その結果に基づいて，作業手順書における問題のあった箇所の記述を改訂し，再度同様の手法で分析を行ったところ作業遂行に有意な改訂が認められた。この方法は作業手順書の作業者の主観によらない客観的・定量的な評価であり，作業者の負担が少ないなどの点で利点がある。既存の熟練者が作成する方法に加え，作業標準の最適化を行う目的で，広く運用可能と思われる。

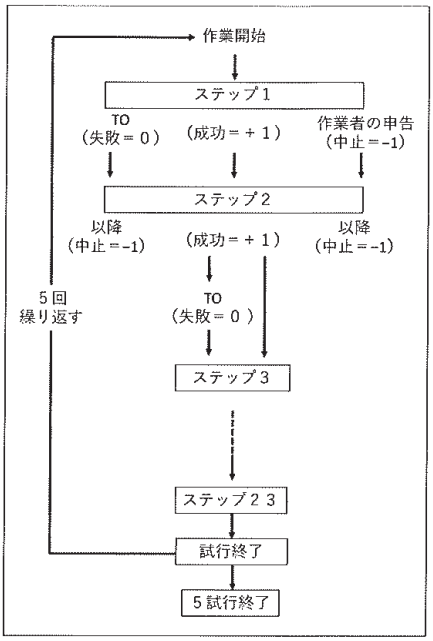


図２　実験の流れ
Figure 2　Experiment flow

最　新　刊

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
労働科學

B5判　年2回刊　101巻2号　定価1,600円（税込）　年間購読料3,000円（税込，送料不要）

Books

治療と仕事の両立支援

江口 尚 著

支援に関わるすべての人へ贈る渾身のメッセージ

伊東 明雅

2026年４月より，職場における治療と就業の両立支援の取組が，事業主の努力義務となり，従来の「ガイドライン」から「指針」へと位置づけが格上げされた（改正労働施策総合推進法 令和７年法律第63号）。この法改正は，両立支援を一部の先進的な企業の取組から，すべての事業主が取り組むべき職場づくりの課題へと進める契機となる。本書は，まさにこの転換期に刊行された，両立支援の本質を問う一冊である。

いわゆるハウツー本とは趣が異なり，法制度の背景や用語の留意点から，具体的な実務，将来の職場のあり方までが一つのストーリーとして描かれている。その展開において，著者自身の実践と研究が整理され，多くのデータやエビデンスが提示されると同時に，日本社会の持続可能性を高める上でヒントとなる，渾身のメッセージが随所に散りばめられている。

両立支援に取り組む意義は，労働者の健康確保及び就業継続とともに，社員全体の安心感やモチベーションの向上による人材の定着，生産性の向上といった企業の成長につながる点にある。その実践において，本書で強調されているのは,「対話の積み重ね」と「納得感の醸成」である。

本書では，両立支援におけるShared Decision Making（SDM：共有意思決定）を，情報共有，対話，合意形成という三要素から捉え，両立支援は，関係者間で「対話・合意・調整」を繰り返しながら深化していくプロセスと指摘している。また，職場におけるSDMには，言語化・情報照合・継続的な運用の三つのフェーズがあると整理し，SDMを根づかせるためには,「対話を重んじる文化」が不可欠と説く。

特筆すべきは，著者の恩師であるジァン・ドゥーソップ氏が分類した，労働者の自己資源（内部資源・外部資源・根幹資源）の概念の紹介である。両立支援とは，人事マネジメントを通じて「疾病や治療によって損なわれかねない根幹資源（身体的，精神的，社会的健康）への影響を最小限にとどめ，組織の中に蓄積された内部資源（個性・才能・適性など）・外部資源（資格・学歴・人脈など）の毀損を防ぐ取り組み」との解釈を示している。

産業医の立場から共感するのは,「組織の準備性」の点である。管理職・一般労働者への教育研修，支援制度の継続的な周知，プライバシーが守られる相談環境，心理的安全性の構築。すなわち，治療と仕事の両立支援を機能させるためには,「制度」と「風土」の両輪が必要である。事業者に求められるのは，単なる個別の病者への配慮ではなく,「当事者が話しやすく，周囲が支えやすい職場のデザインである」という指摘は，本書の核心の一つだろう。

第３部では，疾患別にみる両立支援のポイントが，各研究班・学会で作成された手引きや留意事項を用いて整理されている。現場で，まさに対応が迫られているケースに照らし，該当箇所から読み始めることも推奨される。

さらに本書は，両立支援と人的資本経営の接点を示している。状況の変化に応じて業務内容や働き方を柔軟に見直す視点は，健康の維持・回復を通じて，人材の潜在力を引き出し，組織そのものの持続可能性につながる。「組織を相互扶助の場へとアップデートする好機」と両立支援を位置づけており，経営層や管理職にも精読を勧めたい。



江口 尚 著
日本生産性本部労働情報センター，
2026年７月，A５判，254頁，
2,750円（税込）

いとう めいが
株式会社朝日新聞社 健康政策統括ディレクター，東京本社産業医

Books

水俣病

原田 正純 著

水俣病の教訓を伝える

椎名 和仁

現在，各自治体では補助金を活用しながら2027年末までに蛍光灯からLED照明に交換することを推奨している。これは「水銀に関する水俣条約第５回締約国会議」に基づくものであり，水俣病の教訓が活かされていると言える。そのため今回は著書・「水俣病」を紹介してみる。著者である医師・原田正純（医学博士）氏は水俣病研究者の第一人者として広く知られ，その研究実績は日本の水俣病に留まらず，カナダ・中国・ブラジルなど世界中の水銀中毒症，三井三池炭鉱事故の一酸化炭素中毒症，カネミ油症，土呂久のヒ素中毒，ベトナムの枯葉剤被害など多岐にわたる。2012年６月に77歳で逝去された際には追悼番組をはじめ，多くの追悼コメントが寄せられた。

本書は1972年に発刊以来，53年以上が経った現在でもなお改訂版が出版され続けているが，執筆を依頼された時，原田医師（発刊時：38歳）は躊躇したという。その理由は２つあった。１つ目は当時水俣病の全貌がようやく明らかになりつつあったが，患者に対する補償までの課題は山積みであった。２つ目は水俣病が大きな社会問題として発展していき，執筆や講演に時間を割いてしまうと現地に出向くことができず，苦しんでいる患者を救えなくなるという呵責を感じていた。さらに水俣病について書くことは自身にとっても辛く苦しい作業であったという。しかし，原田医師は水俣で多大な犠牲を払って学んだ教訓を後世まで伝えるべきだと考え，執筆を決意した。

水俣病の始まりは1956年４月に幼児（５歳）が原因不明の激しい脳症状を訴え，新日本窒素肥料㈱（後にチッソ，現在はJNC）の附属病院に入院し，これを５月１日に水俣保健所に報告したことからである。当時，日本は高度経済成長の真っ最中で，チッソも著しく発展を遂げ，それによって水俣市の税収は50％を超え，地域の経済や行政に大きな力を持っていた。だが，工場の排水付近で汚水が酷く，魚が大量死したり，猫が狂ったように踊りながら死んでいく不可解な現象が起こっていた。住民たちは汚水が原因だと気づいていたが，それを口に出すことはタブーであった。ところが，幼児の入院以降，次々と奇病を訴える患者が現れた。1956年８月に熊本大学で水俣病医学研究班が結成され，後に公衆衛生院も加わり水俣病との長い闘いが始まるのである。1963年２月，水俣病の原因は工場排水のメチル水銀で，それに汚染された魚や貝を人が食べることで人体に入り，中毒性の神経疾患を引き起こすことが入鹿山（いるかやま）教授ら（熊大）によって解明された。ただ，水俣病の原因を特定するまでには反論（重金属説，伝染病説，爆薬説）が寄せられ，因果関係の立証に時間を要したのである。さらに胎児性水俣病が発見され，メチル水銀との因果関係を調べるには幼児の死を待って解剖するしかなく，辛くて悲しい出来事だった。16名が胎児性水俣病と認定されたが認定されない子供も多く，また効果的な治療もなく空しさだけが残ったという。そして，水俣病の大きなヤマ場を越えたと思われた矢先，第二の水俣病として1965年６月に新潟県でも発症したのである。

1978年に水俣病患者の医療の向上を目的に国立水俣病研究センターが設立されたが，現在でも水俣病を完全に治すことのできる治療法は見つかっておらず，損害賠償や認定を求める裁判も続いている。



原田 正純 著
岩波新書，1972年11月，新書判，270頁，1,056円（税込）

しいな かずひと
大原記念労働科学研究所，協力研究員

ろうけん川柳

白髪も　年齢確認される　レジの前
（はなみずき）

後でやる　そういってから　もう3年
（意志の弱い男）

思い出は　蛍飛び交う　旅の宿
（永遠の旅人）

愛犬の　笑顔に今日も　癒されて
（誰よりも愛犬家）

ぬか喜び　して明日こそ　勝ちにいく
（明るい巨人ファン）

勝ちすぎて　不安が募る　こともある
（最近の阪神ファン）

長雨に　傘の花咲く　昼下がり
（雨上りが好きな女子）

AIを　使いこなして　胸を張り
（まじめな課長）

ドナルドは　アヒルのことかと　祖母が言い
（おばあちゃん子）

さっそうと　平和を語る　友がいる
（幸せな90歳）

〈ろうけん川柳　評〉

戦後の川柳界の立役者6人衆の4人目は川上三太郎（1891〜1968）です。東京・日本橋に生まれ、大倉商業学校を卒業後大倉洋行に入社、その後東京毎夕新聞に入社します。14歳で井上剣花坊の柳樽寺川柳会に所属、現在の川柳研究社の前身となる国民川柳会を発足させました。代表句は「貧乏を子もうすうすは知っている」。ユーモアにあふれています。

さて、（はなみずき）さん、川柳の世界を楽しんでおられて何よりです。今回は夫婦で投稿してくれた方、初めて川柳に挑戦された方の作品も掲載されています。作者を想像してお楽しみください。（おばあちゃん子）さん、アヒルのドナルドは世界で愛されています。幸せな90歳）さん、友情がいつまでも続きますように。
（水仙）

〈募集要項〉

①作品は一回につき三句まで。もちろん一句からお待ちしています。
②締切りは随時です。
③応募はFAX（03—6447—1436）か、メール（pulishing@isl.or.jp）でお願いします。
④応募時に、ご連絡先、ご所属、ペンネームをご希望ならその旨明記してください。
⑤掲載は編集部人選の選考会議で決定します。
⑥年間を通じて優秀作品を発表します。

次号（1月号：81巻1号）予定

特集　豊かな社会の実現を目指して新しい働き方に挑戦

スキマバイトから正社員の道へ……HTC株式会社

グローバル化の推進で人材育成を実現……ビズメイツ株式会社

巻頭言＜俯瞰＞……森　光子

労研アーカイブを読む・119……椎名和仁

株式と労働・4……坂本恒夫

タイプライターの歴史とタイピスト・23……三宅章介

凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］・20……福成雄三

「＃教師のバトン」で伝わる教職員の苛酷な勤務環境・48……藤川伸治

ドイツ職業教育分野での研究対象の変遷・1……高橋エスヴァイン三貴子

［ 編集雑記 ］

○巻頭言の筆者には，「軽労働化で農業の再生」というタイトルで11回にわたって，日本の農業の実態と課題について連載して頂きました。「農業は国の宝」をキーワードに「全員参加型の農業再生を！」という筆者の熱い思いが伝わり，反響も大きい連載でした。

○農業労働に対する労働科学の面からの弊所の研究は，1930年に始まります。農業の疲弊が気がかりな今，「農村住民の生活の主要部分は農業労働であるから生活の向上，健康の増進を目標とする研究は生活の根幹であり，農業労働の本質を度外視することは許されない」という暉峻儀等の言葉をあらためてかみしめています。

○今号の特集も時代を先駆ける企業の登場です。製造業における人材の育成や雇用の安定に力を入れている人材サービス企業のさまざまな挑戦を，楽しみながら読んで頂ければと思います。

○現在表紙を飾ってくださっている本城義雄先生の前に２年にわたってご協力頂いた菅沼緑先生の個展が岩手県岩手町の「石神の丘美術館」で開催中です。会場の入り口に「労働の科学」が数冊置かれていて嬉しくなりました。「労働の科学」は人と出会う贅沢を教えてくれました。　（N）

［ 購読のご案内 ］

○本誌購読ご希望の方は
直接下記あてにご予約くださるのが便利です。

購読料　1ヵ年 13,000円（税込，送料労研負担）

振　替　00100-8-131861
発行所　大原記念労働科学研究所
〒170-0005
東京都豊島区南大塚2-26-7
ME新大塚ビル10F
TEL. 03-6447-1330（代）
FAX. 03-6447-1436
労研ホームページ　http://www.isl.or.jp/

労　働　の　科　学　©
第80巻　第12号　（12月号）
定　価　1,200円　本体1,091円
（乱丁，落丁はお取り替えいたします。）

労働の科学：第80巻

総　目　次

1号　特集：芸能従事者の働き方を考える

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
仲間に支えられた闘い…… 武田　仁　1
＜特　集＞
特別インタビュー…… 森崎めぐみ　5
＜〈シリーズ〉日本スポーツ健康科学学会における職域の熱中症予防の取り組み（8）＞
炎天下でヘルメットをかぶって仕事をされる方の熱中症対策…… 谷澤直人　12
＜ILOインド南アジア産業安全保健通信（25）＞
ILO世界安全衛生デーにおけるテーマの変遷…… 川上　剛　15
＜「＃教師のバトン」で伝わる（39）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治　18
＜グリーフケアとリーガルケア（6）＞
災害編…… 細川　潔　21
＜タイプライターの歴史とタイピスト（13）＞
―戦前におけるタイピストの状況―… 三宅章介　24
＜芸能従事者の今（22）＞
安衛法の改正と芸能従事者の熱中症対策…… 森崎めぐみ　37
＜銀行と労働（3）＞
米国ウェルズ・ファーゴおよび日本郵政の顧客情報流用事件…… 坂本恒夫　43
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］(8)＞
メンタルヘルス問題について考える①
～組織マネジメントの問題だと思う～
…… 福成雄三　46
＜労研アーカイブを読む（107）＞
ルネ・サンドの「社会医学の原理」下巻を読む…… 椎名和仁　48
＜BOOKS＞
『假面の告白　初版本復刻版』
三島由紀夫生誕100年の記念本 …… 椎名和仁　56
＜勞働科學のページ＞…… 57
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

2号　特集：魅力の図書館探訪①

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
農に生きる…… 高原久美　1
＜特　集＞
人生の１頁をめくることができる場所
…… 編集部　4
＜特別寄稿（1）＞
児童養護施設の労働問題
―労働組合の有無別の調査から…… 堀場純矢　8
＜〈シリーズ〉日本スポーツ健康科学学会における職域の熱中症予防の取り組み（9）＞
熱中症予防指導士としてメーカーとユーザーをつなぐ架け橋に…… 下村寿邦　14
＜ILOインド南アジア産業安全保健通信（26）＞
アフガニスタンにおけるオンライン中小企業支援ワークショップ…… 川上　剛　16
＜「＃教師のバトン」で伝わる（40）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治　19
＜軽労働化で農業の再生（8）＞
農業における運搬作業の軽減対策
各論第７回…… 宇土　博　23
＜タイプライターの歴史とタイピスト（14）＞
―戦前におけるタイピストの養成と労働問題―…… 三宅　章介　33
＜つれづれなるままに＞
「コメ」について考える―最近のニュースから…… 千葉百子　47
＜銀行と労働（4）＞
メガバンク，暴力団融資事件…… 坂本恒夫　50
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］(9)＞
メンタルヘルス問題について考える②
～ストレスチェック制度の効果検証～
…… 福成雄三　52
＜労研アーカイブを読む（108）＞
地域保健の実践者，小宮山新一
その１「保健婦読本」について…… 椎名和仁　54
＜BOOKS＞
『あらゆることは今起こる』
当事者からの景色を通して考える，他者への理解…… 矢野功二　62
『どうする!? 職場のアルコール問題対策 予防・対応・リワーク支援』
職場のアルコール問題を「個人の問題」で終わらせない ―― 組織的対策実践の手引き…… 西浦千尋　63
『困りごと解決のための産業医実務Q&A』
実務に悩んだ時の頼りになる道しるべ
…… 長濱さつ絵　64
『東京大空襲を指揮した男 カーティス・ルメイ』
平和について考える…… 椎名和仁　65
＜勞働科學のページ＞…… 66
＜ろうけん川柳＞…… 67
＜次号予定・編集雑記＞…… 68

＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

3号　特集：災害を他人事にしないために(3)

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
連載を終えて…… 細川　潔　1
＜特　集＞
能登はやさしや土までも―能登半島地震を忘れない…… 編集部　5
＜特別寄稿（2）＞
児童養護施設における労働組合の役割―労働組合の有無別にみた職員の意識…… 堀場純矢　10
＜〈シリーズ〉日本スポーツ健康科学学会における職域の熱中症予防の取り組み（10）＞
熱中症予防指導士活動報告…… 齊藤雄司　20
＜ILOインド南アジア産業安全保健通信(27)（最終回）＞
インド・南アジアにおける産業安全保健の進展とこれから…… 川上　剛　24
＜「＃教師のバトン」で伝わる（41）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治　27
＜タイプライターの歴史とタイピスト（15）＞
―タイピスト等に見る職業婦人とは何か―…… 三宅章介　34
＜銀行と労働（5）＞
HSBC，北陸銀行，ロシア銀行によるマネー・ロンダリング事件…… 坂本恒夫　51
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（10）＞
メンタルヘルス問題について考える③～ストレスチェック制度の効果検証（続き）～ …… 福成雄三　54
＜KABUKI＞
新作歌舞伎 刀剣乱舞～月刀剣縁桐～東鑑雪魔縁
歌舞伎で生きる人たち　その廿六―凪ぐ心，光待つ影…… 湯淺晶子　56
＜労研アーカイブを読む（109）＞
地域保健の実践者：小宮山新一
その2「新訂　保健婦読本」について… 椎名和仁　58
＜BOOKS＞
『ユーミンと「14番目の月」荒井由実と女性シンガー・ソングライターの時代』
自立した女性像…… 椎名和仁　65
＜勞働科學のページ＞…… 66
＜ろうけん川柳＞…… 67
＜次号予定・編集雑記＞…… 68
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

4号　特集：働く人のメンタルヘルスを考える(3)

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
熱中症の連載を終えて…… 石井賢治　1
＜特　集＞
職場におけるセルフケアとセルフマネジメント～RPGに例えて考える～…… 山田圭介　4
職場におけるメンタルヘルス戦略－セルフケアとコンパッションの活用－…… 藤枝砂月，浅野憲一　8
＜特別寄稿（3）＞
児童養護施設の労働問題を改善するための課題…… 堀場純矢　13
＜軽労働化で農業の再生（9）＞
農業における調製出荷作業―座作業の軽減対策を中心に　各論第８回…… 宇土　博　18
＜つれづれなるままに＞
もう一度読みたい『沈黙の春』のことなど…… 千葉百子　34
＜労研アーカイブを読む（110）＞
Safety Firstと安全第一（1）
－日本製鉄とUSスチール発足の経緯－…… 椎名和仁　40
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（11）＞
メンタルヘルス問題について考える④～ストレスチェックと心の健康～…… 福成雄三　48
＜銀行と労働（6）＞
LIBOR不正操作事件…… 坂本恒夫　50
＜BOOKS＞
『おみやげと鉄道「名物」が語る日本近代史』
日本のお土産文化…… 椎名和仁　53
＜勞働科學のページ＞…… 55
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

5号　特集：多様性を生かす社会を目指して―外国人労働者とともに

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
多様な人材の確保と活躍を誰がどのように支えていくのか…… 松田文子　1
＜特　集＞
多文化共生の実現のために　働く人はみんな仲間…… 本多ミヨ子　5
排外主義と外国人の権利…… 田中　淳　9
＜「＃教師のバトン」で伝わる（42）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治　14
＜タイプライターの歴史とタイピスト（16）＞
―〔事例〕菊武学園におけるタイピスト養成の展開と卒業生の手記―…… 三宅章介　17
＜つれづれなるままに＞
農薬裁判と省農薬ミカンのお話…… 千葉百子　34
＜銀行と労働（7）＞
死さえ招くウオール街若手銀行員の猛烈な働き方…… 坂本恒夫　38
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］(12)＞
メンタルヘルス問題について考える⑤～ストレスチェック義務化に対する疑

問〜…… 福成雄三 40
＜労研アーカイブを読む（111）＞
Safety Firstと安全第一（2）
－Safety Firstの起源と鉄鋼王の直話－
…… 椎名和仁 42
＜BOOKS＞
『リーダーシップ理論の新機軸 スポーツマネジメントと組織論のダイナミズム』
スポーツ組織の改善策を最新研究に基づき提言…… 岸田孝弥 51
『ヒューマンエラーを読み解く 産業事故を中心として』
望ましい事故調査の在り方とその対策
…… 椎名和仁 52
＜労働科學のページ＞…… 54
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

6号　特集：子育ての輪を地域に広げて　人生を後回しにしない子育てを

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
サマルカンドの思い出…… 福島　章 1
＜特　集＞
特別インタビュー…… 佳山奈央 4
＜つれづれなるままに＞
女優沢村貞子と築地…… 佐藤友美子 10
＜「＃教師のバトン」で伝わる（43）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治 15
＜タイプライターの歴史とタイピスト（17）＞
―学習指導要領と愛知県立春日井商業高等学校におけるタイプライティング学習の展開―…… 三宅章介 18
＜銀行と労働（8）＞
リスク潜む＜大谷翔平時代＞の働き方
…… 坂本恒夫 36
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（13）＞
メンタルヘルス問題について考える⑥
〜ストレスチェック義務化を活かせるか〜…… 福成雄三 38
＜KABUKI＞
彦山権現誓助劔
歌舞伎で生きる人たち　その廿七―花の影　息ひそめては　身に宿す…… 湯淺晶子 40
＜労研アーカイブを読む（112）＞
Safety Firstと安全第一（3）
－ゲーリー製鉄所－…… 椎名和仁 42
＜BOOKS＞
『心理学の教科書　行動の背景がわかればもっと面白い！』
最新の知見を広く学べる一冊…… 岸田孝弥 51
『魔睡』
鷗外豊熟期の作品…… 椎名和仁 52
＜労働科學のページ＞…… 53
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

7号　特集：「承認」をキーワードに今という時代を語る

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
労研で学んだ「ヒューマンエラー」の視点…… 西村春輝 1
＜特　集＞
特別インタビュー…… 暉峻淑子 5
＜「＃教師のバトン」で伝わる（44）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治 10
＜軽労働化で農業の再生（10）＞
農業における調製・出荷作業場（選果場）の軽減対策について　各論第９回
…… 宇土　博 13
＜タイプライターの歴史とタイピスト（18）＞
―高等学校商業科と専門学校における文書作成の指導―…… 三宅章介 25
＜銀行と労働（9）＞
社会に開かれた「経営者教育」・「社員教育」を…… 坂本恒夫 42
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（14）＞
メンタルヘルス問題について考える⑦
〜「指針」は参考にしながらも〜…… 福成雄三 46
＜労研アーカイブを読む（113）＞
Safety Firstと安全第一（4）
―足尾銅山における「安全専一®」―
…… 椎名和仁 49
＜BOOKS＞
『心配学 「本当の確率」となぜずれる？』
心配の種を抱えている人必読の一冊… 岸田孝弥 61
『坑夫』
心境の変化を鮮やかに描写…… 椎名和仁 62
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

8号　特集：企業の明日に会いに行く

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
グローバリズムと地政学―労働者の人権に配慮はされているか―…… 坂本恒夫 1
＜特　集＞
色覚特性を生かし，可能性に挑む
プロダクトデザイナー 内田 成威さんに聞く…… 株式会社 博報堂プロダクツ 6
日本一幸せな会社を目指して…… HTC株式会社 10
＜芸能従事者の今（23）＞
芸能従事者の労災傾向
―令和７年度の事例からみる―…… 森崎めぐみ 15
＜軽労働化で農業の再生（11）（最終回）＞
まとめ…… 宇土　博 22

＜つれづれなるままに＞
今，話題のレアアースのお話…… 千葉百子 38
＜銀行と労働（10）＜最終回＞＞
銀行員とAI…… 坂本恒夫 46
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（15）＞
メンタルヘルス問題について考える⑧
～筆者が取り組んだこと～…… 福成雄三 48
＜労研アーカイブを読む（114）＞
Safety Firstと安全第一（5）
「工場法」と「安全第一協会」…… 椎名和仁 51
＜勞働科學のページ＞…… 60
＜BOOKS＞
『倫理学講義（第一巻）』
真の自己を知る…… 椎名和仁 62
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

9号　特集：医療現場で働く人たちは今

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
人権を守るということ―配偶者と労働災害…… 本多ミヨ子 1
＜特　集＞
特別インタビュー
日本医療労働組合連合会 佐々木悦子委員長に聞く…… 日本医療労働組合連合会 5
＜芸能従事者の今（24）＞
芸能従事者の働き方と制度
―カンボジアとの国際対話―…… 森崎めぐみ 11
＜「＃教師のバトン」で伝わる（45）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治 15
＜タイプライターの歴史とタイピスト（19）＞
―高橋エスヴァイン三貴子教授によるドイツ語タイプライターについての寄稿―…… 三宅章介 18
＜つれづれなるままに＞
今，気になるリチウムのお話…… 千葉百子 37
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（16）＞
マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で①～…… 福成雄三 40
＜労研アーカイブを読む（115）＞
Safety Firstと安全第一（6）
安全第一と幸福増進…… 椎名和仁 43
＜勞働科學のページ＞…… 56
＜BOOKS＞
『職業がん』
職業がん研究の歴史と現在を簡明に解説…… 圓藤吟史 61
『チョコレートのイギリス史 企業フィランソロピーの源流』
「キットカット」の奥深い味わい …… 椎名和仁 62
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

10号　特集：リモート・ワーク・AI・職業ロボットから見えてくる労働の未来 －「働き方の未来を50人が読む」４回の調査の総括と今後の課題－

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
「働き方の未来を50人が読む」調査回顧と課題…… 濱野　潤 1
＜特　集＞
「働き方の未来を50人が読む」プロジェクトチーム
（北島洋樹 代表執筆）
…… 公益財団法人大原記念労働科学研究所
濱野　潤（代表），石井賢治，北島洋樹，
酒井一博，福島　章，松田文子，
湯淺晶子，余村朋樹 4
＜芸能従事者の今（25）＞
「技芸」をめぐるこども性暴力防止法
―芸能分野における課題―…… 森崎めぐみ 18
＜「＃教師のバトン」で伝わる（46）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治 23
＜タイプライターの歴史とタイピスト（20）＞
―愛知享栄学園におけるタイピスト養成と卒業生及びその関係者との対談―…… 三宅章介 26
＜株式と労働（1）＞
従業員自社株保有制度…… 坂本恒夫 43
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（17）＞
マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で②～…… 福成雄三 46
＜労研アーカイブを読む（116）＞
労働科学研究所と国立公衆衛生院（1）
公衆衛生学と予防医学…… 椎名和仁 49
＜BOOKS＞
『冬眠の生命科学』
驚くべき生存戦略の謎に挑む 研究者を目指すあなたへ…… 斉藤　進 59
『医療機関における産業保健活動の手引き―基本知識から実践まで―』
実効性の高い活動・実務を支える絶好の手引書…… 川波祥子 60
『興津弥五右衛門の遺書』『こころ』
近世と近代のはざまの中で…… 椎名和仁 61
『労研饅頭ものがたり』
倉敷労研で生まれた饅頭をめぐるヒューマニストたち…… 斉藤　進 62
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

11号　特集：企業の明日に会いに行く（2）

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
歪められた第６次男女共同参画基本計

画…… 小畑雅子 1
＜特　集＞
「お互いさま精神」の会社経営を推進
…… 株式会社横引シャッター 5
＜芸能従事者の今（26）＞
個人事業者の組織化の実践…… 森崎めぐみ 10
＜「＃教師のバトン」で伝わる（47）＞
教職員の過酷な勤務環境…… 藤川伸治 14
＜タイプライターの歴史とタイピスト（21）＞
―トーマス・S・マラニー著『チャイニーズ・タイプライター』と巣宇燕教授のコメント及びエピソード―…… 三宅章介 17
＜株式と労働（2）＞
株価形成と労働，株価はどう決まる… 坂本恒夫 36
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（18）＞
マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で③～…… 福成雄三 40
＜労研アーカイブを読む（117）＞
労働科学研究所と国立公衆衛生院（2）
結核とBCGワクチン …… 椎名和仁 43
＜勞働科學のページ＞…… 52
＜BOOKS＞
『実務に生かす 働く女性の健康支援Q&A』
現場で迷うことなく対応できる，頼れる実務ガイド…… 田中　完 61
『文章が劇的にウマくなる「接続詞」』
『20代からの文章読解』
文章力と読解力を高める本…… 椎名和仁 62
＜ろうけん川柳＞…… 63
＜次号予定・編集雑記＞…… 64
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

12号　特集：企業の明日に会いに行く（3）

＜巻頭言　俯瞰（ふかん）＞
後継者不足による農家の消滅と飢餓の処方箋―人間工学の軽労働化で全員参加型の農業再生を―…… 宇土　博 1
＜特　集＞
ライフステージが変わっても働き続けられる職場を実現… エヌエス・テック株式会社 6
＜芸能従事者の今（27）＞
健康診断受診の障壁を超えて―個人事業者の受診率を高めた団体の取組み
…… 森崎めぐみ 11
＜タイプライターの歴史とタイピスト（22）＞
―文芸作品見るタイプライターとタイピスト―…… 三宅章介 16
＜株式と労働（3）＞
派遣社員の登場…… 坂本恒夫 34
＜凡夫の安全衛生論議［疑問と思い込み］（19）＞
マネジメントシステムの認定・認証
～安全衛生管理を担う中で④～…… 福成雄三 36
＜つれづれなるままに＞
塗り潰された「モネの池」
東京・井の頭公園　アオコ大量発生
悪臭の懸念も…… 千葉百子 39
＜労研アーカイブを読む（118）＞
労働科学研究所と国立公衆衛生院（3）
大原孫三郎と暉峻儀等 …… 椎名和仁 43
＜勞働科學のページ＞…… 52
＜BOOKS＞
『治療と仕事の両立支援』
支援に関わるすべての人へ贈る渾身のメッセージ…… 伊東明雅 55
『水俣病』
水俣病の教訓を伝える…… 椎名和仁 56
＜ろうけん川柳＞…… 57
＜次号予定・編集雑記＞…… 58
＜労働の科学：80巻　総目次＞ …… 59
＜表　紙＞
表紙：本城義雄
表紙デザイン：大西文子

建設現場に共通した安全で健康な建設仕事の
進め方のポイントを丁寧に解説し、
現場の状況に合わせて取り組める改善アクションを提案

シリーズ最新刊！ 全頁カラー

建設現場の作業改善チェックポイント

Work Improvement　For Small Construction Sites

発行●国際労働機関（ILO）　編集●川上剛（Tsuyoshi Kawakami）
協力●全国建設労働組合総連合東京都連合会
＜訳＞仲尾豊樹　小木和孝　佐野友美



〔構成〕
建設現場の計画とレイアウト
高所作業
機器と電気の安全な使用
資材の取り扱いと保管
作業場環境
福利設備
作業編成とトレーニング
その他の安全な作業手順
〔資料〕
建設現場改善活動の手引き

図書コード ISBN 978-4-89760-338-4 C 3047
A4判 136 頁　定価 1,980円 (税込み)

好評既刊！ 全頁カラー

■医療職場の人間工学チェックポイント
人類働態学会編集　A4判　定価1,980 円（税込み）

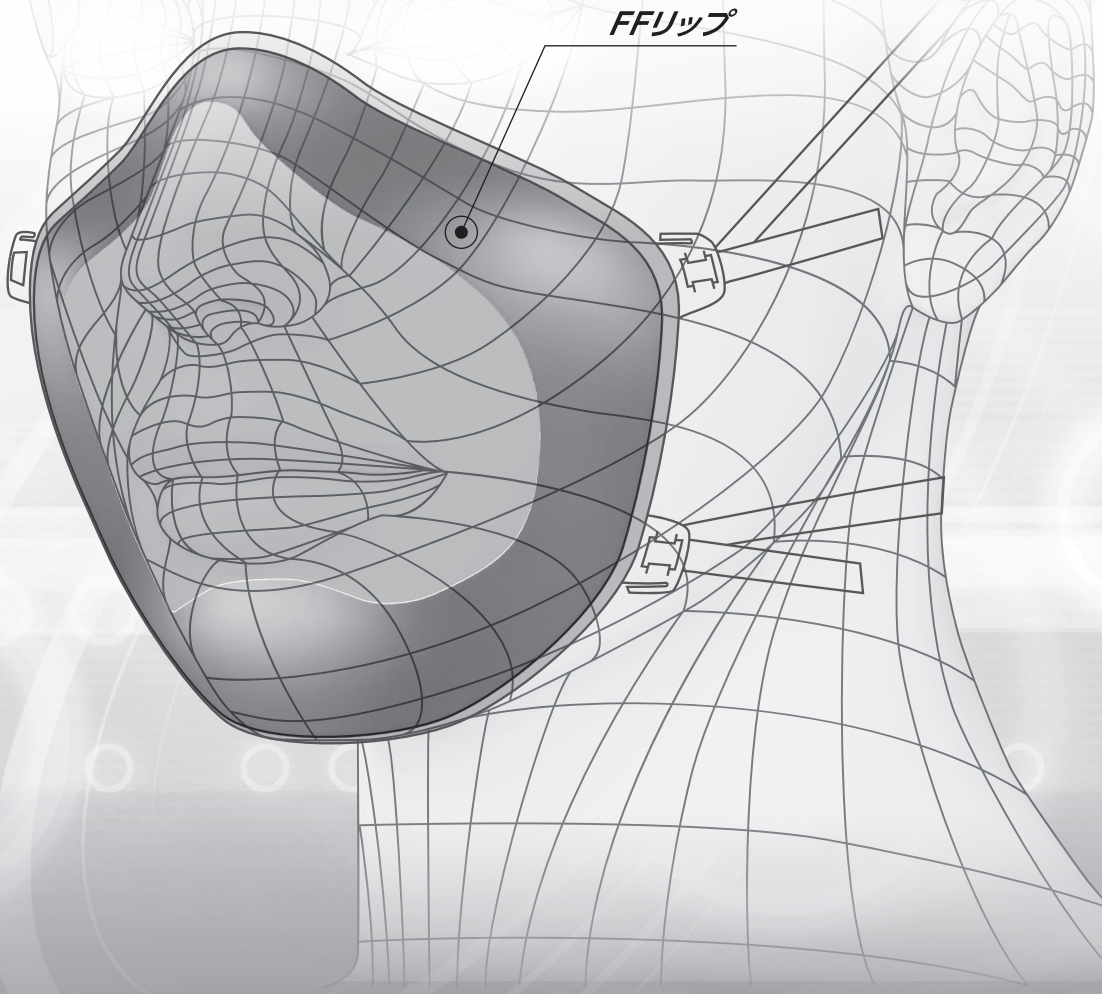
■人間工学チェックポイント第2版
ILO 編集　A4 判　定価 2,750 円（税込み）

■職場ストレス予防チェックポイント
ILO 編集　A4 判　定価 1,320 円（税込み）

■これでできる参加型職場環境改善
カイ・川上・小木著　B5 判　定価 1,320 円（税込み）

公益財団法人
大原記念労働科学研究所
〒 151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12 桜美林大学内 3F
TEL：03-6447-1435 FAX：03-6447-1436

KOKEN



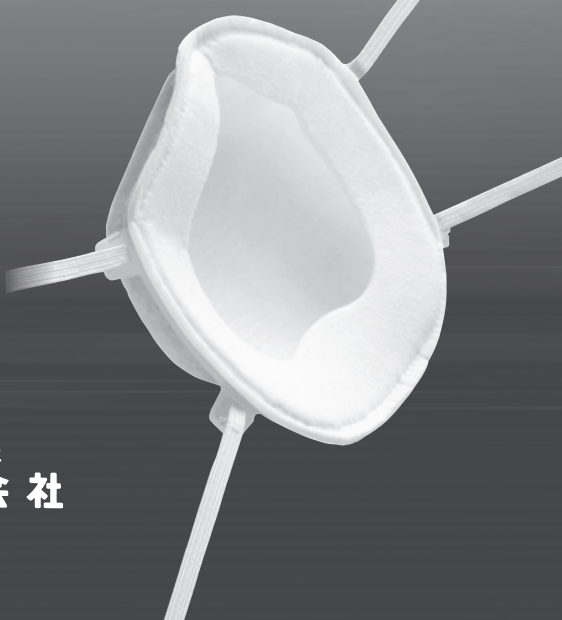
フィット性能で選ぶなら。

興研オリジナル

フィットを向上させる3次元構造のFFリップ

サカヰ式

ハイラック シリーズ



顔のカーブに合わせたしなやかなFFリップは、
密着性が高く、顔の動きに追随しやすい設計のため、
顔に自然になじんで「ぴったりフィット」を実現します。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

興研株式会社

シゲマツ
創業1917年

化学物質のリスクアセスメント
化学物質のばく露防止に！



リスクアセスメント対象物を製造又は取扱う事業場では、
リスクアセスメントを実施する必要があります。
リスク低減措置として個人用保護具を使用する場合は、作業環境中の
有害物質やばく露限界濃度等に応じて、有効な個人用保護具を使用します。



フィットテスト

MNFT PRO
マスク内圧・フィッティングテスター



JIS T 8150:2021
フィットテスト対応

密着性を視覚化



フィットテストの使用例

リスクアセスメントに基づくリスク低減措置として、
面体を有する呼吸用保護具を労働者に使用させるときは、
JIS T 8150:2021「呼吸用保護具の選択、使用及び保守管理方法」
に定める方法又はこれと同等の方法によって、
1年以内ごとに1回、定期に、フィットテストを実施します。

皮膚障害等防止用保護具

装着例



皮膚等障害化学物質の製造又は取扱い時には、厚生労働省
「皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアル」を参考に、
化学物質の有害性に応じて、不浸透性の保護衣、保護手袋、
保護眼鏡又は履物等の適切な保護具を使用します。

株式会社 重松製作所
SHIGEMATSU WORKS CO., LTD.
www.sts-japan.com
本　社　〒114-0024 東京都北区西ケ原1-26-1
TEL 03(6903)7525(代表)

化学物質の
リスクアセスメント
専用お問い合わせ

化学物質の
リスクアセスメント
リーフレット

二〇二五年十二月一日発行（毎月一回一日発行）
編集人／永田佳
発行人／堀　潔
発行所／大原記念労働科学研究所
（〒170-0005）東京都豊島区南大塚二-二六-七　ME新大塚ビル一〇階
定価一、二〇〇円
本体一、〇九一円
（年ぎめ一三、〇〇〇円）

雑誌コード　09727-12
4910097271251
01091